

九 湖南地方ニ於ケル南北両軍間抗戦ノ際ノ日本側被害一件 .....四五〇

一〇 湖北省宜昌ニ於ケル日本側被害一件 .....四八九

一一 間島撤兵ニ関スル件 .....五二一

(出兵ニ至レル事情及経緯ヲ含ム)

一二 中国内政関係雑件 .....五九七

附録 日本外交文書大正十年第二冊日附索引

## 事項一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ関スル件

一 一月九日 在中国小幡公使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

山東問題ニ関シ外交部特派直隸交渉員祝惺元

ヨリ開談ノ方法ニ付徳川書記官ニ相談アリタ

ルニ因リ請訓ノ件

第一一号(極秘)

客年往電第一二五五号ニ關シ

一月七日祝惺元特ニ徳川ヲ私宅ニ來訪シ前日来京顔総長ヲ

私邸ニ訪ヒ再ヒ山東問題ニ關シ熟談シタルガ顧維鈞ヨリハ

既ニ内々直接交渉ニ異存ナキ旨ノ電報來リ居リ和約研究会

方面モ大体ノ了解付キ居リ曹巡閱使側モ之ニ反対ナキコト

祝ニ於テ確信アリ巡閱使側ハ格別ノ反対ナカルヘク旁以テ

極メテ内密ニ本件ニ関スル協議ヲ試ムルノ時機將ニ到レル

モノト思ハルル処外交總長ト公使トノ間ニテハ如何ニ非公

式ニモセヨ何分角立チテ面白カラザルニ付其ノ方法ニ付先

以テ相談ニ來リタル次第ナルガ仮令公然トナクトモ日本側

ノミヨリ先其ノ讓歩程度ノ提示ヲ求ムルノ無理ナルコトハ

ルガ自分咄嗟ノ思附トシテハ全然両国政府若クハ外交部及

公使館ニモ何等關係ナク即チ名実トモニ純然タル私談トシ

テ一ト口ニ山東問題ト謂フモ此際西国間ニ解決ヲ要スル事項ハ抑モ何々ナリヤフ先以テ決定スルヲ第一歩シ次ニ右各事項ニ対シ何レヨリ先ニ讓歩程度ヲ示スト謂フカ如キ堅苦シキコトデナク唯友人間ノ試案トシテ二人共同シテ一ノformulaヲ作り見ルコトシ少シク纏マリタルモノ出来タル節ハ試ミニ貴方ハ外交總長乃至貴國政府ニ我方ハ公使乃至帝国政府ニ提出シ孰レヨリカスルモノニテハ到底交渉ノ基礎タルヲ得ズト云ハルレバ吾人ハ遺憾ナガラ之ヲ火中ニ投ジテ一笑シ去レバ可ナルベク夫レ迄ハ双方トモ全然政府ノ意嚮ニ関係ナク話ヲ進メ差支ナキカト思考ス併シ右ハ因ヨリ即座ノ思附ニ過ギズ果シテ斯カル事出来得ベキモノナリヤ否ヤ篤ト考量ヲ要スルニ付貸スニ數日ヲ以テセラレタシト答ヘ祝ハ其ノ意ヲ諒シ明日一旦天津へ帰ルニ付何分ノ返事ヲ待チ再ヒ上京シ若クハ来津ヲ求ムルコトトスヘシト述べ尚本件ハ外部者ハ勿論外交部内ニテモ何人ニモ告ゲザル次第ニ付徳川ニ於テモ嚴ニ何人ニモ語ラザル様希望スル旨繰返シ附言シ余談ヲ交ヘ退出シタル趣ニテ徳川ヨリ右顛末詳細報告ニ接セリ就テハ支那側ヨリ斯ノ如クロヲ切り來リタルヲ幸ヒ此際本件交渉ノ端緒丈ナリトモ附ケ置クコト

得策ト認メラルニ付大体前記徳川ガ祝ニ答ヘタル形式ニ依リ（我方ノ内実ハ終始必要ニ応ジ密カニ訓令ヲ仰クコト勿論ナリ）全然友人間ノ私的内話トシテ兩人ノ間ニ兔ニ角話ヲ進メシメ見タク存スル処右ニ御異存ナキヤ折返シ何分ノ御回示ヲ請フ尤モ仮令表面右ノ如ク私的懇談ノ形式ニ依ルトスルモ本使ニ於テ帝国政府力結局此處迄ハ讓歩スルモ已ムヲ得ズトセラル最後ノ腹及帝国政府ニ於テ最初持出スベントセラル我方ノ意嚮等成ルヘク詳細ニ承知シ置キ適宜徳川ニ指図ヲ与フルコト致シタキニ付右至急御垂示ニ与リタク但シ右ハ相當浩瀚ニ涉ルベキニ付御郵送ニテ差支ナキモ前記開談ノ可否ニ付テハ余リ程経サル内祝ヘ返答スル必要アルニ付右ニ閔シテハ可成速ニ電報ヲ以テ御回訓アリタシ尚具々モ本件ハ一切外間ニ漏洩セサル様特ニ御注意ヲ請フ

## 二 一月十八日 内田外務大臣ヨリ 在中国小幡公使宛（電報）

### 山東問題ニ関スル祝惺元ノ徳川ヘノ交渉開談

#### 方内話ニ對シ我方ノ態度回訓ノ件

##### 第二九号（極秘）

貴電第一号ニ閔シ篤ト考量ヲ遂ゲタルガ祝惺元ノ徳川ヘノ來談ガ全然祝一箇ノ発意ニ出デタルモノニハ非ズシテ実ハ顏總長ノ内意ヲモ啣ミタルモノナルハ祝ノ口吻ニ微スルモ明白ニシテ其ノ底意ニ於テ迅速直接交渉ノ端緒ヲ開カムトスルヨリモ寧ロ例ニ依リ一種ノ探リヲ入レ差当リ我解決方針ヲ探究シ進ムデハ我方最後ノ讓歩程度ヲモ知悉セムトスル魂胆ニ非ズヤト推セラル節ナキニ非ザル処御承知ノ通リ山東問題ニ付テハ帝国ハ從来頗ル苦キ経験ヲ有シ居リ即チ巴里講和會議ニ於ケル支那全権ノ態度挙措及ビ一昨年以来支那ニ於ケル日貨排斥等我方ニ対シ多大ノ不愉快ト損害トヲ与ヘタルモノニシテ要スルニ本問題ハ過去二年間ニ於ケル日支両國關係ノ円満ヲ欠ク所以ノ最大目的物ニ有之而シテ帝国政府トシテハ対独平和条約効力發生後直ニ支那政府ニ本問題解決方ニ閔スル交渉開始ノ議ヲ提出シ爾來不絶同政府ノ応諾ヲ得ル様努力シ来リタルニ不拘昨秋國際聯盟総会開会前迄ハ直接交渉開始ニ閔スル支那政府ノ意向極メテ曖昧ナリシガ該総会開会後四圃ノ形勢不利ト認ムルヤ始メテ同総会ニ本問題ヲ提起セザル旨ヲ明ニシタル始末ニテ最近ニ至ル迄同政府ニ於テ直接交渉ニ拠リ本問題ヲ解決

セントスルノ誠意アリトハ認メ難ク固ヨリ今回祝ノ來談ハ我実業家方面杯ト内交渉ヲ遂ゲントスルニハ非ズシテ直接公使館当局ニ開談シタルモノナルモ唯一種ノ探リヲ入ルノ底意ニ基クモノトセバ勿論我方ニ於テモ真面目ニ之ヲ取上グル必要ナク仮リニ先方ノ開談ニ応ズルトセンニ此場合我方ニ於テ相當讓歩ノ色ヲ示スニ於テハ先方ニ於テ直ニ之ヲ以テ将来ノ言質ト為スヤモ計リ難ク又仮令非公式ニセヨ直ルニ於テハ或ハ國際信義ヲ無視シテ日本ニ對スル惡声ヲ放ツタメ相当宣伝ヲ為スヤモ計リ難ク又仮令非公式ニセヨ直接交渉ノ談緒ヲ開カントスルモノナルニ於テハ先以テ支那政府部内ニ於テ篤ト熟機ヲ遂ゲタル上今回コソハ誠意直接交渉ヲ開クノ大方針ヲ決シタル上本問題ニ相応スル相当地位資格ノ人物ヲ經テ開談シ来ラザルベカラザル筋合ニ有之然ルニ何等右ノ如キ方針ノ決定ヲ見ルコトナク単ニ顔一己ノ思附トシテ一外交部吏員ヲ介シテ本案ノ如キ重大問題ノ談緒ヲ見出サントスルモノナルニ於テハ是レ到底我方ノ甘諾シ難キ處ナリ但シ帝国政府ニ於テハ支那政府ニシテ誠意直接交渉ノ方針ヲ採行スルニ於テハ之ヲ歓迎スルコト勿論ニシテ直ニ具体的交渉ニ入ルベキハ昨年一月以来本問題ニ

関シテ帝国政府ノ執リタル措置ニ拠リ明白ナル次第ナリ就テハ右篤ト御含ノ上徳川ヲシテ如上ノ趣旨ニ基キ祝ニ対シ可然説示セシメラレ殊ニ支那政府ニ於テ果シテ直接交渉ヲ探行セントセバ宜シク先づ大總統乃至内閣ノ議ヲ纏メラレタル上我方ニ開談シ来ラルベク左スレバ我方ニ於テモ直ニ応ジテ交渉ヲ開始スベキ旨指摘セシメラレタシ

三 一月二十日 在中国小幡公使（ヨリ） 内田外務大臣宛（電報）

祝惺元ノ山東問題内交渉開談ノ申出ニ對スル  
我方外務大臣ノ意向ヲ徳川ヨリ祝ニ伝達ノ件

第五八号（極秘）

貴電第二九号ニ關シ祝折好ク上京シ居リタルニ付一月二十日徳川同人ヲ自ラ訪問ノ上過日内談ノ次第ハ何分重要問題ナレバ実ハ其後一応本使ニ報告シ本使ヨリ極メテ内密ニ外務大臣ニ申送リタルニ昨日之ニ對スル大臣ノ意向回報ニ接シタル旨ヲ前提シタル上貴電御來示ノ主旨ヲ篤ト敷衍説明シタル處祝ハ自分申出デノ主旨ガ直ニ貴方ノ容ル所トナラザリンハ頗ル遺憾ナルモ右御話シノ意味ハ充分了解シタルニ付尚篤ト考慮ヲ加へ外交總長ノ意向ヲモ極メタル上更

### 第一九三号

山東問題ニ關スル日支ノ交渉ハ爾來停頓ノ姿ナルカ最近本問題ニ關スル論議支那新聞紙上ニ散見セラレ或ハ顧維鈞ヨリ本問題ヲ國際聯盟總会ニ提出スルハ其ノ時機ニ非ズ寧ロ日支直接交渉ヲ開クヲ可トス尤右ノ前提トシテ先づ山東沿線ヨリ日本守備隊ノ撤退ヲ要求スベシトノ電報支那政府ニ達シタルヤニ伝ヘラレ甚シキニ至テハ既ニ日本ハ直接交渉促進ニ關スル条件トシテ「償却期限ニ達セル借款期限ノ延期」（）渾春事件ノ讓歩（）支那現内閣及其政治家系統ノ勢力維持等ヲ提言スヘントノ浮説ヲ伝フルモノアリ殊ニ最近在京米国系機関通信社ノ如キ外交界ノ確聞ナリトテ直接交渉速進方ニ關スル訓令小幡公使ニ到達セル旨ヲ報シ其後我公使館ノ注意ニ依リ之ヲ取消シタル趣ニテ前記顧維鈞來電ノ如キモ真否頗ル疑ハシキモ最近本問題ニ關スル論議又ハ宣伝的報道漸ク旺ナラムトスル模様アリ實ハ先是一外交部員ヨリ我公使館員ニ對シ全然右両人ノ友誼關係ニ依リ本問題ニ關シ何等カノ談緒ヲ見出シ度旨内議シ来レルコトアリ而モ外交總長ノ内意ヲモ啣ミタルモノナリトノコトナリシガ次テ山東督軍モ予テ親交アル某実業家ニ對シ前記同様ノ口

ニ何分ノ配慮ヲ請フコトモアルベシト答ヘ併シ如何ニ非公式ニモセヨ支那政府ガ支那政府トシテ直接交渉ニ応ズル旨ヲ日本政府ニ答ヘタル上ニアラザレバ如何ナル協議モ為シ得ズトセバ矢張リ最初ヨリ政府ト政府トノ交渉ト云フコトニナリ支那目下ノ国情ニ於テ斯カル拗レニ拗レタル問題解決ノ端緒ヲ得ル方法トシテハ甚ダ適當ナラザル様思ハレスケテハ本問題ハ手ノ附ケ様ナキニ至ルベシト附言シタルニ付徳川ハ本件ニ關スル日本政府從来ノ苦キ経験ニ顧ミ大臣ノ意見ハ尤至極ナル旨更ニ繰返シ詳説シ尚帝国政府ハ支那政府ノ的確ナル決意サヘ明ナルニ至ラバ何時ニテモ交渉ニ応ズベキハ勿論ニシテ之ガ商議ノ方法ノ如キハ其ノ時ニ至リ如何様ニモ相談シ得ベク非公式ノ協議ヲ何等忌避スル次第ニアラザルニ付其ノ点ハ誤解ナキ様致度ク兎ニ角本件ハ御互ニ尚充分慎重ニ考慮スルコトトシタシト述べ引取リタル趣ナリ

四 三月二十日 在英國林大使宛（ヨリ） 山東問題直接交渉ニ對スル中國政府部内ノ動向及日本ノ方針等通報ノ件

吻ヲ仄メカシタル趣ナルモ我方ニ於テハ既往ニ於ケル苦キ経験ニモ顧ミ支那政府ガ直接交渉ニ依テ本問題ヲ解決セムトスル誠意ヲ明示セザル限り輕々シク本件ニ關スル談合ヲ甘諾シ難キ次第ニ付果シテ直接交渉ヲ行ハムトセバ大總統乃至内閣ノ決議ヲ經テ公式又ハ非公式ニセヨ其明確ナル決意ヲ我方ニ通スベク其節ハ我方ニ於テモ直ニ胸襟ヲ開キテ交渉ニ応ズベキ旨説示セシメ置キタル次第ナルガ右ノ事實並ニ前記宣伝的報道等ニ鑑ミ直接交渉説再ビ支那政府部内ニ擡頭シ来リタルモノノ如シ御参考迄在米仏伊大使ヘ転電アリタシ

五 四月十五日 在陸軍省軍務局兒玉少佐（ヨリ）  
附記 坂西少將ノ意見転達ノ件

山東鐵道沿線ニ於ケル日本軍隊ノ撤退ニ關スル意見

一、曩ニ平和會議ニ於テ山東問題ノ処分ニ關シ議定セラレタル條約ノ効力発生期ニ至リシ時帝國政府ハ支那政府ニ對シ先ツ大正九年一月十九日累次ノ声明ニ照シ膠州灣還

## 一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ関スル件 五

六

附其他山東善後問題並ニ山東大鐵道沿線日本軍撤退問題ニ就キ交渉ノ開始ヲ要求シ次テ獨乙ヨリ平和条約ニ基ク関係書類等ノ完全ナル引渡ヲ了シタル後更ニ同年四月二十六日前要求ノ督促ヲ試ミタルニ対シ支那政府ハ民論ニ庄セラレ未タ対独條約ニ調印セサルノ故ヲ以テ直ニ交渉ヲ行フニ便ナラストシ軍隊撤退ニ關シテハ対独戦争状態終了ノ今日軍事上ノ諸施設ヲ存置スルノ必要ナキヲ以テ日本軍ハ直ニ撤退セラルヘク然ラハ支那ハ直ニ巡警隊ヲ選派シ完全ニ鐵道ノ保護ニ任スヘシトノ意ヲ回答シ来リ先ツ我ヲシテ動カシメテ後之ニ応セントスル態度ニシテ其間誠意ノ認ムヘキモノナク爾後遷延今日ニ至ルノ已ムナキニ至レリ

二、爾來支那ニ於ケル民論依然トシテ緩和セラレス或ハ之ヲ國際聯盟會議ニ提出シテ再議ヲ要求スヘシト謂ヒ或ハ專ラ米國ノ後援ヲ得テ大正四年締結ノ日支協約二十一ヶ条ノ違法ヲ鳴ラシ聯盟會議ニ於テ之ヲ無効ニ帰セシメ本問題ト併セテ自然ニ葬リ去ラント主張スルモノ或ハ現下世界ノ國際關係ニ於テ之ヲ聯盟會議ニ訴フルモ成功ノ見込渺ク且却テ弊害ノ怖ルヘキモノアルニヨリ結局某程度

ルニ意アルモノノ如シ然ルニ山鐵沿線ノ我配兵ハ軍事占領ニ伴フ臨機ノ処置ニシテ対独媾和條約効力発生ノ今日尚之ヲ存置スルノ理由不充分ニシテ若シ依然現状ノ儘放置セラルニ於テハ偶々彼等ニ批難ノロ実ヲ与ヘ其企図ヲ助長シ帝国ノ國際的地位ヲシテ不利ナル狀態ニ陥ラシムルノ虞アリ故ニ我ハ此ノ際支那ニ何等カノ動機ヲ与ヘテ支那側ノ自覺ヲ促シ本問題ヲ以テ全然膠州灣還附問題ト区別シ先ツ逐次撤兵ヲ実行シテ内外ニ我真意ノ存スル処ヲ宣明シ以テ我立場ヲ明ニスルト共ニ引テ還附問題ノ交渉ヲ自然ニ促進スルノ策ニ出ツルヲ要ス

五、由來支那側カ本交渉ニ対シ疑懼ノ念ヲ抱キアルハ

A、撤兵ノ實行カ果シテ山東問題ト区別シ之ニ先チ実行セラルルカ或ハ之ト関連シテ根本問題ノ交渉ヲモ同時ニ強要セントスルモノナリヤ

B、日本政府ノ意ハ支那側カ準備スヘキ巡警隊ニ永久且

監督的ニ日本人ヲ傭入セシメ重要停車場ニモ此等監督官ヲ常置セントスルモノナリヤ

C、撤兵ニ附帶シテ同時ニ沿線多數都市ノ開放ヲ要求シ來ラサルヤ

一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ關スル件 五

迄日本ノ理解ヲ得テ直接交渉ニ移スノ有利ナルヲ思フモノ等アリテ現在ノ如キ無力ナル支那政府トシテハ宛ラ迷宮裡ニ彷徨シ自ラ之ニ處スルノ法ヲ究メス徒ラニ時日ヲ経過シアルノ状態ニ在リ

三、思フニ苟モ対独媾和條約ノ現存スル以上支那政府カ本問題ヲ聯盟會議ニ哀訴スレハトテ今更法理上之ヲ如何トモスル能ハサルハ勿論ナルヘキモ最近ニ於ケル日米間ノ國際政局ハ動モスレハ險惡ナル傾向ヲ生シ且米國ノ対支壳恩的政策ハ漸次具体化サレツツアル反動トシテ其各方面ニ於ケル排日的行為ハ時ニ接シテ其色彩ヲ濃厚ナラシメントスル趨勢ヲ示ス今日尚之ヲ現状ノ儘ニ放置センカ本問題ノ如キハ諸種ノ形式ニ於テ我野心ヲ云為スル材料トナリ複雜ナル問題ヲ惹起スルノ虞ナシトセ四、大正八年四月三十日首相會議ノ席上ニ於テ山東問題カ我要求通り最終的ニ決定後我全權ニ対シ「ウイルソン」カナシタル質議ノ口吻及國務卿「ランシング」カ事態ノ緩和策トシテ我ニ懲憲セル處及其態度其他輓近ニ於ケル米國輿論ノ趨勢ニ見ルモ大正四年ノ日支協約及同七年ノ日支取極ニ慊ラス支那ヲ支援シテ之カ破棄ヲ試ミントス

等ノ諸点ニアリ

本回支那外交總長顏惠慶カ坂西少將ニ託言セル処ニヨルニ支那政府ハ内心日本トノ直接交渉ニヨリ漸次本山東問題ヲ解決センコトヲ希望シ居ルコト勿論ナルモ前記ノ諸件其他青島還附ノ實質カ半ニ事實上街路ノミヲ申受クル結果ニ了ランコトヲ疑懼シ輿論ノ勃起ニ氣兼ネシ之ヲ敢テセサルモノニシテ此等ノ誤解ヲ釈クヘキ何等カノ提示ヲ日本側ヨリスルコトヲ暗ニ切望セリトノ事ナリ從來我當局カ表裏ヨリ各種ノ声言ヤ説明ヲ試ミタルモ尙彼等ヲ釈然タラシメ能ハサリシ点即チ此処ニアリ

六、依テ我トシテハ山鐵沿線撤兵実施ニ關シ必スシモ大正七年九月取極メノ如キモノヲ固守スルコトナク彼レノ疑懼心ヲ去リ而モ其実ヲ収ムヘキ主旨ニ則リ非公式ニ我真意ヲ支那側ニ伝ヘ其反省ヲ促シ相互ニ於テ左ノ如キ処置ヲ執ルヲ適當トス

A、支那政府ハ先ツ日本人ノ信賴シ鐵道運輸ノ保障ニ任シ得ヘキ巡警隊ヲ組織スル為メ巡警養成所ヲ特設ス之レカ為メ日本人ヲ聘用シ教育ノ任ニ当ラシム

B、鐵道巡警ト相待チテ鐵道沿線一帶ノ地方ニ於ケル治

(記註外欄)

# 一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ関スル件 五

八

安維持ニ任スル為メ支那側ニ於テ特ニ日本側ノ信頼スルニ足ルヘキ撰抜セル軍隊ヲ派遣ス而シテ之レカ当否ノ判定ハ目下支那政府ニ聘用セラレアル我軍將校ヲシテ之ヲ行ハシム仍ホ右支那軍隊派遣後相互ニ意思ノ疏通ヲ図ル為メ聯絡員トシテ為シ得レハ右支那軍隊内ニ日本將校ヲ聘用セシム

C、右撰抜支那軍隊ノ派遣ト共ニ鉄道沿線ニ於ケル帝国軍隊ヲ撤シ青島ニ集中ス但シ鉄道直接警察ニ必要ナル憲兵及軍隊ヲ駐ム

D、支那鉄道巡警ノ練成ニ伴ヒ逐次鉄道沿線ニ配置シ予テ鉄道直接ノ警察勤務ニ服セシ我兵員ト交代セシム

E、大正七年九月二十四日日支両國間ニ於テ取極メラレタル公文書ニ拠レハ山東問題處理ニ際シ帝國軍隊ハ濟南ニ一部隊ヲ殘留スル如ク掲ケアリ是等ハ其時ノ情況ニ応スルコト勿論ナルヘキモ必シシモ之ニ拘泥セス寧ロ全部ヲ青島租借地以内ニ集中スルヲ以テ機宜ニ適シタル处置トスヘシ

F、同公文書第四項ニハ巡警隊本部及枢要駅ニ日本国人ヲ聘用スルコトヲ掲ケアルモ已ニ巡警養成所ニ於テ我

邦人ヲ聘用シ其ノ教育ヲ担当セシムルニ至レハ之ヲ從來ノ経験ニ徴スルニ其被養成者ノ服務ノ実行ハ必スヤ該教育者ノ指導ニ待ツニ至ルヲ以テ最初ヨリ之ヲ主張シテ日本カ永久ニ鉄道警察ノ監督者タルヘシト云フ疑懼心ヲ抱カシメサル如ク彼レト折衝スルヲ可トセンノ協定ヲナシ実行ニ移ル

七、右ニヨリ支那側ニシテ我真意ヲ了解シ実行ノ誠意ヲ示スニ於テハ正式ノ交渉ヲ開キ之ニ移シテ取極ヲ了シ細部ノ協定ヲナシ実行ニ移ル

八、以上ノ要領ニ拠リ相互ノ意思疏通シ彼ノ疑懼心ヲ去リ我ニ何等侵略的野心ノ存セサルコトヲ了解セシムルトキハ更ニ進ンテ山東鉄道合辦ノ実施ニ移ルヲ可ナリト信ス而シテ其法種々アルヘキモ須ラク両国政府ノ監督下ニアル民間ノ一會社トシ日支両国人ノ享有スヘキ権利ヲシテ全然同一ナラシムヘキ理想的ナルモノナルヲ要ス

九、此ノ如ク軍隊ヲ撤退シ次テ鉄道合辦問題解決ノ緒ニ至ルヘク日支両國々際間ノ一障礙タリシ山東問題ハ事実的ニ且ツ部分的ニ漸次冰解スルニ至ルヘキヲ信ス (終)

註 本意見書ノ冒頭欄外ニ左ノ記載アリ

## 「坂西少将ノ意見（児玉友雄印）」

〔大正十年四月十五日児玉少佐ヨリ接受（芳沢局長花押）〕

（欄外註記）  
「六ノA、B、Cニ閑シ、斯ノ如クムバ撤兵即チ撤兵ニ非ズ吾人ノ所謂撤兵トハ丸腰トナルニ在リ右Cノ点ニ付四月廿五日坂西少将来訪ノ節憲兵軍隊ヲ駐ムルコトトセバ撤兵ニ非ザルベキ旨指摘シタル処同少将ハ右ハ支那巡警隊ノ派遣ナキ間ダケナリト答ヘタリ（芳沢局長花押）」

## （附記）

### 坂西少将意見中実行案ニ対スル疑問（亞細亞局調）

右意見書ハ山東沿線撤兵ノ急務ニ付述ヘラレタル前文ト其ノ実施案トハ全然矛盾セリ実施案ハ寧ロ撤兵延期案ナリ加之其ノ案ハ却テ支那側ヲシテ益々不安ヲ感セシムル案ナリ將又各項ニ付テモ大ニ疑アリ

(A) 巡警養成所ヲ特設スルハ可ナリ日本人ノ聘用ハ之ニ

限定スルハ不可ナリ教官ノ名ニ於テ主要駅ニ配置シ時

々各駅ヲ巡視シ支那巡警ノ不法ヲ監視シ且山鐵会社ノ推薦ニ拠ルヲ以テ巡警局ト会社トノ聯絡ヲ採リ得ヘキコトガ巴里協定了解ノ妙所ナリ

(B) 巡警隊ノ外ニ沿線一帯ニ支那軍隊ヲ配置スルハ支那

一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ閑スル件 五

九

ノ自由ニシテ我ヨリ干渉スヘキ限ニ非ズ而カモ之ニ付テスラ新ニ其ノ選定權ヲ我將校ニ与ヘ終ニ之ヲ聯絡員トシテ常置セムトスルハ益々支那ヲシテ不安ノ念ヲ起サシメ列國ヲシテ益々疑心ヲ抱カシムモノナリ況シヤカカル新ナル權利ノ取得ノ交渉ハ成功スペシトハ思ハレザルニ於テヲヤ

## （C）

今日迄ノ声明ニ徴シ平和共復以來山東沿線ノ駐兵ハ根拠ナシ從テ今ヤ鉄道警備即警察ノ理由ニテ殘留セリ

然ルニ坂西案ハ警察ニ必要ナル憲兵軍隊ヲ駐メテ軍隊ハ撤ストハ何ノ意ナルヤ了解シ難シ事實上ハ撤兵ニ非ズシテ減兵ナルヘシ然ラバ其ノ不徹底ナル却テ人ヲシテ疑ヲ抱カシムルニ止マリ益益ナシ寧ロ撤兵ノ決心付ク迄ハ現状ヲ維持スル方可ナリ

(D) 順次撤兵論ニ過ギズ何等局面展開トナラズ

(E) 濟南集兵ハ巴里會議ノ大問題ニシテ我全權ハ之レ撤兵ノ順序ニ過ギズト解釈説明シ政府ノ承認セル点ナリ

今ヤ其ノ撤兵ハ公然ノ約束ナリ撤兵ニ決スル以上今日之ヲ無視シテ残駐セントスルハ断ジテ不可ナリ

(F) 警察教官ノ主要駅配置ハ巴里ノ了解ニテ明定シ鉄道

特別警察組織ハ列国ノ承認セル点ナリ之ヲシモ讓歩ス  
ル理由ナシ而シテ其ノ必要ナルコトハ A 項ニ説明セル

通ナリ

六 五月四日 在中国小幡公使（ヨリ）  
内田外務大臣宛（電報）

山東問題ハ主義上日中直接交渉ニテ解決スヘ  
シトノ意見ナル旨顔外交總長内話ノ件

第三三五号

（五月四日接受）

五月二日外交總長ハ本使ニ対シ将来如何ニ發展スヘキカハ  
予知シ難キモ山東問題ニ關シ林大使ト顧公使トノ間ニ何等  
カノ聯絡アラシメント英國政府ニ於テ配慮中ナル旨並該問  
題ハ自分モ主義上國際聯盟等ニ便ラス両政府間直接解決ス  
ヘシトノ意見ナルモ万一一帝国政府提出条件ニシテ過酷ナラ  
ンカ自然支那ハ或ハ他ノ方法ニ依ルノ已ムヲ得ザルニ至ル  
ヘキニ付此辺篤ト帝国政府ノ同情アル考慮ヲ求メザルヲ得  
ザル旨内話セリ

七 五月五日 内田外務大臣（ヨリ）  
在英國林大使宛（電報）

山東問題ニ關シ顧維鈞トノ聯絡方ヲ英國政府

那ニ対シ商議ヲ開始セシガ支那ハ毫モ誠実ナル考慮ヲ加フ  
ルコトナク徒ニ強辯以テ我提議ニ応ゼズ為ニ該商議ハ爾來  
殆ド停頓ノ姿ニアリ從テ山東問題未解決ノ責全ク支那政府  
ニ在リト謂ハザルベカラズト雖本問題ノ如キ日支間最モ重  
要ナル案件ヲ此儘其ノ推移ニ委ヌルコトハ獨リ日支ノ国交  
上ノ溝渠ヲ益々深大ナラシムルノミナラズ対支政策ニ關ス  
ル列強就中英米ト帝国トノ關係甚機微ナルモノアルニ鑑ミ  
或ハ帝国ノ國際政局ニ於ケル地位ニ悪影響ヲ及ボスノ虞ア  
リ此際早キニ臨ンデ山東問題ノ解決ヲ計リ隣邦並列強反感  
ノ因ヲ除去シ以テ我立場ヲ鞏固ナラシムルコト同時ニ対支交  
渉ノ進路ヲ平滑ナラシムルコト當面喫緊ノ方策ナリ

然リ而シテ山東問題ノ内容ハ極メテ複雜ナルガ故一括之ヲ  
協定セムトスルモ却テ居留地問題等種々ノ論議ヲ惹起シ支  
那人ノ感情ヲ刺戟シ事態ヲ紛糾セシムルノ虞アルヲ以テ寧  
ロ法律的論議ヲ招クヘキ問題ヲ後廻シト為シ善後措置問題  
ヲ部分的ニ事實上解決シ漸次全問題ヲ實際上解決シアルコ  
ト目下ノ形勢ニ照シ比較的容易ニシテ且得策ナリト思考ス

以上ノ見地ニ基キ差当リ左記各項ニ対シ速カニ廟議ノ決定  
ヲ經駐支帝国公使ヲシテ最近ノ機會ニ於テ支那政府當局ト

一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ關スル件 九

第二八八号

配慮中ナル旨ノ中國外交總長ノ内話ニ付問合  
ノ件

最近支那外交總長ハ小幡公使ニ対シ将来如何ニ進展スヘキ  
カハ予知シ難キモ山東問題ニ關シ貴官ト顧維鈞トノ間ニ何等  
カノ聯絡アラシメント英國政府ニ於テ配慮中ナル旨並ニ  
該問題ハ外交總長ニ於テモ主義上國際聯盟等ニ便ラス日支  
両國間ニ直接解決スヘシトノ意見ナルモ日本ノ提出条件ニ  
テ過酷ナラムカ自然支那ハ或ハ他ノ方法ニ依ルノ已ムヲ得  
ザルニ至ルヘキニ付其辺篤ト日本政府ノ同情アル考慮ヲ需  
メザルヲ得ザル旨内話セル趣ナリ右英國政府云々ニ關シ何  
等御心当ノ事項アラハ電報アリタシ 米仏ヘ転電アリタシ

八 五月十三日 開議決定

山東鐵道沿線撤兵其他當面ノ善後措置ニ關ス  
ル件

客年一月対独平和条約ノ効力発生以來山東問題ニ關シテハ  
英國政府ハ速ニ善後措置ヲ講シ日支間ノ條約協定並巴里ニ  
於ケル列国トノ了解ニ基キ極メテ公明正大ノ態度ヲ以テ支

ノ間ニ接洽商議ニ入ラシメ順次山東問題全般ノ解決方ヲ講  
ズルコト致度シ

（一）山東鐵道沿線ニ於ケル我駐屯隊ヲ撤退シ只其ノ一部隊  
ヲ租借地内ニ駐留セシムルニ止ムヘシ但シ右撤兵ニ就テ  
ハ支那鐵道巡警隊ノ組織實行ヲ促シ巡警隊ノ編成成ルニ  
從ヒ部分的ニ漸次撤兵ニ着手スルコトトスヘシ尤モ巴里  
協定ノ特別巡警隊組織迄ノ暫定便法トシテ右巡警隊ニハ  
差当リ最高顧問及養成所教官ヲ聘用セシメ枢要駅等ニ日  
本国人ヲ聘用セシムルコトハ逐次機會ヲ得ル毎ニ之ヲ行  
ハシムルコトトスヘシ

（二）山東鐵道沿線ニ於ケル撤兵実行ヲ機トシ山東鐵道措弁  
案ヲ協定スヘシ即チ将来同鐵道ノ經營ハ名実共ニ日支均  
等合弁主義ニ從ヒ兩國折半出資ニ依ル純然タル民營組織  
トスル根本主義ヲ協定シ其ノ實行細目ヲ議スル為双方委  
員ヲ選定協議セシムルコトトスヘシ

九 五月二十三日 在英國林大使（ヨリ）

英國政府ノ日中聯絡方配慮中ト認ムヘキ事實  
ナキ旨回報ノ件

第六六一號 (五月二十五日接受)

貴電第一八八号ニ關シ諸方面取調べタルモ右事実ニ符合スト認ム可キ事実無ク又心当リノ事実ヲ認ムルニ至ラズ在米仏大使ヘ転電セリ

一〇 六月三日 内田外務大臣ヨリ  
在中国吉田臨時代理公使宛 (電報)

### 中國財政救済方法山東善後措置等ニ關スル余

#### 陸軍部參事トノ内談通報ノ件

附記 余晉龢提出ノ山東善後措置ニ關スル中國側私案  
訳文

第二七九号 (極秘)

最近來朝セル陸軍部參事余晉龢(註1)ハ斬總理ノ内意ヲ承ケ各方面要路ニ會見ヲ需メタルガ過日本大臣ヲ來訪シ斬總理ノ伝言ナリトテ種々陳情スル所アリ殊ニ財政困難ノ実情ヲ訴へ之カ救済ニ就テハ他列強ト異リ支那ニ緊密特異ノ利害關係ヲ有スル日本ニ於テ此際特別ノ考慮ヲ加ヘ借款援助ヲ断行セラレタシトノ趣旨ヲ縷述シタルガ六月二日暇乞旁々來訪シタルニ付本大臣ヨリ前陳斬總理ノ伝言ニ對スル回答トシテ

ニ躊躇セザルモ撤兵後山東鐵道ヲ無警備ノ儘ニ放任シ置ク

コト能ハザルハ勿論ニシテ何等力保護ノ手段ヲ講ゼザルヲ得ズ即チ支那巡警隊ノ組織ヲ慾憑スル所以ハニ此ノ鐵道警備保全ノ為ニシテ何等他意アルニ非ズ就テハ恁ノ如ク事理明白ナル問題ニ關シテハ徒ラニ國內ノ無稽ノ反対論ニ顧慮スルコト無ク政府當局ニ於テ速カニ巡警隊ノ組織ニ着手シ止ムナクンバ右組織ニ伴ヒ順次一部ツツ撤兵スルモ可ナリ要スルニ斬總理ニ於テ此際国内多少ノ反対論ヲ排シ前記借款及撤兵ノ二事丈ケニテモ決行シ時局救済策断行ノ決意ヲ示サルレバ行詰レル局面ハ自ラ展開シ新生面ヲ啓クニ至ルヘシト信ズル旨述ヘ置キタリ御含迄

註1 中國陸軍部參事余晉龢ハ大正十年五月来日シ内田外務大臣ヲ訪問セルガ其際山東善後措置ニ關スル中國側私案ヲ提出セリ

2 中國側ノ私案ニ付テハ左掲ノ附記參看

#### (附記)

山東善後措置ニ關スル中國側私案訳文(大正十年五月二十日訳)

一、膠州全部ヲ回収シ青島ハ支那ニテ開放シ独逸時代ノ辦法ニ照シ該埠界内ニ於テ消費スル貨物ニ對シテハ閔稅ヲ徵セズ尚ホ天津、漢口ニ於ケル特別区ノ辦法ニ照シ市政

一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ關スル件 一〇

第一支那財政ノ現状ニ就テハ日本朝野ノ均シク同情ニ堪ヘ

ザル所ニシテ亦帝国ト支那トノ関係ガ他国ト異リ特殊密接ナルコトモ斬總理ノ言ノ如クナルモ何分政治借款ニ關シテハ予テ關係列國間ニ了解成立シ此ノ際他列強ヲ差シ措キ我方単独ニテ陰密ノ裡ニ決行スルガ如キハ断シテ不可ナリ但シ支那政府ニ於テ至急借款ノ必要アルニ於テハ寧ロ箇々ノ財業者トノ間ニ幾多ノ實業借款ヲ起シ之ヲ以テ財政ノ急ニ応ズル方法ヲ講ゼラルハ差支無シ即チ例ヘハ吉会鐵道借款ノ如キ他列國ニ於テモ異議ヲ挾ムコト能ハザル了解アルモノナルガ故ニ此ノ際本契約締結ノ速成ヲ期スル等ノ方法ニ依リ財政當面ノ救済ヲ計ルノ途モアルベント思考ス伝聞スル所ニ拠レバ右借款ニ就テハ支那ノ一部ニ於テ反対論アル由ナルモ政府當局ニ於テ多少ノ反対ヲ排スルノ決意ヲ以テ断行セラルレバ可ナル次第ナリ

第二山東善後措置ニ關スル支那側ノ私案(註2)ニ就テモ坂西少將ヲ經テ承知シタルガ右ハ大駢今後日支兩政府間商議ノ為メ考慮ノ価値アルモノト思ハルニ付折角攻究中ナリ尤モ山東鐵道沿線撤兵ノコトハ右ト離レテ直ニ決行スルヲ妨げズ帝国政府ニ於テハ度々声明セル如ク何時ニテモ右撤兵實行

序ヲ設ク

二、日本司令部ニ於テ軍事占領期内支那人ヲシテ強制的ニ日本人ニ土地ヲ売ラシメタルコトヲ否認ス

三、青島境内ニ於ケル獨逸官(公)有財產タル埠頭、棧橋、倉庫、灯台等ノ類ハ支那ニ交付シ海關管理ニ歸セシム其他電燈所、屠獸場、水道、礦務署、病院等ノ類ハ市政府ニ於テ管理ス其他ノ砲台、兵營等ハ中央政府ニ於テ引繼管理ス

右ノ諸項中已ニ日本人ノ經營ニ屬シテヨリ數年ヲ経タルモノニ對シ如何ニ處理スヘキヤハ別ニ其弁法ヲ議定ス塩ハ中国政府ノ專賣品ニシテ往年獨逸人ノ經營セザリシモノナリ故ニ支那ニ交付スヘキモノトス若シ将来日本ニ於テ食鹽欠乏セバ中国政府ハ特別ニ若干年ヲ限リ毎年青島ニ於テ塩若干ヲ購入スルヲ許ス

四、山東鐵道問題ハ其濟順、高徐線ハ新銀行團ヲシテ之ヲ引受ケシメ膠濟鐵道ハ完全ニ支那ノ自弁トスルカ或ハ還附スヘキ年限ヲ確定シ其交付以前ニ於テハ暫ク資本ト營業上トヲ合弁トシ独逸時代ノ政府ト民間トニテ所有セル株ヲ日支兩國ニ於テ等分シ民間株ニシテ賠償ヲ要スルモ

# 一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ関スル件 二

一四

## 中國側提示ノ山東善後措置案ニ関スル件

ノハ支那ニ於テ其一半ノ交付ヲ承認ス但シ日本ニ於テ該  
鉄道占領以来生シタル収入ノ剩余ハ之ヲ等分ニ配当シ以  
テ公平ヲ明カニス

該鉄道ノ管理上政治ノ性質ニ属スルモノ例ヘハ鉄道巡警  
組織権ノ如キハ完全ニ中国ニ於テ之ヲ行フ

五、アラユル山東省内ノ日本軍ハ時日ヲ定メテ撤退ス

六、鉄道沿線ニ於テ既開ノ各鉱ハ該鉄道ヲ回収セザル以前  
ニ於テハ均シク合弁トス

七、青島、芝罘間及青島上海間ノ海底電線ハ均シク我國境  
内ニアリ共ニ中国ニ帰スヘキモノトス又日本ニ於テ濟南

ニ設ケタル無線電信モ亦中国ニ於テ引継管理スヘシ其建  
築費ハ中国政府ニ於テ其原価ニ照シテ償還ス

八、日本ハ双方ニ於テ承認シタル解決弁法ノ外裏ニ独逸国  
ト締結シタルアラユル条約及契約上ノ一切ノ権利及利益  
ハ爾後一律ニ之ヲ拠棄シ再ヒ要求セザルコトヲ声明ス

註 右ハ余晉蘇ヨリ提出セラレタル中國側私案ノ亞細亞局係官  
ニ依ル仮訳文ナリ

## 一 六月三日 開議決定

(註<sup>1</sup>) 山東善後措置案各項ニ関シ

(註<sup>2</sup>) 駐支日本公使ガ客年一月十九日及六月十四日附書柬ヲ以テ

支那政府ニ申入レタル通リ支那鉄道巡警隊ノ組織完了スル  
ニ於テハ何時ニテモ軍隊ノ引揚ヲ実行スヘク右ハ既ニ再三

声明セル通ニシテ特ニ時日ヲ定ムル迄モ無ク支那政府ヨリ

巡警隊組織ノ通告ニ接シ次第日本政府ハ直ニ撤兵ヲ宣言シ

鉄道警備ノ任ヲ巡警隊ニ引継キタル上引揚クヘシ若シ上記

巡警隊ノ組織猶ホ遲延スルニ於テハ右全部ノ完成ヲ俟タズ  
トモ一部隊ノ編成スルニ従ヒ之ト更代ニ適當区間ノ警備ヲ

引継キ部分的ニ漸次山東鉄道沿線ヨリ撤兵スヘキニ付支那

政府ニ於テ直ニ巡警隊派遣ノ準備ニ着手セラレタシ尤モ右

巡警隊ノ組織ハ今直ニ巴里會議ニ於ケル了解ニ拵ルヲ要セ

ザルモ差當リ臨機ノ方法トシテ巡警隊本部ニ顧問巡警養成

所ニ教官ヲ置キ日本国人ヲ聘用シ以テ鉄道警備ニ關シ日支  
間ノ聯絡ヲ円滑ニシ無用ノ事端發生ヲ防止スルコトシタ

シ

(二)其他ノ各項ニ關シテハ其内日本側ニ於テ容認シ難キモ

ノアルモ鬼ニ角日支兩政府間商議ノ材料トシテ考慮スル価  
値アルモノト認ムルヲ以テ篤ト攻究スルコトトシ巡警隊組  
織セラレ鉄道警備ノ任務引継ヲ俟テ何分ノ挨拶ニ及フヘシ

註 1 中國側提示ノ山東善後措置案ニ付テハ前掲文書ノ附記參  
看

2 大正九年一月十九日附文書及同年六月十四日附文書ニ付  
テハ日本外交文書大正九年第二冊上巻九文書及五〇文書

參照

一二 六月十二日 在中国吉田臨時代理公使ヨリ  
機密第一七一号 内田外務大臣宛 (印)

山東問題ニ關シ山東交渉員施履本來談ノ件  
(六月十八日接受)

大正十年六月十二日 在支那

外務大臣伯爵 吉田伊三郎 (印)

山東交渉員施履本昨十一日來訪約三時間談話ノ後辭去致候  
處同氏談話ノ要点左ノ通ニ有之候

一、外交部ニ於テハ和約研究会ヲシテ山東問題解決方法ヲ  
研究セシメ居レルガ國際聯盟ニ依ル解決ノ見込少キニ付

一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ關スル件 二 三

付請訓ノ件

日本陸軍ノ大西鎮ニ於ケル無線電信設置計画  
ヲ停止セシメラレ度旨外交部ヨリ申越セルニ

一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ関スル件 一四 一五

一六

第四七七号

外交部ヨリ六月二十四日附半公文ヲ以テ曩ニ山東交渉員ヨリ日本ガ青島ニ設ケタル海軍防備隊及無線電信ハ撤去セラル筈ナルモ青島陸軍側ハ大西鎮ニ無線電信ヲ設ケムトシツツアリ依テ領事ニ交渉シツツアル旨電報アリタル處右防備隊及無線ノ撤去ハ頗ル軍事的施設ヲ収束スル表示トナスニ足ルモ一方ニ於テ大西鎮ニ大規模ノ無線ヲ新設スルハ支那國民ノ誤解ヲ起シ易ク且青島ヲ還附スペキハ曩ニ屢々声明セラレタルコトナルニ付此際斯ル大施設ヲ為スペカラザルニ似タリ依テ該無線電信ヲ速ニ停止方命ゼラレタシ申越セリ右ニ対スル回答振電訓ヲ請フ

一四 七月十二日 内田外務大臣ヨリ  
在中國吉田臨時代理公使宛(電報)

青島無線電信新設停止方ニ関スル外交部申越

二付回訓ノ件

第三四四号

貴電第四七七号ニ閲シ青島無線ハ独逸ガ海岸局トシテ建設シタルフ繼承シタルモノナル處其ノ器材甚シク袁損シ其ノ用ヲ為サザルニ至リタルヲ以テ之ニ代フル目的ヲ以テ臨機

一五 七月十六日 在英國林大使ヨリ  
下院ニ於テ山東問題方華府會議ノ議題トナル  
ベキヤニ付質問アリタル件

第八五八号

(七月十九日接受)

十四日下院ニ於テ華府會議ニ極東ノ平和繁榮ニ緊密ナル関係ヲ有スル凡テノ問題例ヘバ山東問題ノ如キヲ論議スルモノナリヤノ質問ニ對シ首相ハ目下右ニ閲シ何等説明シ得ベキ時機ニ非ズト答ヘタリ

一六 七月二十日 在中國吉田臨時代理公使宛(電報)  
山東問題ノ華府會議提出論旺トナレル今日坂  
西ノ中國側トノ本件内交渉ノ模様ニ付同少将  
ノ意見及貴官ノ觀測回電方訓令ノ件

第三六六号(極秘)

シ坂西ノ意見ヲ徵セラレ貴官ノ御觀測ト共ニ委曲電報アリ  
タシ  
一七 七月二十一日 在米國幣原大使ヨリ  
華府會議ニ閲連シ山東問題ノ日中間直接交渉  
ニ依ル早期解決力中國ノ為得策ナル旨友好的  
ニ中國ニ勸告セラルル様國務長官ニ示唆ノ件

第七号(極秘)

過般余晉龢來朝ノ際坂西少將ヲ經テ内示セル山東善後措置ニ閔スル支那側ノ私案ニ對シ一応ノ挨拶ヲ為シ置キタル次第ハ往電第二七九号ニテ申進タル通ニテ其後坂西少將帰任後支那政府當局トノ間ニ内密斡旋シツツアリテ爾來ノ経過ハ直接同少將ヨリ委曲御了悉ノ儀ト思考スル處大体ニ於テ円満進行ノ模様ニテ外交總長モ乘氣ラシク且ツ最近國務會議ヲ通過セルヤニ伝ヘラルル警察督練公署規則ノ如キモ畢竟鐵道沿線巡警隊組織ニ閔聯スルモノト察セラル然ルニ今回米國政府ヨリ回答(脱)矛盾シタリトノ新聞記事ハ何質及範囲ヲ問合セタル七月十三日附日本政府ノ覚書ニ對シ等根拠アリヤト問ヒタルニ國務長官ハ其ノ事實ニアラサル旨ヲ答ヘタルニ付本使ハ去ル十四日同官カ開陳セラレタル所ハ畢竟同官ノ非公式意見ニ止マリ十三日附帝國政府ノ覚書ニ對スル米國政府ノ確定的意見ハ別ニ告ゲラルベキコトト了解シ來リタル旨ヲ述ベタル処「ヒューズ」ハ其ノ通ナリ然レトモ日本政府ニ於テハ右非公式會談ニ徵シ本件講究ニ步ヲ進メラレ議案ノ範囲ニ閔スル意見交換ノ完了ヲ俟タ

セラルル処果シテ然ラバ坂西ニ於テ尽力中ノ本件内交渉モ自然停頓ノ外無ント認メラルニ就テハ其ノ辺ノ模様ニ極秘レツツアリテ右ハ全然根拠無キ報道トモ謂ヒ難キヤニ推想セラルル

回米國政府ヨリ太平洋及極東問題ニ閔スル會議ノ提唱アルヤ早クモ山東問題ヲ同會議ニ提出スヘシトノ論議旺ニ行ハレツツアリテ右ハ全然根拠無キ報道トモ謂ヒ難キヤニ推想セラルル

濟南無線ノ器材ヲ撤シ之カ建設ニ着手シタルモノニシテ何等新設シタルモノニ非ズ且其ノ目的独逸時代同様出入船舶

トノ通信ニ在リ航海ノ安全上必要ナル施設ニ属シ目下ノ事態ニ於テ日本ノ正当ニ实行シ得ベキ所ナリ只客年六月小幡公使ヨリ重ネテ懇切ニ申入レタル如ク支那政府ニ於テ山東善後ニ閔スル商議ヲ進メ帝國政府ト協定ヲ遂ケラルニ於

テハ右商議事項ノ一部分タルベキ本件施設ノ如キモ直ニ商量解決セラルベキコト勿論ナリトノ趣旨ニテ可然回答シ置カレタシ

ス先ツ會議参列ノ意向ヲ表セラレントラ希望ス愈々日本  
モ會議参列ノ事ニ決定セハ米国政府ニ於テ會議開会前予メ  
議案ノ範囲ニ関シ關係列国政府ト意見ヲ交換スルニ異議ナ  
キコト前回会談ノ際自分ノ明言セル通ナリ尤モ其後自分限  
リ右議案ノ範囲ヲ熟考セルモ未タ具体的成案ヲ得ルニ至ラ  
ス何レニスルモ予メ嚴重且詳密ナル制限ヲ議事ニ加フルコ  
トハ大局上不得策ナラスヤト思考スト答ヘタリ

本使ハ次ニ本問題ニ関連シ一己ノ観測ヲ腹藏ナク開示シテ  
國務長官ノ考量ニ供シタキ点アリトテ先ツ本會議ノ成功ヲ  
期セムカ為ニハ最モ平静溫和ナル空氣内ニ各代表者孰レモ  
互ニ友好信賴ノ誠意ヲ以テ討議ヲ行フコトヲ要ス從テ動モ  
スレハ国民的感情ヲ刺戟スルノ虞アルカ如キ問題ハ可成会  
議開会前ニ於テ直接当事国政府間ニ解決スルコト望マシキ  
旨説キ始メタルニ國務長官ハ自分モ全然同感ナリト附言セ  
リ

本使ハ語ヲ繼キ翻ツテ日支間ノ關係ヲ觀ルニ不幸ニモ一ノ  
刺戟性ヲ有スル難問題アリ山東問題是ナリ支那ハ從来独逸  
ヨリ膠州灣租借地ノ直接返還ヲ得ムコトヲ要求シ独逸カ同  
租借地及山東省内ノ鉄道其ノ他ニ関スル一切ノ権利ヲ日本

ノ為ニ放棄スルコトヲ規定スル「ヴエルサイユ」條約ニ對  
シテハ署名ヲ拒絶セリ他ノ一方ニ於テ日本ハ膠州灣租借地  
ヲ公然声明シタルガ此ノ声明ヲ實行セムカ為ニハ予メ日  
支両國間ニ協定スルコトヲ要スル若干ノ實際的問題アリ例  
へハ旧租借地ノ一部ヲ日本人及外國人ノ居住及商業ニ向ツ  
テ開放スルノ問題又ハ膠濟鐵道ノ日支合弁ニ関スル具体的  
方法ノ問題ノ如キ是ナリ日本ハ是等協定ヲ遂クルノ目的ヲ  
以テ日支間ニ交渉ヲ開始セムコトヲ再三支那ニ勸誘シタル  
モ支那ハ米国ノ後援ヲ頼ミ「ヴエルサイユ」條約ヲ改廢セ  
ムコトヲ期シ日本ノ直接交渉ヲ拒絶セリ然レトモ「ヴエル  
サイユ」條約ニ基ク日本ノ權利ヲ奪ハムカ為同條約ヲ改廢  
セントスルカ如キハ到底日本ノ同意シ得ヘキコトニアラズ  
又独逸ノ前記権利ハ既ニ日本ノ適法ニ繼承セルモノナルカ  
故ニ独逸トシテモ今ヤ支那ニ還附スルコトヲ得ヘキ何等ノ  
目的物ヲ有セス支那カ斯クノ如キ不当且不可能ナル主張ヲ  
固執シ絶対的ニ望ナキ時局ノ發展ニ望ヲ囁スルハ極東ノ平  
和ニ不良ノ影響ヲ及ホス而已ナラス支那自身ノ為ニモ遺憾  
トスル所ナリ

チニ之ニ良好ナル (favourable) 考量ヲ加フヘシ猶繰返シ  
確言セントスル一事アリ即チ米国政府カ今回列國會議ヲ召  
集セムトスルハ素ヨリ何等日本ノ立場ヲ無視シ又ハ之ヲ窮  
地ニ陥レムトスルカ如キ意思ニ出テタルニアラス今日及今  
後ニ於テモ日米間ニ最善ノ諒解ヲ存スルハ自分等ノ特ニ重  
キヲ置ク所ニシテ此ノ誠意ハ日本ニ於テモ充分信任セラレ  
ムコトヲ希望スト附言セリ

一八 七月二十五日

在中國吉田臨時代理公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

山東問題ニ關スル坂西ト中国側トノ内交渉停

進展如何ニ依リ動搖セズトハ予断シ難キ旨等

回電ノ件

第五二四号 (極秘)

(七月二十六日接受)

既ニ予メ山東問題及「ヤップ」問題ノ解決ヲ了スルニ至ラ  
ハ會議ハ平静溫和ナル空氣内ニ開会スルコトヲ得ヘク其事  
業ノ成功ニ向ツテ著シク歩ヲ進ムルコト疑フ容レス事茲ニ  
至ルヤ否ヤハ一二懸リテ米国政府ノ決心ニ存ス尤モ以上ハ  
本使一己ノ所感ニシテ毫モ日本政府ノ訓令又ハ承認ヲ得タ  
ルモノニアラスト雖モ深ク日米国交ノ前途及極東全体ノ平  
和ヲ顧念スル自分トシテハ此ノ時局ニ處スヘキ妙案ヲ  
有セスト説キタルニ國務長官ハ感動セルカ如キ態度ニテ本  
使ノ所説ニ耳ヲ傾ケ右ハ重要且有益ナル意見ナリ自分ハ自

一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ関スル件 一九 二〇

二〇

ト先ヅ其ノ効ヲ収メズトモ限ラザルト同時ニ他面現内閣ノ方針ト雖モ今後華盛頓會議ノ開催時若クハ同會議ニ於ケル論議漸ク進ムニ連レ支那国内民論ノ帰嚮如何等ニ依リテハ

決シテ動搖ヲ免カレズトハ予断シ難カルヘク同會議ニ於ケル支那側代表者実際ノ進退モ又中央政府ガ果シテ其ノ統一セル意図ニ依リ彼等ヲ指揮拘束シ得ルヤ否ヤニ懸ルコト極メテ大ナリト存ゼラレ右ハニ我代表者ノ顔振ニモ依ルヘク本件ニ就テハ精々注意ヲ怠ラザルヘシ

一九 七月二十六日 内田外務大臣ヨリ  
在米國幣原大使宛（電報）

山東善後措置ニ関スル中國側ノ内密申出並我方ノ態度及其後ノ内交渉ノ経過通報ノ件

第三二四号（極秘）

貴電第四一六号ニ関シ

貴官ノ執ラレタル措置ハ本大臣ノ全然承認スル所ナリ尚御参考迄ニ申添ユル次第ナルガ本年五月十日調印ノ独支協約附属文書ニ於テ独逸ハ戦局及「ヴエルサイユ」条約ノ結果膠州湾租借条約其ノ他ニ依リ獲得シタル一切ノ権利財産特權ヲ拠棄シタルヲ以テ之ヲ支那ニ返還スルノ能力ヲ喪失セ

（一）其ノ後五月下旬斬總理ノ密使來朝シ山東善後措置ニ關スル支那側ノ私案ナルモノヲ非公式ニ提示シ我方ノ内意ヲ求メタルガ當時右密使ハ別ニ財政援助ヲ需メムトスル使命ヲモ齋シ居リタル処財政援助ニ依テ山東問題解決ノ促進ヲ期スルカ若クハ勘クトモ右ノ如キ感想ヲ外部ニ与フルハ断シテ策ノ得タルモノニ非ズ却テ山東問題ニ対スル我公明正大ナル態度ヲ毀損スルニ過ギズト認メタルヲ以テ右支那側提案ニ対シテハ該条項中我方ニ於テ容認シ難キモノアルモ兎ル処

ニ角日支両国政府間商議ノ材料トシテ考慮スル価値アルモノト認ムルヲ以テ篤ト攻究スルコトトシ山東鉄道警備ノ任務ヲ支那巡警隊ニ引継キ帝国軍隊ノ撤退ヲ俟テ何分ノ挨拶ニ及ブベシトノ趣旨ヲ応答スルニ止メ同時ニ

（二）該密使ニ対シ本大臣ヨリ前記我方意向ヲ説示シタル上尤モ山東鉄道沿線撤兵ノコトハ右ト離レテ直ニ決行スルヲ妨

ゲザルハ勿論ニテ帝国政府ニ於テハ累次声明セル如ク何時ニテモ右撤兵実行ニ躊躇セザルモ撤兵後山東鉄道ヲ無警備ノ儘ニ放任シ置クコト能ハザルニ付何等力保護ノ手段ヲ講ゼザルヲ得ズ即チ支那巡警隊ノ組織ヲ懲憲スル所以ハニ

此ノ鐵道警備保全ノ為ニシテ何等他意アルニ非ズ就テハ斯ノ如ク事理明白ナル問題ニ關シテハ徒ニ国内無稽ノ反対論ニ顧慮スルコト無ク支那政府當局ニ於テ速カニ巡警隊ノ組織ニ着手スベク止ム無クムバ右組織ニ伴ヒ順次一部ヅツ撤兵ノコトトスルモ可ナル旨内話シ置キタリ

（三）右支那側内密ノ申出ニ關シ其ノ後坂西少将支那政府當局鉄道沿線ニ於ケル巡警隊組織ニ備フル為警察訓練所ヲ設置スルコトニ決定セルヤニ伝ヘラル

一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ關スル件 二一

ル旨声明シ居レリ英仏ヘ転電アリタシ

二〇 七月二十六日 内田外務大臣ヨリ  
在米國幣原大使宛（電報）

山東問題ノ解決案及其公表ノ必要ニ付意見票

第九一五号（極秘）

（八月八日接受）

山東問題ノ解決ニ付爾來熟議ヲ重ネラレ帝国政府ノ方針已

ニ大体御決定ヲ見タルヤニ拝察セラル処本件ニ關スル我方態度ノ如何ハ今更申ス迄セナク同國ニ緊密ナル關係ヲ有スル諸外国ノ我国ニ対スル将来ノ感情及態度ニ至大ノ關係ヲ有スルモノニシテ且方今ノ大勢ニ於テハ帝国トンテ早晩

一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ関スル件 二二 二三

一一一

本件処分ヲ了セザル可カラザルノミナラズ殊ニ今回ノ太平洋會議ニ於テハ本件ニ關スル帝国政府ノ態度ヲ宣明スペキ事態発生ス可ク而シテ此場合ニ至リ初メテ我方ノ態度ヲ公示スルニ於テハ仮令其ノ内容ニ於テ著シキ寛大ナル点アルニモセヨ列国ハ之ヲ以テ帝国政府ノ日支親善及東洋平和ニ資セントスル誠実ナル心情ノ流露ト見ズ外界ノ圧迫ニ依ル余儀ナキ讓歩ナリト解シ折角ノ我方誠意モ帝国政府ヲ利スル所ナカル可キ慮アルニ依リ此際出来得ル限り寛大ナル御方針ヲ確定セラレ前記ノ如キ余儀ナキ事態ニ逢着スルニ先チ成ル可ク速ニ適當ノ機会ニ於テ我ヨリ進ソデ帝国政府ノ処分案公表ヲナスコト緊要ト思考セラル為念右处分案ハ已ニ御成案アリトハ考フルモ本使ノ考トシテハ一、租借地ヲ支那自開商埠トシテ解放シ併セテ諸国在留者ニ或程度ノ参与權ヲ与フルコト

一、税關制度ハ他ノ開港場一般ノ例ニ依ラシムベキモ水道、港湾、道路等ノ維持ニ要スル費用ノ保障ヲ海關收入ニヨリ保留スルコト

一、支那トノ交渉結果ヲ見る迄多少ノ駐兵ヲ要スルトモ軍政ハ速ニ撤去スルノ声明ヲ為シ總領事ヲ任命セラレ民政

其ノ後在支公使來電ニ依レハ支那政府當局ニ於テハ差当リ

太平洋會議ニ山東問題ヲ提起スルノ意圖無キモノノ如ク現ニ斬國務總理ハ坂西中將ニ對シ右ノ如キ意志無キ旨ヲ言明シ却テ山東鐵道沿線巡警隊組織ニ關スル援助ヲ同中將ニ申出デタル趣ナリ

乍去之ト同時ニ我方トノ直接交渉ヲ速進セムトスル態度トモ認メ難ク從テ可得出来ハ太平洋會議開催前山東問題ノ少クトモ一部ヲ解決シタキ我方希望ニ副ハザルモノアル次第ニ付場合ニ依リ支那側トノ交渉ニ更ニ一步ヲ進メムカトモ考ヘ居ル次第ナルモ貴官ト國務長官トノ間ニ於ケル話合ノ次第如何ニ落着スベキカヲ承知スルノ必要アルニ就テハ貴官ハ其辺御含ノ上貴電第四四三号「ヒューズ」ト談合ノ行懸ニ顧ミ敢テ我方ヨリ督促的態度ニ出ツルコトハ考ヘモノナルモ若シ好機會アラバ本件ニ對スル國務長官其後ノ考慮振婉曲ニ御尋ノ上結果電報アリタシ  
英仏ヘ転電アリタシ

ヲ直接受外務大臣ノ監督ノ下ニ置カルルコト等蓋シ其ノ重ナルモノト存ゼラル

在米大使ヘ転電セリ

二二 八月十一日 内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛(電報) 警察督練公署規則ノ公布及實施ニ付問合ノ件

第三九二号 山東鐵道沿線ニ於ケル巡警養成ヲ目的トセル警察督練公署規則ハ曩ニ國務會議ヲ通過セル趣ナル處右ハ其後公布セラレタリヤ若シ公布セラレタリトセハ着々実施ノ歩ヲ進メツツアリヤ若シ又公布セラレズトセバ如何ナル事情ニ基ク次第ナルベキヤ御取調ノ上結果電報アリタシ

二三 八月十二日 (内田外務大臣ヨリ)  
在米國幣原大使宛(電報) 日中間直接交渉ニ依ル山東問題解決ニ關スル往電第三一四号ニ關シ

第三五七号(極秘) 国務長官ノ意向婉曲尋ね方訓令ノ件

一、太平洋會議ニ關シ

(1)本使ハ支那側代表トシテ何人ヲ選定セラルヘキヤト問ヒタルニ顏ハ未定ナリト答ヘタルニ付本使ハ世評ニハ王正廷ナリトノ説アルガ如何若シ支那代表ニシテ南方側トノ折合惡シキ人ナルニ於テハ折角會議ニ於テ決定シタル事柄モ南方ニ於ケル反対ノ為結局支那ニ於テ決議実行不可能ナル場合アルベシト述ヘタルニ顏ハ王正廷モ或ハ適當ナル候補者ノ一人ナルベク將又自分自身ニ代表タランコトヲ各方面ヨリ勧メ居ルモ自分トシテハ本国ニ於ケル外交上ノ責任モアリ自身出馬スルニハ不便鮮ナカラズト考ヘ居ルモ國家ノ為是非トアラバ個人ノ立場利益等ハ之ヲ犠牲トシテ代表タルコトヲ辞スル次第ニ非ズ又代表タル以上ハ在米中又ハ帰國後一部ノ反対ヲ受クルガ如キハ意トセザル所ナリ云々ト陳ベ又貴官ハ南方側ト云ハルルモ南方側トハ何ヲ意味スルヤ湖南、貴州、雲南、四川ノ諸省ハ必ズシモ廣東政府ニ加担

二四 八月十二日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

華府會議及山東問題ニ關スル件 二四

一一三

シ居ラズ広西ハ曩頃失敗シタリトハ言ヘ陸榮廷ハ今尚広西ヲ去ラズ從テ広東政府ノ勢力ハ極メテ微々タルモノニシテ僅ニ広東省及広西省ノ一部ニ止ルノミ又外交問題ハ広東モ余リ中央ニ反対セズ尤モ支那代表者ハ必ズシモ広東側ニ殊更氣受ケ宜シカラザル人物ヲ派遣セントスル意志ナク孫逸仙ノ代表ハ問題ニナラズトスルモ南方ニシテ王正廷又ハ伍朝枢ヲ派遣ゼン希望アラハ之ヲ加入セシムルコトハ異議ナシト云ヘリ次ニ

(b) 本使ハ支那政府ニ於テ何等特定ノ提案ヲナサルル意向ナリヤト問ヒタルニ対シ顔ハ未定ナルモ太平洋方面ニ関スル問題ハ勿論支那自身ニ閥シテハ可成ク一般ニ亘ル大ナル主義上ノ問題ニ付テハ或ハ之ヲ提出スル考ナキニ非ズ併シ乍ラ単純ニ日支両國間ノ問題ハ歐米各国ヲシテ之ニ参加セシムルノ必要ナキニ依リ之等ハ是非日支両國間ニ於テ解決シ可然シト考ヘ居ル旨ヲ陳ベ各国ノ勢力範囲撤廃問題ハ如何思ハルルヤト尋ネタルニ付本使ハ地理上ノ勢力範囲撤廃ノミニテハ不徹底ナリ海關塩務郵政ニ一國カ主動的地位ニ立ツヘキコトモ此ノ勢力範囲ナリ更ニ噂ノ如ク煙酒公売ノ行政ニ或ル他ノ一國ノ勢力ヲ專ラニセシムルハ之亦一ノ勢力

二、本使ヨリ山東問題ノ如キ一見大問題ノ如キモ具体的ノ主要問題トシテハ鐵道鉱山等ノ經濟上ノ權利及租借地処分ノ三問題ニ帰着スルニ過キズ特ニ日本（ハ貴國ニ対）シ再三之ガ交渉開始ヲ促シアリ支那側サヘ交渉ニ応セラルルノ決意アラバ解決ハ容易ナルベシト述ヘタルニ顔ハ山東問題ニ関シテハ日本ノ公正妥当ナル提案ヲ支那側ニ於テ待チ居レル次第ナルモ直接交渉（Negotiation）ハ之ヲ避ケ度クPrivate channelヲ通シ話ヲ進ムルモ可ナルベク要ハ日本ノ提案アルヲ切ニ期待シ居ル次第ナリト答ヘタリ依テ本使ハ日本朝野ノ識者ハ山東問題ノ如キハ日支両國間ニ於テ一日モ早ク之カ解決ヲ希望シ居レル次第ナルモ仮ニ日本カ公正妥当ト認ムル提案ヲ為ストモ支那側從来ノ遣り方且ハ現下ノ状態ニ鑑ミルニ必ズヤ中央政府ハ民間ノ反対運動ニ堪ヘズ話ヲ打切ルガ如キコトナキヤ日本政府及國民ノ多數ハ

實際ノ處中央政府ノ微力ノ為果シテ民間ノ言議ニ左右セラレズ交渉ヲ進メ得ルヤ否ヤニ多大ノ懸念ヲ抱キ居レリト述べタルニ顔ハ日本ノ提案ニシテ真ニ公正妥當ナランカ支那朝野ノ多数ハ之ニ反対スルコトナカルヘク仮令一部人士ノ反対アリトテ之ヲ押ヘルニハ相当ノ手段アリ決シテ無責任ナル行動ヲ放任シ置クコトナシ又青島方面ニハ日本ハ既ニ鞏固ナル經濟上ノ地盤ヲ有スルガ故ニ仮令無条件還付ヲ声明スルトモ日支間ノ悪感ヲ來スニ比シ大ナル利益アルコトヲ信ズト云ヘリ依テ本使ハ顔ニ山東鐵道警備組織ニ付テスラ反対ノ声アルカ為中央政府ハ其進行ヲ躊躇シ居レルニ非ズヤト述ペタルニ顔ハ右ニ付多少反対アルハ免レザルモ斯

カル反対ニハ頓着スルコトナク断行スル考ナリト述べ又現ニ最近各國公使ヨリモ時々山東問題ノ解決意見ヲ問ハル

ニ付之ニ対シテハ日本ヨリ公正妥當ナル提案ヲ為シ來ラバ支那ハ之ヲ考量措置スル考ナリト答ヘ居ル次第ナリト云ヘリ右ノ会談ニ依リ本使ノ看取シタル所ニ依レハ支那政府ニ野ニテ大ナル反対ナキ程度ノモノナルニ於テハ眞面目ニ之ヲ解決セントノ意思アルモノト認メラル尤モ見方ニ依リテ

シ居ラズ広西ハ曩頃失敗シタリトハ言ヘ陸榮廷ハ今尚広西ヲ去ラズ從テ広東政府ノ勢力ハ極メテ微々タルモノニシテ僅ニ広東省及広西省ノ一部ニ止ルノミ又外交問題ハ広東モ余リ中央ニ反対セズ尤モ支那代表者ハ必ズシモ広東側ニ殊更氣受ケ宜シカラザル人物ヲ派遣セントスル意志ナク孫逸仙ノ代表ハ問題ニナラズトスルモ南方ニシテ王正廷又ハ伍朝枢ヲ派遣ゼン希望アラハ之ヲ加入セシムルコトハ異議ナシト云ヘリ次ニ

(c) 先づ「ヤツブ」問題ニ関スル我最後ノ提案ニ就キ米国政府ノ意向ヲ質シタルニ同官ハ一応本案ノ講究ヲ遂ゲタリト答ヘ当日ハ一般外交官接見日ニ当リ待合ノ來客多カリシヲ以テ更ニ明日夕刻ヲ期シ討議スルコトトセリ

〔次ニ本使ハ山東問題ニ言及シタル処同官ハ會議ノ進行ヲ容易ナラシメムガ為本件並「ヤップ」問題共ニ成ルベク会議開会前ニ解決ヲ了スルハ極メテ得策ナリト認ムル旨ヲ述べ山東問題ニ就テハ米国政府ニ於テ支那政府ニ対シ直接交渉ヲ勧告スルニ當リ予メ其勧告ガ効ヲ奏スペキ大体ノ成算アルコトヲ要ス之ガ為ニハ自分ハ日本ガ如何ナル条件ニ依リ本問題解決ノ歩ヲ進メラレムトスルカノ概念ヲ有スルコト肝要ナリ蓋シ本問題ガ当國上院トノ關係ニ於テ一昨年以來一種ノ複雜ナル成行ヲ生ズルニ至リタルハ遺憾乍ラ一ノ現実ナル事実トシテ認ムルノ他ナク此際米国政府ニ於テ日本ノ提出セラレムトスル解決条件ニ就キ何等ノ信念モナク漫然日文直接交渉ヲ勧告スル時ハ或ハ當國上院及世論ノ反対ヲ受ケ却テ時局ニ一層ノ紛糾ヲ加フルノ虞ナシトセズ譬へバ日本政治家ハ山東省ニ於テ曩ニ独逸ノ有シタル經濟的利權ノミヲ日本ニ留保スベキ旨慶次声明セラレタルモ所謂

經濟的利權トハ具体的ニ如何ナルモノヲ指スヤ未ダ明ナラザル所アリ其解釈次第ニ依リテハ列國ノ利害ニ影響ヲ及ボスモノトシテ又々物議ヲ醸スコトナキヲ保シ難シ自分ハ固ヨリ此等ノ事項ニ就キ不当ニ干涉ヲ試ミムトスルモノニアヘバ日本政界ハ山東省ニ於テ曩ニ獨逸ノ有シタル經濟的利權ノミヲ日本ニ留保スベキ旨慶次声明セラレタルモ所謂本使ハ右解決条件ニ付キテハ本国政府ニモ請訓ノ必要アリ未ダ本使限リニ意見ヲ交換スルコトヲ得可キ地位ニ非ズ何レニスルモ本件解決ノ交渉ハ日支兩國間ニ直接ニ之ヲ行フ可キモノタルガ故ニ米国政府ヲ經テ我が解決条件ヲ支那政府ニ提示スルコトハ本使ノ念頭ニ存セザル所ナリト述べ置キタリ

〔三〕國務長官ハ又會議ニ参列ス可キ各国全權委員ノ數ヲ五名乃至七名トシ度キ希望ヲ述べ又各國共著名ノ陸海軍將官ヲ派遣スルノ議アルヤニ聞キ及ブ處（例ヘバ英國ヨリハ「ヘイグ」「ビーチー」又仏國ヨリハ「フォッシュ」）出張ス可向問合セ方本使ニ依頼セリ

〔四〕終ニ國務長官ハ過日米国政府ノ正式招請ニ對シ未ダ日本ヨリ何等回答ニ接セザルハ如何ナル事情ニ依ルヤト問ヒ成ル可ク速ニ回答ヲ得ソコトヲ希望スルガ如キ口吻ヲ示セリ在歐洲各大使及在蘭公使ヘ転電セリ

二六 八月十八日 在米國幣原大使（ヨリ）  
内田外務大臣宛（電報）

山東問題ノ日中間直接交渉ヲ米国ガ中國ニ勧告スル為必要トセラル我方条件ヲ米国政府内示方稟申ノ件

第五三九号  
(八月二十日接受)

往電五三六号ニ関シ國務長官ハ「ヴエルサイユ」條約ノ山東條項ニ對シ當國上院ノ強硬ナル反対アリタル成行ニ顧念スルト共ニ今回日本ノ提出スペキ本問題解決条件ガ公正観

ラズト雖今少シク右解決条件ニ闇スル日本ノ具体的の意向ヲ諒悉スルコトハ本件支那ニ對スル勧告ガ成功ノ望有ルヤ否ヤヲ予測スルニ必要ニシテ之ニ就キ予メ本使ト意見ヲ交換セムコトヲ望ムト述ベタリ

本使ハ國務長官ガ右解決条件ニ付日本側ノ意向ヲ知ラン事ヲ求メラルハ單ニ之ヲ同官限リノ参考ニ供セラレントスルヤ又ハ同官ヨリ之ヲ支那政府ニモ内示セラレンガ為ナルヤト問ヒタルニ「ヒューズ」ハ少シク躊躇ノ上右ハ日本政府ノ希望ニ重キヲ置キテ決ス可シト答ヘタリ

本使ハ右解決条件ニ付キテハ本国政府ニモ請訓ノ必要アリ未ダ本使限リニ意見ヲ交換スルコトヲ得可キ地位ニ非ズ何レニスルモ本件解決ノ交渉ハ日支兩國間ニ直接ニ之ヲ行フ可キモノタルガ故ニ米国政府ヲ經テ我が解決条件ヲ支那政府ニ提示スルコトハ本使ノ念頭ニ存セザル所ナリト述べ置キタリ

〔三〕國務長官ハ又會議ニ参列ス可キ各国全權委員ノ數ヲ五名乃至七名トシ度キ希望ヲ述べ又各國共著名ノ陸海軍將官ヲ派遣スルノ議アルヤニ聞キ及ブ處（例ヘバ英國ヨリハ「ヘイグ」「ビーチー」又仏國ヨリハ「フォッシュ」）出張ス可向問合セ方本使ニ依頼セリ

〔四〕終ニ國務長官ハ過日米国政府ノ正式招請ニ對シ未ダ日本ヨリ何等回答ニ接セザルハ如何ナル事情ニ依ルヤト問ヒ成ル可ク速ニ回答ヲ得ソコトヲ希望スルガ如キ口吻ヲ示セリ在歐洲各大使及在蘭公使ヘ転電セリ

〔五〕國務長官ハ又會議ニ参列ス可キ各国全權委員ノ數ヲ五名乃至七名トシ度キ希望ヲ述べ又各國共著名ノ陸海軍將官ヲ派遣スルノ議アルヤニ聞キ及ブ處（例ヘバ英國ヨリハ「ヘイグ」「ビーチー」又仏國ヨリハ「フォッシュ」）出張ス可向問合セ方本使ニ依頼セリ

〔六〕終ニ國務長官ハ過日米国政府ノ正式招請ニ對シ未ダ日本ヨリ何等回答ニ接セザルハ如何ナル事情ニ依ルヤト問ヒ成ル可ク速ニ回答ヲ得ソコトヲ希望スルガ如キ口吻ヲ示セリ在歐洲各大使及在蘭公使ヘ転電セリ

〔七〕終ニ國務長官ハ過日米国政府ノ正式招請ニ對シ未ダ日本ヨリ何等回答ニ接セザルハ如何ナル事情ニ依ルヤト問ヒ成ル可ク速ニ回答ヲ得ソコトヲ希望スルガ如キ口吻ヲ示セリ在歐洲各大使及在蘭公使ヘ転電セリ

二七 八月二十一日 在中國小幡公使（ヨリ）  
内田外務大臣宛（電報）

警察督練公署規則ノ公布及實施狀況ニ付回電

一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ関スル件 二八

二八

(八月二十二日接受)

貴電第三九二号ニ閲シ

八月十七日本使斬總理ニ会見ノ序ニ日本政府ニ於テハ撤兵

準備ノ都合モアルガ故ニ承知シ置キ度キ旨ヲ述べ御電訓ノ

次第並ニ新聞紙上ニ該規則反対説伝ハリ居ルヲ以テ実施延

期トナル様ノ事無キヤ否ヤヲ尋ネタルニ該規約ハ内務部ノ

部令ヲ以テ山東省長ニ訓令シタルモノニ付特ニ公布ニ及バ

ザルモノナリ該規則ノ実行方ニ閲シテハ山東省官憲ト相談

ノ為先づ余晉蘇ヲ山東ニ派遣シ又近ク坂西中将ニ山東行ヲ

依頼セル次第ナリ該規則反対説ニ付テハ今日迄(新聞紙?)

ニ接シ居ラザル故承知セズト答ヘタルガ之ヨリ先内務総長

ハ西田ニ対シ該規則ハ東支鐵道警察督練公署ノ規定ニ準ジ

作リタルモノナリト述べ部令ナレバ公布ヲ要セザル点ニ付

斬總理ト同様ノ説明ヲ為シ該規則中外國教習ヲ傭聘ストノ

文字アル為山東省議會等ニテ反対スルモノアルモ右教習ハ

警備ノ実務ニ当ルニ非ズ單ニ語學法規等ヲ教授シ巡警ハ約

三ヶ月ニテ訓練ヲ終リ鐵道警備ノ任ニ当ラシムル筈ナレバ

其ノ真相明白トナラバ山東省民側ニモ大シタル反対ナカル

可ク該署ノ経費ハ中央ニテ負担シ山東省ニ於テ直接監督ス

ラズ但本問題ハ日本ニ於テモ予テ声明シ居ルガ如ク一日モ速ニ之ガ解決ヲ希望シ居ル次第ナリト述べ過日本使滯京中

余晉蘇ガ持參シ坂西ヲ介シ内示セル支那側条件ニ論及シ右

ニ対シ日本政府ガ明瞭ナル回示ヲ為シ得ザリシハ右条件ガ

如何程迄支那政府ノ承知セル次第ナルヤ不明ノ為ニシテ右

条件ガ胡公使若ハ本使ヲ經テ為サレタルモノナルニ於テハ

日本政府ハ今少シク明確ナル表示ヲ為シ得タルナラムト述

ペタル處斬總理ハ右条件ヲ与リ知ラザル風ニテ余晉蘇ニ対

シ尋ヌルトコロアリ余晉蘇ヨリ右ハ予テ和約研究會ニ於テ

研究セルモノニシテ同人渡日前顏外交總長ヨリ受取り日本

ニ持參シタルモノナリト説明シタル結果思出シタル風ニテ

右条件ニ対スル本使ノ所見ヲメタルニ付全然本使個人ノ

私見トシテ右条件中日本ニ於テ承認シ得ザル点アルモ之ニ

基キ話ヲ進ム爾余地アルモノト認ムルガ故ニ譬へバ坂西ト

余晉蘇トヲシテ全然個人的ニ討議セシメ其結果ガ双方政府

ニ於テ採用シ得ベキモノナルニ於テハ之ヲ基礎トシテ両国

政府其決定ヲ為スコトトシテハ如何ト述ベタリ右本使ノ意

見ニ対シテハ斬總理ハ直ニ之ニ同意シ近日余晉蘇ヲシテ坂

西ト打合ヲ為サシムベシト答ヘタリ本件談話ノ詳細ハ会見

ルコトトナリ居レリ尤山東省長ニテ該公署規則ヲ実行セザル場合ニハ中央政府ニ於テ実行ヲ計画スルヨリ外無キモ目下ノ所山東省長ヲシテ実行セシムルコトトナリ居レリト述ベタル趣ナリ

因ミニ坂西ノ承知スル所ニ依レバ本件実行方打合並所要経費受取ノ為兩三日前濟南ヨリ役人入京セル趣ナリ

濟南へ貴電ト共ニ郵送ス

二八 八月二十二日

余晉蘇ノ山東善後措置案ニ付先づ余及坂西間  
在中國小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

ニ協議センムルコトニ斬總理同意ノ件

第五七七号(極秘)

(八月二十三日接受)

膠州湾租借地還附問題ニ閲シ外交總長ガ類ニ日本側ヨリ条件ノ内示アルコトヲ希望シタル次第ハ往電第五六二号ヲ以テ報告ノ通ナル処八月十七日本使斬總理ト会見ノ節同總理ヨリ日本ハ太平洋會議開会以前ニ山東問題ヲ解決セムトスル所存ナリヤトノ質問アリタルニ付本使ハ所謂山東問題ハ日支両國ノ間ニ直接決定シ得ベキ問題ナルガ故ニ太平洋會議以前ニ必ズ解決シ置カザルベカラザルモノトモ考ヘ居

二九 八月二十三日  
内田外務大臣宛(電報)  
警察督練公署設置計畫其後ノ成行ニ閲シ通報

ノ件

第三七八号

往電第三一四号中(三)警察督練公署計畫其後ノ成行ニ閲シ最近在支公使來電ニ拠レハ八月十七日小幡公使斬總理ト会見ノ際日本政府ニ於テ撤兵準備ノ都合モアレハトテ前記督練公署設置ノ計畫ニ対シ近頃新聞紙上ニ反対論散見セラレ旁実施延期ノ虞ナキヤ否ヤ推問シタルニ斬總理ハ該規則ハ内務部ノ部令ヲ以テ山東省長ニ訓令シタルモノナルニ付特ニ公布ニ及ハサルモノナル旨並ニ右実行方ニ閲シ山東省官憲ト協議ノ為人ヲ派シ又近ク坂西中将ニモ山東出張ヲ依頼セル次第ナル旨語レル趣ニテ又一方内務総長モ我公使館員ニ対シ略々同様ノ説明ヲ与ヘ且ツ巡警ハ約三箇月ニテ訓練ヲ終リ鐵道警備ノ任ニ当ランムル筈ナリ又本計畫ニ閲スル

一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ関スル件 三〇

三〇

反対ハ当該規則中外国ノ教習ヲ傭聘ストノ規定アルニ依ル

モノナルモ右教習ハ單ニ語学法規等ヲ教授スルニ止リ警備

ノ業務ニハ当ルモノニ非ス旁々前記委細ノ事情明白トナラ

ハ差シタル反対モ無カルヘキ旨内話セル趣ナリ

在欧各大使ヘ転電アリタシ

三〇 八月二十三日 在中國小幡公使ヨリ

内田外務大臣宛

華府會議及山東問題等ニ関スル斬總理及張交

通総長トノ会見録送付ノ件

附屬書一 八月十七日斬總理トノ会見録

二 八月十八日張交通總長トノ会見録

機密第二五九号

大正十年八月二十三日

(八月二十九日接受)

在支那

特命全權公使 小幡 西吉(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

極秘

太平洋會議並ニ山東問題等ニ関スル斬總理及張交通總

長トノ会見録送付ノ件 (関係電報往復第五七六号及同第五七七号)

（附屬書一）  
甲号 上海、廣東、天津、奉天、濟南、漢口  
乙号 八月十八日張交通總長トノ会見録  
本信寫送付先

本件ニ關シ左記書類及送付候也

書類要目

備考

八月十七日小幡公使斬總理会見録

甲号

在席者 余参事  
西田通訳官

公使

太平洋會議ノ貴国代表者ハ既ニ選定セラレタルヤ

總理

未定ナリ

公使

新聞紙等ニハ顏外交總長首席代表タルヘシトノ説アル  
カ如何

未定ナリ

未定ナリ

未定ナリ

公使

トシテハ政府側ノ意見ノミナラス広ク在野各方面ノ意見ヲモ十分ニ考量シ決定スル考ナリ

公使

日支両國ハ前年「ベルサイユ」會議ノ如キ双方爭論の

ノ失態ヲ繰返ササル様致度シ日本朝野ニ於テハ日支両

國ハ出來得ル限り協力シ両國ノ利益及極東ノ平和ヲ図

リ度考ヲ有シ居レリ例之貴國ニ於ケル法権回収案其他

貴國ノ發展ニ関スル一般主義又ハ原則ノ問題等ニ就テ

ハ日本ハ多大ノ同情ヲ有シ可成相互援助ノ方針ヲ以テ

臨ムヘキ希望ヲ有シ居レリ勿論貴國カ如何ナル提案ヲ

セラルルトモソハ貴國ノ自由ナラムモ日支両國ニテ直

接解決シ得ヘキ問題ハ両國間ニ於テ之ヲ解決措置スヘ

キコト至当ニシテ是亦日支両國ノ為ノミナラス実ニ東

洋平和ノ大局上ヨリ見テ最緊要ナルコト存ス

總理

該會議案ニ就テハ政府及在野方面ニ於テ種種ノ意見ア

ル模様ニシテ政府内部ノ意見必スシモ一致シ居ラス且

未タ十分ニ協議ノ運ヒニ至ラサル為具体案決定シ居ラ

ス何レ其内正式ニ討議決定セラルル筈ナリ而シテ政府

一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ関スル件 三〇

三一

ハ要スルニ日支両國ニ外ナラス此両國ニシテ十分ナル  
実力ヲ有センカ必シモ各國ト共ニ極東問題ヲ討議ス  
ルニ及ハサル次第ナリ極東問題ノ討議其事カ日支両國  
トシテハ已ニ面目ナキ次第ナルニ付右討議ハ之ヲ断リ  
テモ差支ナキ筈ナルモ現時ノ情勢ハ之ヲ許サス從テ支  
那トシテモ日支間ニ解決スヘキ問題ハ両國間ニ於テ解  
決ヲ計リ該會議ニ之カ提議ヲ為ササルコトニハ全然同  
感ナリ從テ山東問題ノ如キモ太平洋會議以前ニ可成迅  
速ニ解決ヲ計リ極東會議等ニ関聯セシメサル様希望シ  
居レリ就テハ貴國ハ如何ナル弁法ニテ之ヲ解決セン御  
考ナルヤ内意伺ヒ度シ

公使

山東問題ハ一見重大問題ノ如ク認メラルモ帰スル処  
具体問題トシテ重要ナル点ハ租借地、鐵道及鉱山等經  
済上問題ニ過キス塩田其他ノ事項ニ付テハ主要問題決  
定ゼンカ双方ニ於テ円満解決難事ニ非サルヘシ日本朝  
野ニ於テモ本件ノ如キハ可成速ニ解決センコトハ固ヨ  
リ希望スル所ナルモ奈何セン貴國カ交渉ニ応セサル為  
今日迄遲延セル次第ナリ本件ハ本來日支両國間ニテ解

頗外交總長ヨリ自分（余）ニ渡サレ渡日持參セシモノ  
ナリト答ヘ斬總理モ該意見書ニ付記憶ヲ喚起セル如キ  
態度ニ見受ケタリ

総理

山東問題ニ関スル直接交渉ハ從来ノ關係及國民輿論等  
ノ事情モアリ之ニ応シ兼ヌルモ日本カ如何ナル程度ニ

公使

驗期ニ遭遇セリ日本ハ断乎タル決心ヲ以テ親善ノ好意  
ヲ事實ニ於テ実証セラレントヲ切望ス然ラスシテ山  
東問題ノ如キヲ此儘ニ為シ置カンカ益国民喧嘩ノ口実  
除去セラレス遂ニハ太平洋會議ニ於テ極東問題ノ一部  
ニ關聯シ討議セラルルカ如キコトナキヤヲ懸念ス

於テ解決セントスル意見ナルヤ具体案ノ大要ヲ承知致  
度キモ今日迄右意思ノ表示ナキ為政府及民間ニ於テモ  
疑ヒ居レル次第ナリ從テ日本側ニテ具体案ヲ示サレ  
案カ誠意アル公平妥当ノモノナラハ支那側ニ於テモ誠  
意ヲ以テ之ヲ考量シ特ニ反対スル次第ニアラス双方意  
見交換ヲ行ヒ大体一致ニ近キタル上正式ニ商議セハ解  
決シ易シ若シ双方意見ニシテ一致ニ近カラサル場合ニ  
ハ中止シテ可ナリ然ラスシテ正式交渉ヲ行ヒ解決出来  
サル場合ハ又種種ナル紛擾ヲ惹起シ両國ノ為得策ナラ  
スト認ム今日迄日支親善ハ両国人ニテ唱ヘラレ日本側  
ニ於テモ最近此説高唱セラレツツアルニ拘ラス未タ親  
善ノ実ノ挙ラサルハ日本側ニ於テ親善ノ実意ヲ事実ニ  
示ササル為ニシテ今回ハ愈右実行セラルルヤ否ヤノ考  
察ナル

スヘキモノトハ考ヘ居ラサルモ日本トシテ可成一日モ  
速ニ之ヲ解決スルコトニハ勿論異議ナキ次第ナリ先般  
本使帰朝中余參事渡日坂西中將ニ手交セラレタル貴國  
側ノ山東問題解決条件ハ自分モ之ヲ閲読シタルカ右ハ  
其ノ提出セラレタル手続ニ於テ少シク欠クル所アルカ  
為日本ニ於テ直ニ正式ニ閣議ノ議題トスルコト能ハサ  
リシ次第ト考フ敢テ坂西中將若クハ余參事ヲ信用セス  
ト云フニハアラサルモ若シ該意見書カ非公式ナカラモ  
東京駐在胡公使ヨリ日本外務省カ又ハ貴国外交部ヨリ  
本使カニ提出アラハ本国政府ニ於テモ閣議ノ議案トシ  
テ正式ニ之ヲ考量シ具体的ニ政府ノ内意ヲ洩シ得タル  
ヘシト信ス尤モ自分個人トシテノ所見ヲ述ヘンカ該意  
見書ハ日本側ニ於テ異議ノアル点アルモ大体ニ於テ該  
条件ニ基キ商議ノ余地アルモノト考ヘラルニ付右ノ  
手続ニヨリ提出セラレテハ如何ト存ス

（此時斬總理ハ該意見書ニ付テハ十分承知セザルモノ  
ノ如ク傍ナル余參事ニ私語スルヤ余參事ハ斬總理ニ對  
シ該意見書ハ外交部和約研究会ニ於テ作製セルモノヲ  
本使ト屢々会見スルニ於テハ自然外間ノ誤会ヲ招クノ  
恐アルニ付坂西中將及余參事ヲ介シ内内双方ニ於テ内  
密商議ヲ進メ然ルヘシト考フ貴見如何

総理

貴意了承セリ追テ余參事ヲシテ坂西中將ト接洽セシム  
ルコトトスヘシ

(終)

(附屬書二)

八月十八日小幡公使張交通總長会見録

公使

在席 孫 潤 宇  
西田通訳官

公使

太平洋會議ノ貴國代表者ハ已ニ決定セラレタルヤ

張

正式ニ未タ決定セラレタル次第ニアラサルモ多分顔外  
交總長首席代表タルヘシ輿論トシテハ顧維鈞説多數ナ  
ルモ顧公使ハ多年米英両国ニ駐在シ歐米ノ事情ニハ精  
通セルモ支那本國及極東方面ノ事情ニ暗キ嫌ヒアリ而  
シテ今回ノ會議ハ主トシテ太平洋及極東問題討議セラ  
ルルニ付首席代表ハ顧維鈞總長適任ナルヘシト認ム其他ノ  
代表ニ付テハ目下詮議中ナルモ決定シ居ラス

王正廷氏ノ代表説ハ如何  
公使

巴里會議ノ節ハ王正廷ハ南方側代表ノ意味ニテ中央政  
府ヨリ任命シタルカ今回孫文側ニテハ王正廷ニ極力反  
対シ伍朝権派遣ノ意アリ從テ王正廷カ果シテ代表トシ  
テ渡米スルヤハ未定ナリ

張

太里會議ニ對スル貴國側提案ハ何等カ決定セルヤ貴  
國カ如何ナル提案ヲセラルトモソハ貴國ノ自由ナル  
ヘキモ日支兩國間ニ於テ直接解決シ得ヘキ問題ニ付テ  
ハ兩國直接ニテ措置シ往年ノ「ベルサイユ」會議ニ於  
ケルカ如キ失態ヲ繰返ササル様希望ス

張

全然貴見ニ同感ナリ該會議ニ對スル提案ニ就テハ未タ  
正式ノ討議ナキ為何等表現キ政府ノ決定トシテ述フヘ  
キモノハ在ラサルモ友人トシテ自分個人ノ意見ヲ述ヘ  
ンカ実ハ該會議ノ開催報道アリタル以來政府部内ニ於  
テモ内内討議ヲ行ヒ今回ノ會議ニ對スル支那政府大体

公使

貴見御尤ナリ双方代表間ノ意思疏通及相互協助ハ本使

ニ兩國全權代表ハ會見ハ固ヨリ双方意思ノ疏通スラ出  
来スニ終リシハ誠ニ遺憾ノコトナリ今回ハ支那側ニ於  
テモ此点ニ注意スヘキニ付日本側ニ於テモ十分ノ注意  
ヲ払ハレムコトヲ切望ス

ノ方針トシテハ(一)如何ナル問題ノ討議セラルト  
モ該會議ヲ法廷視シ提議案關係國ヲ原被両造ノ如キ地  
位ニ立タシメ参列各國ヲ恰モ審判官ノ如クスルコトハ  
絶対ニ之ヲ避ケ飽迄モ対等國カ自由ニ討議スル程度ニ  
止ムルコト(二)日支両國間ノ問題ハ出来得ル限り両

國ニテ直接解決シ之ヲ該會議ニ提議セサルコト蓋シ日

本ハ強國ニシテ支那ハ之ニ及ハサルモ此広大ナル領土  
ト豊富ナル資源ハ各國ノ注目スル所ナルニ付万一歐米  
各国ノ手段ニ乘セラレ支那問題ニ付支那トシテ一時日  
本ノ主張ヲ抑ユトスルモ日本ヲ抑圧シタル次ハ支那カ  
各国ヨリ抑圧セラルヘキ運命ニ陥ルコト明白ニ付此点  
ニ付支那トシテハ切ニ自覺スルノ要アルヲ悟リツツア  
リ從テ今回ノ會議ハ日支両國ノ代表間ニテ相互ノ協助  
聯絡ヲ因ルコトノ肝要ナルコトヲ切実ニ感スバ里會議  
ニ於テハ両國代表者間ハ勿論隨員間ノ聯絡スラ十分ニ  
トレス劉宗傑ノ如キハ主トシテ日本側トノ聯絡ヲ計ル  
為特ニ出張シタル次第ナルモ巴里着早早四方八方ヨリ  
壳國奴呼ハハリヲセラレ遂ニ其ノ目的ヲ達セス又日本  
側ニ於テモ聯絡ヲ計ルニ適當ナル人物ヲ欠キタル為ス

リ又貴国在野派民間ノ運動等ノ為遂ニ貴国政府ノ決定  
通ノ行動ニ出テ難シトノ懸念ナキニ非ス日本トシテハ  
前言セル通取テ貴国ノ提案ニ干渉スルノ意ハ毫末之ヲ  
有セサルモ日支両国ニ於テ当然解決スヘキ問題ヲ何等  
ノ商議モナク唐突ニ會議ニ提議セラレンカ日本ノ面目  
上若シ日支両国間ニ於テ商議アラハ解決シ得ヘキ問題  
モ該会ニ提議アリタルカ為遂ニ解決困難トナルカ如キ  
コトアルヘクスケテハ両国ノ為甚タ不得策ト考ヘラル  
ルニ付日支間ノ問題ニ付提議セラル場合ニハ予メ日  
本側ニ商議セラル様希望ス此点ハ特ニ注意ヲ煩シ度  
シ本使帰任後顏外交總長及昨日斬總理ニモ会見シ大要  
太平洋會議ノコトニ談及シタルカ斬總理ヨリ何等話ア  
リシヤ

## 張

貴説篤ト了承セリ實ハ今朝國務會議終了後斬總理ヨリ  
顏總長及自分ニ對シ貴公使トノ会談ノ大要話シアリタ  
リ尚貴公使ヨリ注意アリタル在野民間ノ運動ニ關シテ  
ハ已ニ或ル一派ノ画策トシテ支那代表ノ着米スル機會  
ヲ待チ在米華僑（在米支那居留民）ト聯絡シ彼等ノ勢

力ヲ利用シテ支那代表ノ行動ヲ制肘セントスル計画ア  
リトノコトヲ承知シタルニ付之カ対応策ヲ講シツツア  
リ將又目下外交部ニ於テ太平洋會議ニ關スル準備ヲ為  
シツツアルモ其多クハ支那側ヨリ提議ゼンカ為ノ準備  
ニアラスシテ主トシテ該會議ニ於テ議題トナリ自然質  
問ヲ受クルカ如キ場合ニ之カ回答ノ準備ヲ為シ居レル  
次第ナリ

## 公使

太平洋會議及極東會議ノ議題ノ内容ニ就テハ何等承知  
スル所ナク彼ノ共同管理案ノ如キ米国及日本新聞等ニ  
於テ報道セラレ居ルカ自分トシテハ斯クノ如キコトナ  
シト想像スルモ貴国側ニ何等右ニ關スル報道ニ接シ居  
ラルルヤ

## 張

特ニ確實ト認ムヘキ報道ニハ接シ居ラサルモ已ニ米国  
新聞等ニ斯ル論議ノアル以上欧米人間ノ一部ニハスル  
意思ノアルコトハ想像スルニ難カラス現ニ今回欧米各  
国及日本ヲ巡視帰国セル朱啓鈴ハ欧米各国ニ於テ相当  
人物トモ会談ヲ重ネ且黄色人種カ如何ニ待遇セラレ居

ルカヲ親シク見聞シタル次第ナルカ同人帰国後ノ談話  
ニ依ルモ今回ノ太平洋會議ハ支那トシテハ禍福何レナ  
ルヤ頗ル疑問ナリト述ヘ一見目前ノ福音ハ将来ノ禍音  
タルニアラスヤト憂慮シ政府ノ慎重ナル態度ヲ要スル  
旨内話シ居レル次第ナリ從テ此等ノ点ニ付テモ支那ト  
シテハ十分注意スヘキ考ナリ

三一 八月二十四日 在中国小幡公使（ヨリ  
内田外務大臣宛）（電報）

山東問題内交渉ニ關シ最早我方ノ具体的条件  
決定ノ時機ニ達セルモノト認メラルルニ付何  
分ノ結果回示方稟請ノ件

附記 八月二十七日児玉中佐及木村亞細亞局第一課長  
間電話

第五八〇号（極秘）

往電第五七七号ニ関シ

八月二十二日外交總長ハ特ニ余晉龢ヲ呼ビ寄セ同人ニ対シ  
全然個人ノ資格ヲ以テ坂西ト山東問題解決条件ヲ討議シ然  
ルベキ旨ヲ申附ケ同時ニ至急日本側意見ヲ坂西ヨリ徵スル  
コトヲ命ジタル趣ヲ以テ余晉龢ヨリ話アリタル由ナリ就テ

力ヲ利用シテ支那代表ノ行動ヲ制肘セントスル計画ア  
リトノコトヲ承知シタルニ付之カ対応策ヲ講シツツア  
リ將又目下外交部ニ於テ太平洋會議ニ關スル準備ヲ為  
シツツアルモ其多クハ支那側ヨリ提議ゼンカ為ノ準備  
ニアラスシテ主トシテ該會議ニ於テ議題トナリ自然質  
問ヲ受クルカ如キ場合ニ之カ回答ノ準備ヲ為シ居レル  
次第ナリ

一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ関スル件 三二

三八

(附記)

八月二十七日陸軍省児玉中佐及木村亞細亞局第一課長間電話

山東問題ニ関スル坂西及余晉龢間内交渉開始ニ関シ陸軍省側ヨ

リ外務省側ノ意見問合ノ件

八月二十七日児玉中佐ヨリ木村課長ニ対シ電話ニテ坂西中將ヨリ余晉龢ト山東問題ニ関スル内密話合開始方ニ関シ陸軍大臣宛電報アリタル處右ニ対スル外務省ノ意見承知シ度旨申出アリ木村課長ハ之ニ対シ右ニ関シテハ外務省ニテ目下慎重考慮中ナルカ自分トシテハ斯ル方法ニテ交渉ヲ進ムルコト果シテ得策ナリヤ否ヤ大ニ考慮ヲ要スルモノアリト思考スル旨答ヘタルニ児玉中佐ハ陸軍省ニ於テモ略ホ同意見ニシテ実ハ右趣旨ニテ暫ク内交渉見合方一応坂西へ回電セんカトモ考ヘ居ル次第ナリト述ヘ尚外務省ニ於テハ本件ニ関シ近ク方針ヲ決定セラルル運ヒトナルヘキヤト質問セルニ付木村課長ハ右ハ目下考慮中ナルモ何レ決定ノ上ハ閣議ニ提出スル等必要ノ手続ヲ執ルコトナルヘキ旨答ヘ置ケリ

三一 八月二十五日 在中國小幡公使(ヨリ)  
内田外務大臣宛(電報)

警察督練公署設置ニ対スル濟南ニ於ケル反対

テハ依然当初ノ計画通实行シ反対運動ノ為何等変更スル考ヲ有セズト答ヘタリ日本ヨリ推薦セラル可キ教習選定目下如何相成リ居ルヤ本使含ミ迨回電ヲ請フ  
在濟南總領事ヘ郵送セリ

註 八月二十三日在濟南森總領事發外務大臣宛第三三号ヲ省略セリ、右ハ濟南ニ於ケル警察督練公署設置反対運動ヲ報告セルモノナリ

三二 八月二十六日 在米國幣原大臣宛(電報)

山東問題ノ日中間直接交渉ヲ米國方中国ニ勧告スル為我方ノ条件ヲ承知シ度旨申出デタル

二対スル我政府ノ意向問合ノ件

第五六一号 (八月二十八日接受)

貴電第三八四号ニ依レバ支那外交總長ハ山東問題ヲ華盛頓會議ニ提出セザル意向ヲ小幡公使ニ洩シタル趣ナルモ右ハ元ヨリ支那政府ノ確定意見ニハ非ザル可ク他ノ一方ニ於テ今回調印ヲ了シタル米獨約中米國ガ何等ノ義務ヲモ承認セザル条項ヲ列挙シ其内ニ山東條項ヲモ含ムハ注意ヲ要スル所ニシテ若シ會議前ニ山東問題ノ解決ヲ見ルニ至ラザル

一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ関スル件 三三 三四

三五

三五 九月一日 在中國小幡公使(ヨリ)  
内田外務大臣宛(電報)

警察督練公署ノ教習人選等ニ就テハ坂西ト中

運動ニ付額外交總長ノ意向問質シノ件

第五八二号

濟南發閣下宛電報第三三号(註)反対決議ハ中央政府ノ決意ヲ動

搖セシメタルナキヤ聊カ懸念セラレタルニ付八月二十四日

外交總長ニ會見右ノ如キ反対運動又復警察官ノ養成ニ頓挫

ヲ來タサバ自然撤兵モ遲延シ日本側ノ準備ニモ齟齬ヲ來タ

ス理合ナル旨ヲ陳述シ右反対ニ対スル意嚮如何ヲ問ヒタル

処同總長ハ督練公署規則ニ付テハ山東地方官憲ヨリ多少ノ異見モアリ目下内部ニ於テ現規則ニ修正ヲ加ヘントシ(既

ニ相當訓練ヲ了リ実務ニ経験アル巡警ハ一ヶ月乃至二ヶ月半ニテ該公署ノ養成ヲ了リ実地ニ派遣シ(新補ノ巡警ハ該

公署ニ於テ長期間ノ訓練ヲナスコトセリト述べタリ仍テ本使ヨリ反対運動ハ主トシテ該公署ニ外国人教習ヲ傭聘ス

ルコトニ在リト認ムルガ日本人教習ノ傭聘ハ已ニ貴國政府ニ於テ承諾セラレ居リ又右ハ最モ必要ナル点ナルガ右ノ点ニ変更ヲ來タスガ如キコト無キヤト聽キタルニ対シ同總長

ハ該公署ノ短期及長期何レノ訓練ニモ外國教習ハ傭聘スル筈ニナリ居レリ將又山東團体反対ノコトハ報告アリタルモ右ハ差シテ有力方面ニテ反対スルニ非ザルガ故ニ政府ニ於

ノ御意向可成至急御回訓ヲ請フ

在欧各大使ヘ転電セリ

三四 八月二十七日 在中國小幡公使(ヨリ)  
内田外務大臣宛(電報)

警察督練公署ニ日本人教習聘用ニ付坂西ト中

国側トノ間ニ話合アリタルヤ確メ方訓令ノ件

第四一八号

貴電第五八二号末段ニ關シ本件教習聘用ニ付テハ或ハ坂西ト支那側トノ間ニ何等カ話合ノ次第アルヤモ計ラレズ旁々為念同官ヘ御確メノ上結果當方ヘモ電報アリ度シ

三九

## 國側トノ間ニ未タ話合無干旨報告ノ件

(九月一日接受)

第五九九号

貴電第四一八号ニ閲シ

教習人選等ニ就テハ坂西ト支那側トノ間ニ未タ何等ノ話合無キ趣ナルカ坂西モ該教習ハ必ズシモ陸軍出ノ者ニ限ラス寧口良ク支那ノ事情ニ通セル者ヲ選フコト必要ナリトノ意見ニテ本使ニ於テモ全然同感ナリ尚督練公署会弁細目ニ閲シテハ尚田督軍ト中央政府トノ間ニ多少意見ノ纏ラザル点アリ坂西ニ於テハ目下右支那側内部ガ或程度迄纏ルヲ俟チ居ル次第ナリトノコトナリ

三六 九月三日 内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛 (電報)

## 山東問題ノ我方解決案ヲ公然中國側ニ提示方

訓令ノ件

別電 同日内田外務大臣発小幡公使宛電報第四三四号 我方ノ山東善後措置案大綱

第四三三号(極秘)

往電第三七四号ニ閲シ其後幣原大使國務長官ト会談ノ次第ハ往電第四三五号<sup>(註)</sup>ニテ御承知ノ通ナルガ米国國務長官ニ於

覚書ニ認メ外交總長ニ手交セラレタル上右大綱ハ曩ニ支那側ヨリ非公式ニ内示シ来レル措置案ヲモ酌量シタルモノニシテ之ヲ以テ支那側提案ニ対スル我方対案ト見ルモ差支無キガ要スルニ右列記ノ各項ハ我最終ノ讓歩程度ヲ表示セルモノナリ元來山東問題解決ノ骨子ニ就テハ巴里和平會議ニ於テ隔意無キ討議ヲ経當時已ニ列國ノ諒解ヲ経タル所ニシテ帝国政府トシテハ右巴里會議ノ了解ヲ尊重實行スルヲ以テ足レリトスル筋合ナルモ我方ニ於テハ一二日支親善ノ大義ニ鑑ミ一面支那側ノ希望ヲモ究明酌量シテ公正寛容ナル解決案ヲ案出シタルモノニテ実ハ我方トシテハ差当リ支那側ノ希望ヲ聽取スルノ立場ニ在リテ進ンデ妥協条件ヲ開示スルノ地位ニアルモノニ非ズト雖已ニ支那側大体ノ意図モ判知セラレタルヤニ認メラルニ付進シテ我方解決案ヲ提示スルコトニ決定セル次第ナルヲ以テ支那政府ニ於テモ切実ナル考量ヲ加ヘラレタル上本解決案ヲ基礎トシ商議開始ノ意ヲ速カニ表明セラルルト同時ニ細目協定ノ為メ委員ヲ任命セラレ度旨申入レラレ結果電報アリタシ尚ホ貴電第五七七号ノ次第ハアルモ此ノ上裏面ニ於テ全然個人的談合ヲ重ネシムルモ其効果疑ハシキノミナラズ或ハ却テ中傷的宣

テ本問題促進ノ為メ好意的斡旋ノ勞ヲ執ラムトスルニ対シテハ固ヨリ我方トシテ之ヲ回避スヘキ理由無ク寧口之ニ依テ本問題ノ円満ナル促進ヲ期スルコトヲ得バ洵ニ好都合ト思料シ居ル次第ナルモ去迎進ンデ我方ヨリ米国政府ヲ經テ支那側ニ解決条件ヲ提示スルガ如キハ日支直接交渉ノ本義ニ戻ルノミナラズ商議ノ進行ニ伴ヒ支那側ラシテ事毎ニ米国ノ居中調停ニ倚頼セシムルガ如キ俑ヲ作ルノ虞アリ加之恁ノ如クムバ既成事實若クハ特定國間限リノ事項トシテ本義ヲ抛ツモノト謂ハザルベカラズシテ我方ニ於テ容易ニ承認シ難キ所ナリ去リ乍ラ本問題ノ迅速且円満ナル解決ヲ期セムコトハ我方年來ノ素懷ニシテ殊ニ今次ノ華盛頓會議ニ閲聯シ我方ニ対スル中傷非難ノ資料ヲ出来得ル限り減ズルガ為メ現下ノ涉外的懸案ニシテ會議ノ問題ニ供セラルルムコトハ帝國政府已定ノ方針ニ有之傍々篤ト熟ノ末此際公然我方解決案ヲ支那側ニ提示シ以テ我公正寛容ナル方針虞アル案件ハ事情ノ許ス限り成ルヘク予メ迅速解決ヲ図ラムコトハ帝國政府ノ切実真摯ナル考量ニ想フルコトニ決定セリ就テハ貴官ハ別電第四三四号我方善後措置案大綱ヲ

伝ノ具ニ利用セシムルノ虞無キニ非ズ旁々寧口前述ノ措置ニ出デ本件ノ迅速解決ヲ図ラムトスル次第ナルガ支那ニ於テ我力公明ナル態度ニ拘ハラズ尙ホ逡巡シ又ハ不当ノ条件ヲ提出シ談判不調トナルモ我方ニ於テハ此ノ公正ナル態度ヲ内外ニ宣示シテ支那側ラシテ徒ラニ術策ヲ逞ウセシムルノ余地ナカラシムル方得策ト思考セラルルニ付右御含ノ上可然御措置アリタシ

(別電) 本電及別電ハ九月二日閣議及外交調査会ノ決定ヲ経タルモノナリ尚九月三日外務大臣発小幡公使宛電報第四三五号ハ前掲幣原大使發内田外務大臣宛電報第五三六号ノ( )ノ要領ス

( ) 膜州灣租借権並中立地帶ニ閲スル権利ハ之ヲ支那ニ還附ス

山東善後措置案大綱

第四三四号

別電 極秘

外国人ノ居住及商工農業其他一切合法ノ職業ノ自由ヲ認メ且外国人ノ已得權利ヲ尊重承認スルニ於テハ帝国政府ハ進ノデ專管居留地乃至共同居留地設置案ヲ撤回スヘシ

支那政府ハ外国人ノ居住貿易ノ為速カニ山東省ニ於ケル適當ナル諸都市ノ開放ヲ実行スヘシ  
前各項開放地ノ開埠章程ハ支那政府ヨリ予メ關係各國ニ協議ノ上之ヲ決定スヘシ

〔三〕山東鐵道及附屬鉱山ハ日支合弁組織トス  
四膠州租借條約ニ基ク人資本材料供給ニ關スル一般優先權ハ之ヲ拠棄スヘシ

〔五〕山東鐵道延長線ニ對スル權利及煙濰鐵道等ニ對スル優先權ハ對支新借款團ノ共同事業ニ提供スヘシ

〔六〕青島稅關ハ獨逸時代ノ制度ニ比シ更ニ一層支那稅制度ノ一部タルコトヲ明確ニスヘシ

〔七〕原則トシテ租借地内ニ於ケル行政的官有財產ハ支那ニ讓渡スヘシ但公共營造物ノ維持經營ニ關シテハ別ニ協定スヘシ

〔八〕前各項實行ニ關スル細目其他ニ就テハ別ニ之ヲ協定スルコトトシ之カ為メ速カニ日支兩國政府ニ於テ委員ヲ任命

スヘシ

〔九〕山東鐵道特別巡警隊ノ組織ニ關シテハ日支間ニ追テ協定セラルヘシト雖既ニ再三声明セル通支那政府ヨリ巡警隊組織ノ通告ニ接シ次第日本政府ハ直ニ撤兵ヲ宣言シ鐵道

警備ノ任ヲ巡警隊ニ引継キタル上引揚クヘシ

三七 九月三日 内田外務大臣ヨリ  
在米國幣原大使宛（電報）

山東問題解決ノ我方条件ヲ國務長官ニ伝ヘ同

長官ヨリ中國側ニ日本トノ直接交渉ヲ勧告セ

シムル様懇談方訓令ノ件

極秘第四〇四号

貴電第五三六号及其後迭次ノ貴電ニ關シ此ノ際山東問題ノ促進ヲ期スルコト得策ナルハ全然同感ニテ之力為我方条件ヲ支那政府ニ提示スルト同時ニ米國政府ヲシテ支那ニ對スル好意的勸告ヲ為サシムルコト得策ト思考セラルニ付慎重審議ノ末今般在支公使ニ對シ別電第四〇五号及第四〇六号ノ通電訓シタルニ付委細右別電ニテ御承知ノ上在支公使ニ於テ訓令執行ノ上ハ更ニ其旨貴官へ電報スヘキニ付右電報接到次第貴官ハ別電第四〇六号善後措置案大綱ヲ覺書ニ

認メ國務長官限リ内密ノ参考迄トシテ同官ニ手交セラレタ

ル上別電第四〇五号（在支公使宛第四三三号）ノ趣旨ヲモ

参酌シ帝國政府カニ友好妥協ノ精神ヲ以テ一日モ速ニ本

問題ノ円満ナル解決ヲ期セムカ為メ公正寛容ナル解決條項ヲ

ヲ提出シテ重テ商議ノ速開ヲ促スニ至レル次第ヲ敷衍説述

シ進シテ最近國務長官カ本問題ニ關シ極メテ友好的考慮ヲ

加ヘラレタルハ洵ニ感謝ニ堪ヘザルガ帝國政府ノ本

問題ニ對スル公正ナル態度ハ本覚書ニ依リ諒解セラルコ

トト思考ス然ルニ元來支那政府ハ内実直接交渉ニ傾キツ

而カモ或ハ外國ノ支援調停ヲ空願ミシ或ハ民論ノ向背ヲ考

慮シ公然直接交渉ヲ開始スルノ勇氣無キ為メ逡巡セルモノ

ナルヲ以テ此ノ際其ノ最モ信賴セル米國政府ヨリ速カニ直

接交渉ニ応スルコト得策ナル旨勧告セラルニ於テハ問題

ノ解決迅速且容易ナルヘキ力ト思考ス仍テ不取敢我公正寛

容ト思惟スル条件ヲ支那政府ニ提示シ商議ヲ開始スルト同

時ニ米國ニ内示スル次第ナリ就テハ幸ニ國務長官ニ於テ帝

国政府ノ誠意ヲ諒トシ最近本問題ニ就キ表示セラレタル好

意ヲ持続セラレ此ノ際支那側ニ對シ日本トノ間ニ迅速妥結

スル方可然旨簡単ニ忠言ヲ与ヘラルレバ幸甚ナル旨御懇想

モ内示シ我公正ナル態度ニ対シ諒解ヲ求ムルコトトセル旨  
可然説明シ置カレタシ  
在欧米各大使ヘ転電アリタシ

三九 九月六日 在中国小幡公使（ヨリ）

内田外務大臣宛（電報）

### 山東善後措置案大綱中ノ疑問点ニ付問合ノ件

極秘

第六〇八号（至急）

（九月七日接受）

貴電第四三四号ニ関シ

左記各項ニ対シ本使心得迄何分ノ儀至急御回示ヲ請フ

〔措置案大綱（二）第三項「關係各国」トハ如何ナル範囲  
ノ各国ヲ指ス義ナリヤ

〔措置案大綱（五）「山東鐵道延長線」ハ高密徐州線ヲ含

ムコトハ勿論ト存ゼラルルガ「煙濰鐵道等」ノ意義ニ付外

交総長ヨリ質問アリタル節ハ如何答へ然ルベキヤ

〔措置案大綱（六）ハ青島稅關ヲ以テ他ノ支那稅關ニ比ス  
レバ尚特例ヲ存スルモ独逸時代ニ比シテハ一般稅關ニ近キ

モノトナサントスル趣旨ナリヤ果シテ然ラバ具体的ニハ如

何ナル点如何ナル程度ニ於テ右ノ如キ特例トスル趣旨ナリ

### 貴電第四三三号及貴電第四三四号ニ関シ

九月七日外交総長ニ会見御訓令申入ルベキガ支那政府從来

ノ遣リ口ニ鑑ミ且帝国政府ガ山東問題ニ付申入ラスベキ旨  
ノ日本ヨリノ先触レ的報道例ニ依リ既ニ漢字新聞ニ現ハレ  
居ル位ナレバ本件申入ヲ為スヤ否ヤ故意若クハ過失ノ如何  
ヲ問ハズ其内容或ハ其ノ儘或ハ改竄セラレテ外間ニ漏ルベ  
キハ必定ニテ之ガ為メ諸種ノ物議ヲ醸スノ虞アリ且早速内  
外新聞記者ノ質問ヲモ受クベシト思ハルル処此ノ場合ニ申  
入ノ事実ヲ否認スルコトハ出来難シト存ゼラルルヲ以テ不  
取敢之等山東問題措置案大綱ヲ外交総長ニ内示シタルハ事  
実ナルモ其ノ内容ニ付テハ當館トシテハ未ダ之ヲ公示スル  
ノ地位ニ在ラザル旨ヲ伝ヘ置クベキニ付右ニ御承知アリタ  
ク其ノ上ニテ帝国政府ニ於テ右公開ヲ差支ナシト認メラル  
ル最初ノ機会ニ於テ成ルベク速ニ之ヲ公表セラルルコト緊  
要ト思考ス其ノ場合ニ備フル為メ貴電第四三四号英訳至急  
作製ノ上電報ヲ請フ

（六日）

### 提示ノ趣旨ニ付回訓ノ件

第四四七号（至急）

第六〇九号（至急）

（九月七日接受）

ヤ此点ニ付抽象的ノ提案ダケニテハ支那政府ハ可否ヲ述ブ

ルコト能ハザルヤモ知レズ

四海底電線問題ニ対スル処置ハ貴電各項ノ何レニモ包含セ  
ラレザル様ニ存ゼラル（ル處支那）側ニ於テ相当重キヲ置

キ居ル点ノ一ト思ハレ本件ハ曩ニ非公式ニ先方ヨリ内示シ

来レル措置案中ニモ一項ヲ成シ居ル次第ニ付帝国政府ノ意

嚮ヲ尋ヌベシト思ハレ右ノ場合ニハ如何回答シ然ルベキヤ

〔塩田ノ処置ニ関シテハ措置案大綱（二）「一切合法ノ職

業」中ニ含マシムル御趣旨ト察セラル其支那一般塩務トノ

関係ハ如何落付クコト然ルベクトノ御腹案ナリヤ大体主義

上ノ御意向ナリトモ承知致置キタシ

〔青島埠頭ハ措置案大綱（七）ノ但書ニ依リ処置スル趣旨

ト心得然ルベキヤ

四〇 九月六日 在中国小幡公使（ヨリ）

山東善後措置案大綱ヲ中国政府申入ノ事実外

間ニ漏洩ノ場合ニ対スル措置ニ付稟申ノ件

極秘

一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ関スル件 四一  
内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛（電報）

### 山東善後措置案大綱中ノ疑問点及措置案大綱

一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ関スル件 四一

在ル旨可然應酬シ置カレタシ

事情前頭ノ通ニ付御問合セノ各項ノ如キモ未ダ政府トシテ確定案ヲ有スル次第ニ非ズハ支那側ノ希望ヲモ酌量シテ篤ト考究ヲ尽シ度所存ナルモ差当リ當方ノ所見單ニ貴官限リノ御含迄左ニ申添ス

(一)措置案大綱(二)ノ内「關係各國」トハ租借地其ノ他開放地ニ現ニ利益關係ヲ有スル各國ヲ指シ敢テ範囲ヲ限定セムトスルノ趣旨ニ非ズ

(二)措置案大綱(五)「山東延長線」ハ高密徐州線ノ外濟南順德線ヲ含ミ又「煙濰鐵道等」トハ開封兗州線ヲモ顧慮シタルニ依ル

(三)措置案大綱(六)ハ青島稅關ニ關シ獨逸時代ニ於ケル各種特權ヲ固執スルコト無ク大体之ヲ一般的ニ支那稅關制度ノ一部タラシメムトスルノ趣旨ナルモ青島ニ於テ最モ多額ノ輸出入税ヲ收ムル日本ノ地位ニ對シ自然特異ノ考慮ヲ払ハルヘキコト至當ト認メラレ右等ハ兩國委員ノ討議ニ譲ルヘシ

四海底電線ニ關シテハ青島芝罘線及青島上海線ハ已ニ一旦完全ニ我手中ニ歸シタルモノナルハ勿論本件ノ処分ニ就テ同總長ハ二週間乃至四週間ヲ要スペシト答ヘタリ依テ本使ハ本国政府ニ於テハ本大綱ニ關スル貴國政府ノ回答ヲ成ルベク早ク承リ度キ希望ナルヲ以テ至急御考慮ノ上早速回答アランコトヲ望ム旨述ベ置キタリ

次イデ同總長ハ本使申入レノ口上振(大綱案ノモノノ意味ニ非ズ)ハ若シ之ヲ外國側ニ対シ通知若クハ發表セラル

ル場合ハ一應商議ノ上ニ致サレタシ万一千何等相談ナク通知又ハ發表セラル場合ニハ自然支那側ノ立場トシテモ之ニ對スル一種ノ声明ヲ為サザルヲ得ザルヤモ知レズト何カ頗ル氣ニスル次第アルモノノ如ク繰返シ申述ベタリ(右ハ本使申入レノ口上振中ニ支那側ヨリ既ニ内示云々ノ言アリタルヲ以テ万一之ガ發表セラルニ於テハ現内閣ガ内外ニ対シ頗ル面白カラザル立場ニ立ツフ苦慮シテナラント想像セラレタリ)依テ本使ハ右口上振ヲ外國側ニ通知又ハ發表スルヤ否ヤニ付テハ何等ノ訓令ニ接セザルヲ以テ承知セザル

ハ佐世保青島線ノ処分ト併セ考究スルノ要アリ場合ニ拠テ

ハ佐世保青島線ト交換問題トスル方得策ナルヘク旁々措置案大綱(八)ニ包含セシメ別箇ノ協定ニ讓リ度意向ナリ(四)塩田ニ關スル処分ハ措置案大綱(二)ニ包含セシメ尠クモ外國人ノ已得権利トシテ之ヲ尊重セシムルノ要アルモ本件ハ塩務制度トノ關係ヲモ顧慮スルノ必要アリ從テ別ニ協定ヲ要スル重ナル問題ノ一ナリ

(五)埠頭ノ処分ハ措置案大綱(七)但書ニ該當スヘシ尤モ埠頭ノ如キハ棧橋倉庫ノ類ト共ニ山東鐵道ノ附帶事業トシテ同会社ニ交付シ其ノ資產ノ一部ト為スモ一策ナルヘク是亦兩國委員ノ討議ニ譲ルヲ得策トスヘシ

(六)埠頭ノ処分ハ措置案大綱(七)但書ニ該當スヘシ尤モ埠頭ノ如キハ棧橋倉庫ノ類ト共ニ山東鐵道ノ附帶事業トシテ同会社ニ交付シ其ノ資產ノ一部ト為スモ一策ナルヘク是亦兩國委員ノ討議ニ譲ルヲ得策トスヘシ

四二 九月七日 在中國小幡公使(ヨリ) 内田外務大臣宛(電報)

山東善後措置案大綱覺書ヲ額外交總長二手交ノ件

第六一三号(至急) (九月八日接受) 貴電第四三三号ニ關シ

九月七日本使外交總長ニ會見貴電第四三四号各項ヲ記載セル覺書ヲ一讀ノ上之ヲ手交シ御電訓ノ口上申入レタル処同

モ貴總長ヨリ話シノ次第ハ本国政府ニ報告シ置クベシト答ヘ置ケリ次イデ同總長ハ手交セラレタル覺書ハ秘密ニ附スベキモノニ非ザルベシト問ヒタルニ付本使ハ秘密取扱ニスベシトノ電訓ニ接シ居レルニ付右様承知アリタシト告ゲケリ

四三 九月八日 内田外務大臣ヨリ  
在米國幣原大使宛(電報)

我方ノ山東善後措置案大綱ヲ國務長官ニ内示

シ可然説明方訓令ノ件

第四一〇号 極秘 至急

往電第四〇四号ニ關シ別電第四一一号ノ通リ在支公使ヨリ電報アリタリ就テハ貴官ハ前記往電ノ趣旨ニ依リ措置案大綱ヲ米國國務長官ニ内示シ可然説明方取計ハレタシ尤モ別電外交總長ノ口吻ニ顧ミ支那政府ハ往電第四〇五号(在支公使宛第四三三号)中曩ニ支那側ヨリ非公式ニ内示シ来レル措置案云々ニ關シテハ此ノ際言及スルコトヲ避ケタキ希望ナルガ如キモ米國側ヘ内談ノ際ハ此ノ經緯ヲ説明シ置カレタシ尚貴官ヨリ國務長官ニ内示セラレタル措置案大綱英訳文全文電報アリタシ

別電ト共ニ在欧各大使ニ転電シ殊ニ在英大使ニ対シテハ訳文ノ統一ヲ期スル為メ貴官ニ於テ作成ノ英訳文ヲモ併セ電報シ在英大使宛第四九七号ノ趣旨ニ依リ可然措置方訓令トシテ附言セラレタシ

註 別電第四一二号ハ前掲小幡公使ヨリノ來電第六一二号ナリ

四四 九月八日 在米國幣原大使  
内田外務大臣宛(電報)

日本ハ中国ニ対シ山東問題解決ノ提案ヲ為ハ

タル旨ノ東京合同通信ノ報道取消方稟請ノ件

別 電 同日幣原大使発内田外務大臣宛電報第五八五号

第五八四号 極秘

貴電第四一〇号本朝漸ク接受シタルノミニテ山東問題解決

条件ハ未タ國務長官ニ内示スル運ビニサヘ至リ居ラザル程

ナルニ八日東京合同通信ハ別電第五八五号ノ如キ報道ヲ伝

ヘタル為其ノ実否ヲ問合セ来ル向キアリ當方ニ於テハ不取

敢之ヲ取消シ置キタルモ右通信ノ内容ハ國務長官ニ対シ大

ナル迷惑ヲ及ボスノミナラズ今後本件ノ進捗ニ支障ヲ來ス

虞ナキヲ保セザルニ付貴地ニ於テ至急明確ニ取消方御取計

ヲ請フ

(別 電)

Japan has forwarded to Peking a proposal for the settlement of the Shantung controversy, according to a statement published in Tokio papers today. The papers said that the approval of the proposal by Secretary of State Hughes of United States had been obtained by Japan through Ambassador Shidehara before it was forwarded to Peking.

第五八五号

四五 九月九日 在中國小幡公使  
内田外務大臣宛(電報)

我方ノ山東善後措置案大綱ニ対スル中國政府

内部ノ反応等ニ付報告ノ件

第六一六号(極秘)

往電第六一三号ニ閲シ

九月八日坂西ガ斬總理ヨリ同日ノ國務會議ニ於ケル我方ノ

使トノ会見ニ於テ外交總長ガ我基礎条件ハ秘密ニ附スルノ

必要ナキモノナラズヤト云ヒ又支那政府ノ回答ハ二三週乃至三四週間後ニアラザレバ回示シ得ザルベシト云ヘルハ我

提案ヲ公表シ國論ノ帰趨ヲ見届ケタル上其ノ拒否ヲ決ゼン

ト欲スル意向ト察セラル

(九日)

四六 九月九日 在米國幣原大使  
内田外務大臣宛(電報)

山東善後措置案大綱ヲ國務長官一手交及中国

ニ対スル口中間直接交渉勧告方ヲ希望竝同長

官ノ質問ニ応答ノ件

第五九〇号(九月十一日接受)

九月八日國務長官ト会見ス先づ山東問題ニ閲シ同官ガ其解決ヲ促進センガ為從来意ヲ用ヒラレタルヲ謝シタル上今回帝國政府ハ同一ノ目的ヲ以テ具体的の解決案大綱ヲ支那政府ニ開示スルコトニ決シ既ニ昨日在支日本公使ヨリ支那政府ニ之ヲ提出シタル旨ヲ告ゲ國務長官ノ参考トシテ右解決案大綱(往電五八〇号)ヲ読上ゲ其写ヲ手交セリ

次テ本使ハ帝國政府ガ本件提議ヲナスニ至レルハ偏ヘニ日

支間ノ難問題ヲ速ニ解決シ両国ノ親交ヲ増進セントスルノ

外何等他意アルニ非ズ支那政府ガ右提議ニ応ズベキヤ否ヤ  
ハ未ダ明ナラズト雖近年支那ノ状勢ヲ察スルニ政府ハ何等

ノ思慮又ハ責任ヲ有セザル青年学生輩ガ素リニ政治問題ニ  
容喙シ建設的計画無クシテ徒ラニ破壊的活動ヲ事トスルヲ

制止セズ却テ之ヲ利用シ又ハ之ニ利用セラレテ共ニ危険ナ  
ル方向ニ走ルヲ常トスルガ故ニ山東問題ノ如キモ果シテ日

本ノ公正寛大ナル態度ヲ諒トシテ誠実ニ解決ニ協力スルノ  
決心アルベキヤ疑ナキ能ハズ若シ支那政府ニ於テ本件交渉

ニ応ズルコトヲ遷延シ來ル華府會議ノ議場ニ於テ巴里會議  
ノ紛擾ヲ再演セントスルガ如キコトアラバ之誠ニ無謀ナル

政策ニシテ會議ノ成功ニモ重大ナル障碍ヲ来スベキヲ惧ル  
就テハ此際米国政府ヨリ支那政府ニ対シ速ニ日支間ニ於ケ

ル問題ヲ協定スルノ得策ナル所以ヲ勧告セラルハ支那自  
身ノ為ニモ極メテ有益ナリト信ズトノ趣旨ヲ反覆説明セリ

國務長官ハ之ニ答ヘ既ニ累次開陳セル如ク本問題ヲ會議前  
ニ解決スルコトハ何レノ見地ヨリスルモ得策ニシテ日本政

府ガ今回ノ解決案ヲ定メラレタルハ自分ノ最欣快トスル所  
ナリト述べ本案大綱ニ付差当リ左記諸点ノ質問応答アリタ

リ

一、國務長官ハ第一項ニ「支那ニ還付ス」トアルハ「支那  
ノ完全ナル主権」(in full sovereignty)回復ス」トノ

意ナリヤト問ヒタルニ付本使ハ然リト答ヘタリ

二、第二項中「外國人ノ既得権利」ナル語ニ付國務長官ハ  
租借地域内ニ於テ元來獨逸人ハ土地ノ所有権ヲ有セズ只二  
十五年ノ借地権ヲ有スルニ止マリタルヤニ記憶スル處永遠  
ニ右権利ヲ尊重スルコトトナラバ結局権利ノ拡張トナラザ

ルヤト問ヒタルニ付本使ハ果シテ独逸時代ニ二十五年以上  
ノ借地権ヲ認メザリシヤ否ヤヲ知ラザルモ凡ソ権利ノ譲受  
人ガ讓渡人ノ有シタルヨリモ一層広キ性質及範囲ノ権利ヲ

享有スルコトヲ得ザルハ一般法理上明瞭ニシテ讓渡人ノ有  
セザリシ権利ハ讓受人ニ於テ之ヲ自己ノ既得権ト主張スル  
コトヲ得ベキモノニ非ズト思考スル旨ヲ答ヘタリ尚「ヒュ  
ーズ」ハ日本軍占領中支那人ノ所有シタル多數ノ地区ニ對

シ日本ノ為公用徵收ヲ行ヒタルヤニ聞キ及ブ旨ヲ語リタル  
ニ付本使ハ日本軍憲又ハ日本人ニシテ支那人ノ所有地ヲ買  
収シタルノ例乏シカラザルモ公用徵收ノ手段ニ依リタリト  
云フハ全ク誤聞ナリト信ズル旨ヲ述べ更ニ「ヒューズ」ガ

辦經營トシテ成功セザル謂レナシト思考スル旨ヲ述べタリ  
四、第七項ニ關シ「ヒューズ」ハ『原則トシテ』トアル趣  
意ヲ問ヒタルガ本使ハ事極メテ細目ニ亘リ予メ本件原則ノ  
例外トナルベキ場合ヲ指示スルニ由ナキモ譬へバ独逸總督  
官邸用ノ建物ノ如キハ或ハ追テ設置セラルベキ日本領事館  
トシテ留保セラルコトアルベシト答ヘ尚公共營造物譬へ  
バ水道道路ノ如キハ之ガ維持經營ニ就キ予メ日支間ニ充分  
ノ便法ヲ協定シ置カザル時ハ遠カラズ荒廢ニ帰シテ公衆ノ  
損害重大ナルベキコトヲ説明セリ

以上ノ質問応答ヲ終ヘタル後國務長官ハ尙篤ト本案ヲ講究  
シ或ハ更ニ本使ト意見ヲ交換スルコトアルベキ旨ヲ附言シ  
タルモ大体ニ於テ日本政府ノ態度ニ満足セルモノノ如ク見  
受ケラレ支那政府へ勧告ノ件ニ就テハ速ニ何分ノ考量ヲ加  
フベシト挨拶セリ將又支那外交總長ハ曩ニ支那側ヨリ措置  
案ヲ非公式ニ内示シ來レル事實ヲ帝國政府ヨリ他國政府ニ  
通報シ又ハ發表スルコトヲ避ケタキ希望ヲ申出デタル趣ナ

ル處貴電第四一〇号ニハ本件ニ關シ『米國側へ内談ノ際ハ  
此經緯ヲ説明シ置カレタシ』云々トアリ右ハ支那外交總長  
ノ希望ヲ無視シ米國當局ニ対シテハ本件事実ヲ内告スペシ  
テ円滑ニ施行セラルベキヤト問ヒタルニ対シ本使ハ日支合  
ガ如キ制度ヲ設ケザルハ云フ俟タズト述べタリ  
三、第三項ニ付「ヒューズ」ハ鉄道ノ日支合辦制度ハ果シ  
ニ答ヘ何レノ場合ニ於テモ日本ガ門戸開放主義ニ抵触スル  
ガ如キ制度ヲ設ケザルハ云フ俟タズト述べタリ

辦事業ニシテ多年間円滑ニ施行セラレタルモノ少カラザル  
コトヲ述べ就中両国政府合辦事業ノ例トシテハ鴨綠江森林  
伐採事業ヲ挙げ鉄道ニ付キテモ両国政府又ハ両国民人民ノ合  
伐採事業ヲ挙げ鉄道ニ付キテモ両国政府又ハ両国民人民ノ合

トノ御趣意ナリヤ本使トシテ、國務長官ニ對シ特ニ支那政府ニ漏洩セザル、ト条件トシテ何等内告スルガ如キハ却テ帝国政府ノ公明正大ナル方針ニ疑惑ヲ招ク、ニ至ルベク之ニ反シ（脱）如キ条件ヲ附セズシテ内告スル時ハ自然其漏洩スル場合ニ日本同國訂置ノ關係ハ困難ヲ加フノ虞アリ右御趣意ノ存スルトヨロ充分語解シ得ザリシニ付之ニ當及スルコトヲ見合セ置キタル次第御含ヲ讀フ

前頭國務長官トノ質問応答第二項中外国人ガ租借地内ニ於テ二十五年ノ借地権以上ノ不動產ヲ有セザルヤ否ヤ又青島埠頭及船渠ガ如何ナル方法ニ依リ經當セラズキヤノ点ニ關

スル事実本使ノ心得迄ニ御回示ヲ得タ、

在歐洲各大使ヘ転電セリ

註 常原大使發外務大臣宛第五八〇〇号（九月八日著、解決案大綱ノ英訳文）ヲ省略セリ

四七 九月十日 内田外務大臣（内田小幡公使宛）（電報）

我方ノ山東善後措置案大綱ノ英訳文電報ヘ其  
司 電 同日内田外務大臣（内田小幡公使宛）同日長  
右英訳文

#### 第四五五町（極秘）

貴電第六〇九号末段ニ閔シ往電第四三三四号英訳文別電第四五六号ノ通右ハ趣旨ニ於テ邦文ト同一ナルコト勿論ナルヤ意味ヲ明瞭ナラシムル為多少意訳ノ箇所アルヲ以テ将来ノ誤解ヲ避ケル為右説明ヲ附シ支那政府ヘモ通告シ置カレ度シ

#### （別電）

九月十日内田外務大臣發在中国小幡公使宛電報第四五六号  
我方ノ山東善後措置案大綱ノ英訳文

#### 別電 極秘

#### 第四五六町

(1) The leasehold of Kiaochou and the rights originally granted to Germany with regard to the fifty kilometre zone around the Kiaochou Bay shall be restored to China.

(2) The Japanese Government will abandon plans for the establishment of a Japanese Exclusive Settlement or of an International Settlement in Tsingtao: provided that China engages to open of its own accord the entire leased territory of Kiaochou as a port of trade, and to permit the nation-

als of all foreign countries freely to reside and to carry on commerce, industry, agriculture or any other lawful pursuits within such territory, and that she further undertakes to respect the vested rights of all foreigners.

China shall likewise carry out forthwith the opening of suitable cities and towns within the Province of Shantung for residence and trade of the nationals of all foreign countries.

Regulations for the opening of places under the foregoing clauses shall be determined by the Chinese Government upon consultation with the Powers interested.

(3) The Kiaochou-Tsinanfu Railway and all mines appurtenant thereto shall be worked as a joint Sino-Japanese enterprise.

(4) Japan will renounce preferential rights with regard to foreign assistance in persons, capital and material, stipulated in the Sino-German Treaty of March 6, 1898.

(5) Rights relating to the extensions of the Kiaochou-Tsinanfu Railway, and options for the

construction of the Yientai-Weihsien Railway will be thrown open for the common activity of the international financial consortium in China.

(6) The status of the Custom House at Tsingtao as forming an integral part of the general customs system of China shall be made clearer than under the German regime.

(7) Public property used for administrative purposes within the leased territory of Kiaochou will, in general, be transferred to China: it being understood that the maintenance and operation of public works and establishments shall be previously arranged between the Japanese and Chinese Governments.

(8) With a view to arranging detailed plans for carrying into effect the terms of settlement above indicated and for the purpose of adjusting other matters not embodied therin the Japanese and Chinese Governments shall appoint their respective commissioners as soon as possible.

(9) The Japanese Government have no more than one occasion declared willingness to proceed to the

recall of Japanese troops now stationed along the Kiao-chou-Tsinanfu Railway upon organization by China of a police force to assume protection of the railway. As soon as the Chinese Government shall have organized such a police force and notified the Japanese Government to that effect, Japanese troops will be ordered to hand over to the Chinese police the charge of the railway protection and thereupon immediately to withdraw. It is however to be understood that the question of the organization of a special police guarding the Shantung Railway shall be reserved for future consideration between Japan and China.

四八 九月十日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

山東善後措置案大綱ヲ発表ハ度加中国政府アリ申田ニ付請訓ノ件

第六一九号(至急) (九月十一日接受)

往電第六一三号(閑シ)

外交總長ニ於テハ我方提出覚書条件ノ内容不明ノ為世上ニテハ其条項等ヲ誤聞シ種々ノ臆測ヲ加ヘ双方ニ不利ナル論

山東問題ノ解決条項ニ關シテハ世上種々ノ臆測ヲ逞シウシ之ニ基キテ評論ヲ試ムル傾向アリ別電第五九八号(註一)ノ如キ其ノ一端ヲ示スモノリシテ支那側ノ説明ニ基キ起草セルコト明ナリ若シ此ノ儘ニ放置スルニ於テハ益々此ノ傾向ヲ甚ダシカラシメ支那側宣伝ノ乘ズル所トナルニ於テハ当國ノ輿論ヲシテ我ニ不利ナラシムルニ至ルヘキヲ以テ此ノ際往電第四二二号(註二)稟申ノ通至急右解決条件ヲ公表セラル様御詫議ヲ請フ

註一 別電第五九八号見当ラバ

2 幣原大使來電第四二二号(七月二十四日接受)省略セリ

右ハ七月二十一日ノ國務長官トノ会談(前掲幣原大使發

外務大臣宛第四一六号参照)ニ關聯シ山東問題ニ付意見ヲ上申シ且中國側ト交渉開始ノ上ハ我提出条件ハ直ニ公表セラレ度旨ヲ稟申セルモノナリ

HO 九月十二日 在英國永井臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

我方ノ山東善後措置案大綱ヲ極東部長ニ手交

説明ノ上力一ソハ卿へ進達方依頼ノ件

第一〇〇九号(極秘) (九月十三日接受)

「カーブン」卿病氣(尚一二三週間引籠リノ予想)次官休暇

1 対独和平条約実施後ノ山東問題ニ關スル件 HO HO

議ヲ試ミツツアリ何時迄モ秘密ニスルハ宜シカラザルニ付

發表致シタントテ九月十日同部ヨリ本使ノ意見ヲ問合セ来レリ依テ本使ハ右ハ秘密取扱ニズベントノ電訓ニ接シ居レルヲ以テ本使限リニテ決シ難キニ付本国政府ニ請訓ノ上何分ノ儀回答スヘキ追答ヘ置ケリ就テハ本件ハ此儘打過スニ

於テハ自然動カスバカラザル誤想ヲ民間ニ吹込み他日正確ナル真相ヲ發表スルコトニ同意アリテハ如何カト思料ス尚公表ク且支那側ヨリノ申出ヲ幸ヒ支那政府ヲシテ民論指導上此際之ヲ發表スルコトニ同意アリテハ如何カト思料ス尚公表ノ際公表文ニ前書ヲ添ヘラル場合ニハ往電第六一三号ノ通外交總長ガ本使ノ口上振公表ニ関シ申述バタル次第ニ顧

ミ右口上振内容ニ該當スルコトバ之ヲ省カルル様致シタク此点ハ他日支那政府若クハ其代表ガ我ニ対シ不誠実ナル態度ヲ執リタル場合ニ又ヲ公表スルモ未ダ遅カラズト信ズ至急何分ノ回訓ヲ仰グ

四九 九月十日 在米國幣原大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

我方ノ山東問題解決条件至急公表方稟申ノ件 第五九七号 (九月十二日接受)

中ニ付十二日極東部長ニ面会シ第四九七号貴電執行ス在米大使回附ノ大綱英文ヲ手交シテ御訓示ノ説明ヲ加ヘ尚部長ノ大綱ヲ一読スルヲ俟チ我カ態度ニ対シ在支英國人乃至当地ニ於テ一部人士ノ抱ケル誤解ニモ言及シ他ニ二三ノ話頭ヲ設ケ大綱列挙条件ニ対スル部長即座ノ感想ナリトモ探ラント試ミタルガ同官ハ單ニ「カーブン」卿ハ興味ヲ以テ本内報ヲ迎フルナルベシト答ヘタルノミニテ特ニ意見アリトモ看取セラレズ仍テ本使ハ「カーブン」卿限り内密ノ参考トシテ進達センコトヲ依頼シ置クニ止メタリ(十二日)

聯盟総会全權、在歐米各大使ヘ転電セリ

五一 九月十三日 内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛(電報)

我方提示ノ山東善後措置案大綱ヲ前文ヲ附シ

発表スルコトニ付中國側ト打合方訓令ノ件

別電 同日内田外務大臣発小幡公使宛電報第四六〇号

右措置案大綱前文

第四五九号 至急

貴電第六一九号ニ關シ我方ヨリ提示セル措置案大綱發表方異存無シ就テハ貴官ハ外交總長ニ会見ノ上支那側ノ希望ニ

# 一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ関スル件 五一

五六

応ジ我方ニ於テハ別電第四六〇号前文ヲ附シ措置案大綱全文ヲ發表スルコトトスヘン尤モ支那側ニ於テ右發表ニ当リ別電第四六〇号我方前文ノ程度以上更ニ何等カノ声明ヲ附加スルコトアル場合ニハ我方トシテモ我立場ヲ明カニスル為メ別電前文以外委曲ノ説明ヲ加ヘ場合ニ依テハ勢ヒ曩ニ支那側ヨリ内示シ來レル提案ニモ言及スルコトアルベキニ付旁々其辺ニ關シ予メ充分ノ了解ヲ得置度旨御懇談ノ上結果電報アリタシ尚発表日取ニ付テハ貴官ト先方トノ打合ニ一任スヘキモ協定ノ上ハ成ルヘク早ヤ日ニ電報アリタシ

(欄外註記)  
「十年九月十三日閣議決定済」  
(別電)  
九月十三日内田外務大臣發在中国小幡公使宛電報第四六〇号  
山東善後措置案大綱ニ附スベキ前文  
別電 至急

第四六〇号  
駐支帝国公使ハ本月七日支那外交總長ニ會見シ山東善後措置ニ闕スル我妥商案ノ骨子トシテ左記綱領ヲ提示シ支那政府ノ切実真摯ナル考量ニ憩ヘ重ねテ本件商議ノ速開ヲ促カシ支那政府ニ於テ速ニ左記大綱ヲ基礎トシテ商議開始ノ意

質真相今以テ充分明確ナラザルト支那ノ政局極メテ不安定ノ状態ニ陥レル為支那トシテハ該會議ニ於テ如何程ノ成功ヲ収メ得ルヤ頗ル懸念セラレ從テ自分トシテハ今尚最後ノ決心ヲ躊躇シ居ル次第ナリ若シ愈々出席ト決定スレバ十月十五日頃ノ船ニテ渡米ノ積リナリ施肇基顧維鈞ニテ代表ハ充分ナリト考ヘ居レリ云々

二、万一支那ヨリ門戸開放ノ徹底的実行ニ関スル主張ヲナス場合ニハ日本ハ之ニ賛成スベキヤ否ヤ承知シ度シ云々<sup>（門戸開放ノ徹底的主張トハ如何ナル意義ナルヤ例ヲ挙グレバ如何ナル事ヲ云フ次第ナリヤトノ坂西ノ質問ニ對シ外交総長ハ甚ダ些細ノ例乍ラ國境輸入貿易税ノ特典ノ如キハ之ヲ廢止シタキ希望ナリト答ヘタル趣ナリ）</sup>

三、支那ハ如何ナル問題ニテモ議題ニ上リタル場合ニ応ズル為広ク各種ノ問題ヲ調査準備シツツアリ云々<sup>ザルモ如何ナル問題ニテモ議題ニ上リタル場合ニ持出スカ今尚何等決定セザルガ故ニ支那トシテハ必ズシモ本問題ヲ重要視シ居ル次第二十一個条中ニハ事實上實施サレ居ラザル項モ尠カラ</sup>

第二非ズ唯第五項問題ノ如キハ日本ハ将来提出ヲ留保シ居<sup>（九月十九日接受）</sup>

ヲ表明セラルト同時ニ細目其ノ他協定ノ為メ委員ヲ任命セラレムコトヲ提言セリ右ニ対シ目下支那政府ニ於テ考慮中ナルモ我提案ノ内容ニ對シ外間種々ノ臆測ヲ為シ誤解ヲ滋クスルノ虞アルニ顧ミ両国政府協議ノ上茲ニ本件措置案ヲ公表シテ事態ヲ闡明セムトス

左記

(九月七日小幡公使ヨリ覚書トシテ顏外交總長ニ手交セル山東善後措置案大綱ノ全文省略)

五二 九月十三日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

顏外交總長方華府會議及山東問題ニ關シ坂西 中將ニ對シ為シタル内話報告ノ件

第六二三号  
坂西中將一時帰朝ノ為何等日本へ伝言ノ筋アラバ承リ度キ

趣申入レ九月十二日外交總長ニ面会シタル處外交總長ハ大略左ノ通内話セル由ナリ何等取留メタルコト無キモ御参考迄

一、太平洋會議ニ自分出席ノ儀ハ略内定シ居ルモ會議ノ性

ル關係ニ在ルニ顧ミ日本ヨリ進デ廃棄ヲ声明セラルレバ頗ル好都合ナリト信ズ云々

五、山東問題ニ關スル最近日本ヨリ提出ノ解決条項ハ是非発表ニ同意アラムコトヲ切望ス此ノ事ハ達テ日本公使ニ取次キ置カレ度シ山東問題ノ交渉ハ民間ノ輿論二途ニ出テ今尚帰一セズ幸ニ北京方面ノ議論ハ余程緩和シツツアル様見受ケラルモ上海方面ハ目下盛ニ論議中ナルガ如シ併シ此モ今一週間モ経テハ大抵見當付クナラムト考ヘ居レリ云々<sup>モ上海へ郵送セリ</sup>

五三 九月十三日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛

我方ヨリ提示セラレタル山東善後措置案大綱  
ノ中国政府作成漢訳文送付ノ件

附屬書 右漢訳文

機密第二七六号  
大正十年九月拾參日  
(九月十九日接受)

在支那

外務大臣伯爵 内田 康哉

## 山東善後措置案大綱支那政府作成漢訳文送付

ノ件

在当地大阪朝日通信員カ支那側ヨリ内密入手シタル山東善後措置案大綱漢訳全文別紙御参考迄茲ニ及送付候間御查閱相成度此段申進候也

(附屬書)

## 山東善後処置案大綱

(一) 膜州湾租借地立地帶權利還之中國  
 (二) 中国政府如將租借地全部作商埠自行開放認外人之居住及商工農業其他一切合法職業之自由且尊重承認我國既人既得權利帝国政府允撤回設置專管居留地及共同居留地案  
 中国政府為外国人居住貿易起見應速將山東省內適當之都

市實行開放

前各項開放地之開埠章程應由中國政府預與關係各國協議而決之

(三) 山東鐵路及附屬磁山作為中日合辦之組織

四根拠膜州條約關於供給人及資本材料各項優先權當拋棄

(四) 對於山東延長線之權利及對於煙濰鐵道等優先權當提供於新銀行團之共同事業

ノ説明振ニ付訓令ノ件

第四二六号

貴電第五九〇号ニ關シ

(一) 措置案大綱決定ノ趣旨ハ往電第四一(註)号ノ通ニ付大体右ノ御含ミニテ應酬セラレ細目ニハ深ク立入ラザル様御配慮アリタシ  
 (二) 土地ニ關シテハ獨逸時代ニ於テハ獨逸人及外国人共總テ

我方ノ山東善後措置案大綱ニ關シ國務長官ヘ  
 在米國幣原大使宛(電報)

五四

九月十四日 内田外務大臣ヨリ

(六) 青島海關當獨逸時代之制度更令明確其中國關稅制度之一部  
 (七) 租借地内行政的官有財產原則上當讓渡中國但關於公共營造物之維持經營另行協定  
 (八) 就前各項實行所關之細目及其他事項另行協定因此中日兩國政府當速即任命委員

(九) 關於山東鐵路巡警隊之組織雖中日間應另行協定當照再三声明之旨俟接中國政府巡警隊組織之通告日本政府即宣言撤兵將鐵路警備之任移交巡警隊後即行撤退

アリタシ

貴電第五九〇号ニ關シ  
 (一) 措置案大綱決定ノ趣旨ハ往電第四一(註)号ノ通ニ付大体右ノ御含ミニテ應酬セラレ細目ニハ深ク立入ラザル様御配慮アリタシ  
 (二) 土地ニ關シテハ獨逸時代ニ於テハ獨逸人及外国人共總テ

ノ説明振ニ付訓令ノ件

第四二六号

貴電第五九〇号ニ關シ

(一) 措置案大綱決定ノ趣旨ハ往電第四一(註)号ノ通ニ付大体右ノ御含ミニテ應酬セラレ細目ニハ深ク立入ラザル様御配慮アリタシ  
 (二) 土地ニ關シテハ獨逸時代ニ於テハ獨逸人及外国人共總テ

我方ノ山東善後措置案大綱ニ關シ國務長官ヘ  
 在米國幣原大使宛(電報)

五四

九月十四日 内田外務大臣ヨリ

(註) 九月九日内田外務大臣發幣原大使宛電報第四一四号ハ前掲

所有權ヲ享有シ得タルヲ以テ今日ニ於テモ引続キ之ヲ有スルモノアリ二十五年ノ借地権云々ハ獨逸ノ法令中ニ土地ノ売買アルニ又ハ賣買ノ行ハレサリシ土地ニ付テハ二十五年目毎ニ地価ヲ評価シ土地増価税ヲ課スル旨ノ規定アルニ付右ニ胚胎セル誤解ト思考セラル  
 尚占領後ハ官有地ハ單ニ期限十年以下ニテ貸下クルニ止メ所有權ヲ与ヘタルモノナシ又占領後公用徵収ニテ土地ヲ買収セル例ナキハ御來示ノ通ニシテ總テ自由契約ニ依リ取得セルモノノミナリ御参考迄

(三) 所謂外国人ノ既得權利トハ必スシモ獨逸時代ニ存在セん權利ノミヲ指スニ非ス此ノ点或ハ「ヒューズ」ニ於テ誤解ナキヤ懸念セラル我占領中又ハ獨逸ヨリ移転後租借権者トシテ帝国政府カ租借地内ニ於テ適法ニ取得シ又ハ住民ニ許与セル権利ハ之ヲ當然既得權利トシテ尊重セシムル意向ニシテ就中塩田措置問題ノ如キ最困難ナル案件ナルカ既得權利ト合法的職業トノ両面ヨリ承認ヲ要請シ唯支那ノ塩務トノ關係ノ調節ヲ協定スル方針ナリ將又埠頭棧橋ノ問題ノ如キモ鐵道ニ合併シ度キ意嚮ナルニ付此ノ点御含置ノ上讓受人ハ讓渡人ノ有シタルヨリ以上ノ權利ヲ享有セストノ原則

在歐各大使へ轉電アリタシ

キモ鐵道ニ合併シ度キ意嚮ナルニ付此ノ点御含置ノ上讓受人ハ讓渡人ノ有シタルヨリ以上ノ權利ヲ享有セストノ原則

電セルモノナリ

五五 九月十四日 在中国小幡公使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

五六 九月十五日 在中国小幡公使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

山東善後措置案大綱発表日取決定並外交總長

三リ前文中少許ノ字句修正方申出ノ件

第六二六号(至急)

(九月十五日接受)

貴電第四五九号ニ閲シ

九月十四日本使外交總長ニ会見シ御電訓ノ趣旨申入レタル  
處同總長ハ之ヲ承シ支那側ハ公表前文ヲ附セズシテ原案  
大綱丈ヲ發表スル考ナルガ若シ公表前文ヲ附スルトシテモ  
日本公表前文案ノ範囲内ノモノニ止ムベク其ノ場合ニハ御  
通知スペント答ヘ協議ノ結果九月十六日ノ当地新聞ニ出ヅ  
ル様十五日午後公表ノコトニ取極メタリ然ニ本使帰館後  
外交部ヨリ我方公表前文案中ノ『右ニ対シ且下支那政府ニ  
於テ考慮中ナルモ』及『両國政府協議ノ上』ノ二句ノ存在  
ハ反対派ニ無益ナル口実ヲ与フルノ虞アルニ付之ヲ省キ發  
表アリタキ旨懇願シ来レリ右ハ我方ニ取り大シタル差支モ  
無之キ様存ゼラルルヲ以テ先方ノ希望ニ応ジ當地ノ發表ノ  
分ハ右ノ通り取計フベキニ付右様御承知ヲ請フ

第六三一号

(九月十五日接受)

九月十四日本使外交總長ニ会見シ過日本使手交ノ大綱案ニ  
対スル意向及其後ノ進行ノ模様ヲ尋ネタル處同總長ハ本件  
ハ從來支那ニトリ頗ル重大ナル問題ニシテ間違ヲ演ゼザル  
ガ為之ヲ慎重ニ取扱フ要アリ外間ニテハ日本提出条件ノ内  
容ヲ充分ニ承知セザル為鬼角種々ナル疑惑ヲ懷キテ之ヲ評  
論シ又朝野有力者ノ意見モ一致シ居ラズ現ニ梁啓超ノ如キ  
モ条件内容不明ノ為ナランガ自分(顔)ニ宛テタル交渉反  
対書面ヲ新聞ニ發表スル等反対論多キ為政府トシテ其決定  
ヲナスニハ少クモ二三週間ヲ要スル次第ナリト答ヘタル  
上該条件ハ日本政府ヨリ英米仏国等ニ通知セラレタル次第  
ナリヤト問ヒタルニ付本使ハヨクハ承知セザルモ英米両国  
ニハ通知シタルモノト信ズト答ヘ置ケリ

五七 九月十五日 内田外務大臣ヨリ 在中国小幡公使宛(電報)

山東善後措置案大綱前文ト共ニ九月十五日公

表ノ件

第四六四号

貴電第六二六号ニ関シ措置案大綱ニ左ノ通前文ヲ附シ今十  
五日公表セリ右ノ次第及前文(日本文ハ東方通信ヲシテ打  
電セシム)在支各領事(奉天、天津、濟南、上海、漢口、  
廣東ヲ除ク但シ上海漢口廣東へハ英文電報アリタシ)へ電  
報方可然取計ハレ度シ

五八 九月十六日 内田外務大臣ヨリ 在中国小幡公使宛(電報)

山東問題ニ關スル中國公使及墳原次官間会談

ノ次第ヲ通報並本件商議促進方中國政府ニ申

入ルル様訓令ノ件

第四六五号

十四日在本邦支那公使來省埴原次官会見シタルニ同公使ハ  
本国政府ノ訓令ニ依リ山東問題ニ關スル日本ノ提案ハ之ヲ  
各方面ノ機関ニ移牒諮詢ノ上ニ非ザレバ支那政府ノ本件ニ  
対スル意見ヲ構成シ難キ處右移牒ノ結果ハ自然之ヲ發表ス  
ルコトナルベキ處右ニ異議ナキヤ日本政府ノ意嚮承知シ  
タキ為來談セル次第ナリト述べタルニ付次官ハ各方面ノ機  
関ニ付スル

(右英文)

The Japanese Minister at Peking submitted  
on the seventh instant the following general plan  
as the basis of the settlement of the Shantung  
Government's proposal.

## 一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ関スル件 五九

六二

関トハ何ナリヤト尋ネタルニ政治実業諸団体機関ヲ含ミ例  
ヘバ地方ニ於ケル督軍省長商業會議所ノ如シト答ヘタリ仍

テ次官ハ抑々日本ノ提案ハ支那政府ニ提出シタルモノニシ

テスル機関団体ノ意見如何ハ日本ノ関知スル所ニ非ズ従テ

政府自ラ此ノ提案ヲ処理スベキモノニ属シ政府ガ其ノ責任

ヲ執レバ可ナル次第ナリト思考スルモ支那政府ニ於テ希望

トアレバ発表ノ儀ハ當方ニ於テ異存ナク既ニ外交總長ヨリ

小幡公使ニ公表方希望ノ申出アリタルニ付帝国政府ニ於テ

モ異存ナク北京及東京ニ於テ同時ニ発表スルコトシ度旨

回答方既ニ同公使ニ電訓シ置キタリト答ヘタルニ胡公使ハ

支那ノ現状ハ異常ノ事態ニ屬シ又山東問題ハ支那ニ取りテ

ハ極メテ困難ナル問題ニ付政府トシテハ先づ輿論ヲ徵スル

ノ必要アルナリト弁疏セル趣ナリ

就テハ支那政府ガ其ノ意見構成ノ為如何ナル機関ニ諮詢ス

ルヤハ全然支那内部ノコトニ属シ帝国ノ関知スル処ニ非ザ

ルモ右諮詢ノ仕放シニテハ甚ダ不都合ナルニ付此ノ際至急

帝国ノ提案ニ拠リ商議速進方申入レラレ度シ尚ホ本大臣ヨ

リハ十五日支那公使ニ面会ノ序ヲ以テ右ノ趣旨話シ置キタ

リ御含迄

五九 九月十六日 在米國幣原大使（電報）  
内田外務大臣宛（電報）

## 山東善後措置案大綱ニ關シ國務長官疑問ノ諸

### 点二付説明ノ件

第六一一号 （九月十九日接受）

九月十五日國務長官トノ会見ニ於テ同官ハ山東問題ニ言及

シ我解決案大綱第二項「既得権利」ニ付前回ノ所說ヲ繰返

シ又第七項「官有財産」ナル語モ其性質範囲ニ明確ナラザ

ル所アリト云ヒ自分ハ固ヨリ日本政府ノ支那ニ提出セラレ

タル解決案ニ対シ何等批評ヲ試ミントスルガ如キ意思ヲ有

セズト雖モ自ラ正確ニ該提案ノ意義ヲ諒解スルコトハ支那

ニ対シ措置ヲ執ルニ当リ必要ナリト述べ尤以上ハ何レモ細

目ノ問題ニ止リ全局面ニ対シ最重要ナル問題（Crux of the

whole situation）ハ鐵道ノ日支合辦案ナリ蓋シ一昨年来

当國上院ニ於テ「ヴエルサイユ」條約ノ山東條項ヲ討議セ

ル論旨ヲ査スルニ曩ニ日本ガ山東鐵道ヲ日支合辦トスペキ

旨ヲ言明セルモ其合辦ハ名義上ニ止リ事實上鐵道ノ經營ハ

日支協同ノ基礎ニ於テ行ハルコトヲ得ベキモノニ非ズ又

支那ニ於テ日本ガ鐵道ノ管理ニ全部又ハ一部參加スルコト

ハ支那ノ行政権ヲ侵犯スルモノニシテ結局山東地方ニ於ケ

ル実權ハ日本ニ留保スルコトナルベシトノ議論盛ナリシ

ニ顧ミ今回米國政府ニ於テ此点ニ關シ日本ノ主張ヲ是認ス

ルノ意味合ニ依リ支那政府ニ日支交渉開始ヲ勧告スル時ハ

又々上院及世論ノ批評ヲ招クベキヲ虞ル就テハ斯ノ如キ批

評ヲ避クルニ足ルベキ何等適當ナル代案（alternative

plan）ナキカ例ヘバ別ニ支那ヨリ日本ニ必要ナル補償（compensation）ヲナスガ如キ考案ノ余地ナキヤ自分ガ此意見

ヲ述ブルハ毫モ日本ノ措置案ニ異議ヲ入ルルノ趣旨ニアラ

ズシテ全ク山東問題ノ速ニ円満ナル解決ヲ希望シ此目的ノ

達成ヲ容易ナラシメントスルノ外他意ナシト説キタリ

本使ハ之ニ対シ先づ既得権ノ問題ニ付國務長官ガ元來租借

地内ニ独逸人其他外國人ノ土地所有權ナシト謂ハルハ其

ノ後本使ノ確メタル報道ニ依ルニ全ク事實ニ反ストテ貴電

分ノ聞及ビタル所ハ誤解ナルベシト答ヘ次ニ本使ハ官有財

產ノ性質及範囲ニ涉リテ茲ニ論弁スルノ地位ニアラズ之ヲ

決定センガ為ニハ進ンデ日支兩國代表者間ニ直接交渉スル

ノ外ナント論ジ鐵道問題ニ付テハ日支合辦案ハ双方ニ均シ

メ正式ノ外交機関ニ依リ商議ヲ開始スルコトヲ以テ解決ノ歩ヲ進ムル適當ノ方法ト認ムニ至リタルモノナリ將又從来自分ハ再三米國政府ニ於テ日支交渉ノ開始ヲ支那ニ勧告セラレントヲ希望スルノ趣意ヲ述べタルモ米國政府ガ支那ニ対シ解決案ノ各項ニ就キ日本ノ提議ヲ弁明又ハ支持セントヲ期待シタルニアラズ解決案ハ日支間ノ交渉ニ依リ決定スペキ性質ノモノニシテ唯交渉ヲ開始セザルトキハ果シテ兩國間ニ何等意見ノ懸隔アルヤ否ヤヲモ確ムルコト難ク從ヒテ解決ヲ計ルニ由無シ即チ解決ノ第一歩トシテ必要ナルハ日支兩國委員ノ会合ニアリ自分ノ米國政府ニ望ム所ハ單ニ此会合ヲ促進スルノ手段ヲ採ラレントノ一事ニ過ギズト述べタリ

國務長官ハ本使ノ説明ヲ默聽シ貴説ハ充分了解セリ貴官ガ米國政府ニ期待セラル所ハ只日支直接交渉ノ開始ヲ施公使ニ勧告スルニ止マルコトモ自分ニ於テ誤解セルニハ非ズト雖モ前述ノ通り山東問題ノ当國上院ニ於ケル特殊ノ行懸リ並支那政局ノ近状ニ顧ミ米國政府ニ於テ支那ニ対シテ本問題ニ關スル何等カノ勧告ヲ為スコトハ自ラ重大ナル徳義上ノ責任ヲ引受クルノ結果ヲ伴フ可キガ故ニ自分トシテハ

六〇 九月十七日 在米國幣原大臣大使ヨリ  
内田外務大臣死(電報)

山東善後措置案大綱ニ関スル北京発聯合通信  
ノ論評報告ノ件

第六一二号

(九月十九日接受)

信ヲ掲ゲタリ

山東問題研究者ノ意見ニ拠レバ支那ニシテ日本ノ提議ヲ承諾スルニ於テハ支那ハ單ニ形式上ノ権利ヲ回復スルニ過ぎシテ却而青島及膠州灣ニ於ケル日本ノ經濟的地位ヲ事實上確認スルノ結果ヲ來スベシ還付条件中左ノ諸点ハ注意ニ值ス

日本ノ提案ニ依リ租借地内ニ於テ現ニ日本人ノ手ニアル塩田其他旧独逸時代ニ独逸人ガ獲得セル土地及建設物ニ対スル日本人ノ権利ハ明確ニ定マルコトナルベシ而シテ右ノ内塩業ノ喪失ハ支那ニトリ極メテ重大ナリ提案第三ニ依レバ支那ハ山東鉄道買收權ヲ失フト同時ニ日支合辦ハ同鉄道ニ対スル日本ノ地位ヲ永久的ニ確保スルノ結果ヲ來スベシ又青島稅閥ニ關スル日本ノ提案ハ明瞭ヲ欠ケリ云々

予メ日本ノ解決案カ當國世論ノ同情ヲ博シ又支那ニ取リテモ国内ノ反対ヲ鎮撫スルニ足ルコトニ付大体ノ成算ヲ樹テノコトヲ希望スルト共ニコノ成算アルニ於テハ自分ハ寧ロ進ンデ支那政府ニ対シ速ニ日本ノ解決案ニ同意センコトヲ懲憲センカト迄考へ居リタル次第ナリト語リ就テハ日本政府ヨリ右措置案大綱ナルモノガ单ニ日支交渉ノ基礎ヲ示スニ止リ支那政府ニ於テ修正案又ハ対案ヲ提出スルヲ妨ゲザルノ趣旨ヲ明言セラルコトヲ得ザルカト問ヒタリ本使ハ之ニ答ヘ此趣旨ハ明言スル迄モ無ク支那ニ於テモ何等誤解無キコトヲ察ス只山東鐵道合辦ノ案ハ同鐵道処分方法トシテ之ニ代ル可キ名案アリトモ想像セラレズ支那ニ取りテハ戰争前何等同鐵道ノ持分ヲ有シタルコト無ク又戰爭中何等ノ犠牲ヲ供シタルコトモ無クシテ日本ノ適法ニ承繼シタル旧獨逸ノ権利ノ分配ヲ受クルモノナルガ故ニ日本ノ好意ヲ諒トスベキ筈ト信ズトシベタルガ國務長官ハ別ニ之ヲ争ハズ只鐵道ノ處分ハ困難ナル問題ナリト繰返シ結局更ニ意見ノ交換ヲ行フコトシテ話題ヲ他ニ転ジタリ  
在歐洲各大使及在蘭公使ヘ転電セリ

六一 九月二十一日 在仏國松田臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣死(電報)

山東善後措置案大綱ニ関スル巴里新聞論評報

告ノ件

第一四二四号

(九月二十四日接受)

山東措置案ニ關シ當地新聞中當館公表全文ヲ掲載セルハ Temps, Petite République, Eclair, Ere Nouvelle, Humanité 等リハル Débats 及 Populaire 〈其ノ要点ヲ掲載セルガ本件ニ於シ論評ヲ試ミタルハ僅ニ Journal, Lanterne 及 Humanité 〉過ギズ其要旨左ノ如シ  
Journal ハ今次ノ提案ニ於テ日本政府ハ極度ノ寬容ヲ示セリト日本カ新提案ニ依リ放棄セル旧獨所屬諸特權ヲ列記シタル後左ノ如ク論セリ

之レ実ニ平常門戸開放機會均等ヲ口ニスル者ニ對スル好箇ノ答弁ナリ日本人ノ聰明ナル仮令権利ノ平等ヲ認ムルモ其ノ地理的及社會的地位ヲ左右スルモノニアラザルヲ熟知ス彼等ハ巧ニ相手ニ応酬セリ支那ハ宜シク之ヲ承認スルニ躊躇スベカラズ日本今次ノ提案ハ之ヲ千九百十五年ノ二十一個条要求ニ比スル時ハ寧ロ意外トセザルヲ得ズ唯支那政府

一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ関スル件 六二

六六

力道理ニ耳ラ傾クルヤ否ヤラ知ラズ本件ノ解決ガ善意ニ基クモノナルコトハ敢テ今日ニ始マリタルコトニ非ズ平和會議ノ当初ヨリ日本ハ公然膠州ノ還附ヲ声明セリ然ルニ支那

ハ直接之ヲ独逸ヨリ還附セムコトヲ要求セリ之過分ノ期待ナリ山東ハ日本兵ニ依リ征服セラレ支那モ亦正式ニ條約ニ

依リ之ヲ日本ニ譲与セルモノニ非ズヤ之力還附ハ日本ニ依リ為サレザルベカラズ支那ハ既ニ米国モ其ノ主張ヲ承認セザルヲ知ル筈ナリ米国亦論理上山東問題ノ即決ヲ欲スル筈ナレバ此際支那ガ右提案ヲ承認スル様慇懃セザルベカラズ Lanterne 日本提案ハ一見忠実ナルガ如キモ青島ニ於ケル旧獨所屬物件ハ悉ク日本人ノ手中ニ帰シ居ルヲ以テ支那人及外国人ハ實際上此等ヲ取得シ難シ日本ハ之ヲ開放スルニ非ザレバ本問題ノ解決ハ望ムベカラズ

Humanité (共産主義者ノ機関紙) ハ「日本ノ軍國主義ト支那」ト題シ日本ハ華盛頓會議ニ於テ山東問題ヲ避ケム為メ支那ニ対シ新提議ヲ為セリ今次ノ条件ハ以前ヨリモ軽減セラレタリト雖モ然モ尚条件附ナリ日本ハ何等カノ形式ニ於テ山東ニ足場ヲ得ントス支那之ヲ肯ズルヤ否ヤ

六二 九月二十三日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛 (電報)

我方ノ山東善後措置案ニ対スル北京ノ英仏米

系新聞及通信ノ態度ヲ報告ノ件

第六三九号 (九月二十四日接受)

山東善後措置案提出以來当地方ニ於ケル英仏系ノ外字新聞及通信ハ直接交渉ヲ慇懃シツツアリシニ反シ米国系ノ通信並ニ新聞ハ直接交渉ニ反対シ問題全部ヲ華府會議ニ提出スヘントナシ支那側ヲ煽動スルノ態度ヲ持シ來リタルガ昨今ニ至リ帝国ノ提案ハ支那ニ不満足ナルニセヨ此ヲ基礎トシテ交渉ヲ開始シ其ノ結果思ハシカラザルニ於テハ之ヲ華府會議ニ提出スヘク日本ノ提案ヲ全然拒絶スルハ米国ノ贊成セザル所ナルノミナラズ支那ノ利益ニモ非ザルベシトノ趣旨ヲ報道シ其ノ論調著シク急変スルニ至レリ新聞論調及通信ハ東方通信ヲシテ打電セシムヘシ

上海広東漢口ヘ転電セリ  
天津濟南ヘ郵送セリ

六三 九月二十三日 内田外務大臣ヨリ  
在米國幣原大使宛 (電報)

山東善後措置案ニ対スル処置振ニ關シ施駐米  
公使力本国政府へ電報セル意見等通報ノ件

第四四五号

六四 九月二十三日 在米國幣原大使ヨリ  
内田外務大臣宛 (電報)  
山東鐵道合弁案ニ關スル國務長官ノ抱ケル疑  
問ニ付同長官ト長時間會談説明ノ件  
(九月二十六日接収)

第六三五号

本使ハ九月二十二日國務長官ト會見ノ際前回同官ノ述べタル如ク帝國政府ノ山東鐵道問題解決案ハ事實上日本ニ於テ同鐵道ヲ支配スルコトナルベク延イテ支那ノ行政權ヲ侵犯スルノ嫌アリトノ批評ヲ生ズベシトノ観察ニ対シ本使一個ノ所見トシテ左ノ趣旨ヲ開陳セリ

一、鐵道合辦案ガ支那ノ行政權ヲ侵犯スペシト云フモ具体的ニ其趣旨ヲ解剖スルニ如何ニシテ右ノ結果ヲ來スベキヤ的確ニ了解シ難キ所アリ日本ガ政治上若クハ軍略上ノ目的ノ為同鐵道ヲ支配スベシト云フガ如キハ畢竟一種ノ臆測ニ過ギザルベク戰爭前ニアリテハ獨逸ハ膠州灣ヲ領有シ從ツテ山東鐵道ハ獨逸ノ政治的勢力ヲ支那ノ中心ニ向ツテ拡張スルノ具ニ供セラレタルモ支那ニ於テ今回膠州灣ニ關スル一切ノ領土權ヲ回復スルコトナラバ形勢ハ茲ニ一変シテ至ルベシ果シテ日本ガ合辦ノ本旨ニ遠ザカリ事實上管御聽込ノ次第アラバ隨時電報アリタシ

理ノ実権ヲ収ムルコトアリト仮定スルモ右ハ英國ガ津浦鉄道南段ニ対シ自國ノ技師長及会計員ヲ配置シテ管理権ヲ行フト同一ノ意味ニ過ギザルベク所謂「鐵道ヲ以テスル征服（conquest by rail）」ト云フガ如キ旧式ノ外交政策ハ最早今日ニ於テ執行シ得ベキコトニアラズ

二、支那ガ從前何等ノ持分ヲ有セザリシ事業ニ対シ今回持分ノ半分ヲ与ヘラレ且膠州灣ノ領土權ヲ全部回収スルハ同國ニ取リテ莫大ナル利益ナル処支那ハ此利益ヲ取得スルニ付テ何等ノ犠牲ヲ供セズ又何等ノ努力サヘ試ミザリシノミナラズ戰時中独逸人ヲ遇スルコト放漫ニ過ギ同盟聯合国ノ利害ヲ顧ミザルノ故ヲ以テ在北京同盟聯合国代表者ノ警告ヲ受ケタルコト一再ナラズ他方ニ於テ日本ハ独逸ヲ山東省ヨリ驅逐センガ為多大ノ犠牲ヲ供シタルニ係ラズ独逸ノ裏ニ有シタル領土權ノ全部ヲ挙ゲテ之ヲ還附シ鐵道ニ付テハ半分ノ持分ヲ留保スルニ満足スペク且其鐵道サヘ或ハ日本ヨリ独逸ニ対シ相当ノ代償ヲ払フコトトナルヤモ知ルベカラザルノ事実ニ微スルトキハ日本ノ提議セル条件ノ寛大ナルハ日本人ノ確信スル所ニシテ国民的感銘ノ問題トシテモ之以上ノ讓歩ヲ忍ビ難キ次第ハ篤ト了得セラレンコトヲ望ナラズ

ノ利権ヲ主眼トセラルニ於テハ前回自分ノ述べタル如ク補償（Compensation）ノ主義ニ依ル代案ヲ発見スルコトヲ得ザルノ理ナカルベシ金錢上ノ補償ニ甘ンゼラレザルハ即チ政治上ノ目的ヲ加味スルコトヲ暗示スルモノニ非ズヤト論ジタリ本使ハ之ニ対シ自分等ハ純然タル經濟的事業トシテ同鐵道ノ前途有望ナルヲ信ズルモノナリト雖モ鐵道收益ノ有無又ハ程度ハ一二ニ經營宜シキヲ得ルト否トニ依リテ定マルベク經營ヲ支那人ニ一任スルトキハ到底満足ナル成績ヲ期待スルコト能ハズ是レ支那ニ於ケル鐵道投資ガ多クノ場合外國技師長及会計員ノ雇傭ヲ条件トスル所以ニシテ日本ガ合辦經營ヲ提議セルモ此ノ意味ニ外ナラズ仮リニ主義上補償案ヲ適當ナリトスルモ今後合辦經營ノ実驗ニ微スルニ非ザレバ補償額ノ基礎ヲ定ムルニ由ナカルベシ從テ日本ガ此際金錢上ノ補償ニ甘ンゼザレバトテ直チニ政治上ノ目的ヲ加味スルモノト推論スルハ早計ナリト思考スト述べタルニ「ヒューズ」ハ日本ガ膠州灣租借権ヲ還附スルモ港内ノ船渠棧橋並ニ倉庫等ヲモ合辦事業トシテ鐵道ト共ニ其ノ管理ノ実権ヲ握ルコトトナラバ曩ニ山東問題全体ニ関シ激甚ナル物議ヲ醸シタル行キ懸リ上今回日本ノ提案ニ何

ム

三、鐵道合辦案ハ新提議ニ非ズ一九一八年支那政府ガ日本政府ニ宛テタル公文中既ニ明白ニ快諾ヲ与ヘタルモノナリ惟フニ一九一八年ノ協定ハ何人モ之ヲ以テ日本ノ脅迫ニ基クモノト認ムルコトヲ得ザルベク事實ニ於テハ却テ當時支那ヨリ財政ノ窮迫ヲ吾ニ訴ヘ吾ラシテ支那ノ必要トスル資金調達ニ同情的考量ヲ加フルノ不得止ルニ至ラシメタル結果ナリ今日ニ至リ支那ハ此ノ成行ヲ忘レ資金調達ノ条件ヲ破棄セソコトヲ試ルガ如キハ恐ラク支那當局ノ真意ニ非ザルベシ

以上三点ニ付本使ハ反復説明ヲ加ヘタル後左記趣旨ノ応答アリ

一、國務長官ハ前回述べタル論旨ヲ繰返シ鐵道合辦ト云フモ事業經營ノ技能及組織力ニ於テ日支兩国人間ノ懸隔甚ダシキニ顧ミルトキハ日本人ハ事實上鐵道ヲ支配スルニ至ルベク例ヘバ日支兩國ヨリ同數ノ重役ヲ選ブコトトナルモ支那人ノ重役ハ唯名義上ニ止マルベシト予想スルモノアルハ自然ノ勢ナリ貴官ハ日本ガ鐵道合辦ヲ主張スルハ全然經濟上ノ目的ニ依ルコトヲ説明セラレタルモ果シテ單ニ經濟上ノ

政治上ノ目的ヲ含マザルコトヲ世人一般ニ納得セシムルコトハ困難ナルベク恐ラクハ日本ハ名ヲ去リ實ヲ収ムルモノナリトノ感想ヲ免カレザルベシトノ趣旨ヲ繰返セリ二、独逸ヲ山東省ヨリ驅逐セムガ為日本ガ多大ノ犠牲ヲ供シタルノ事実ニ就テハ「ヒューズ」ハ充分之ヲ認識スルト共ニ米國ハ戰時中仏國ノ危難ヲ救ハソガ為遙ニ重大ナル犠牲ヲ払ヒタルニ拘ラズ仏ニ対シ何等ノ代償ヲモ要求セザリシコトヲ指摘シタルニ付本使ハ独逸ノ侵略行為ニ依リ仏國ノ受ケタル危險ハ即チ世界ノ文明ニ対スル危險ナリトシテ米國參戰ヲ見ルニ至リタルモノナルベキモ日本ノ參戰ハ支那ノ危難ヲ救ハムガ為ニアラズ両者ノ場合ハ自ラ趣ヲ異ニスル所アリ支那ハ日本ノ努力ヲ無視シ支那方面ニ於ケル戰勝ノ利益ヲ独占スベキ理由ナシト思考スル旨ヲ述べ置キタリ

三、國務長官ハ又本使ノ指摘セル千九百十八年ノ日支協定ニ言及シ該協定ハ支那國民ノ承認ヲ得タルモノニアラザルガ如シト言ヘルニ付本使ハ苟モ一國ノ代表者ガ自國政府ノ特別委任ヲ受ケ締結シタル協定ハ國民ニ反対論アリト言フガ如キ理由ニ依リ効力ニ消長アルベキ謂ナシト説キタルニ

「ヒューズ」ハ強ヒテ之ヲ争ハズ

以上応答ノ國務長官ハ語ヲ改メ自分ノ今日迄本問題ニ関シ意見ヲ述べタルハ固ヨリ日本ノ提案ニ異議ヲ入レムガ為ニ

アラズト雖米国政府トシテ何等友誼的勧告ヲ支那ニ与フルニ當リテハ至大ノ責任ヲ負担スルコトヲ自覚スルモノニシ

テ若シ一旦勧告ヲ与ヘタル後当國ニ於テモ支那ニ於テモ異論紛出シ終ニ勧告ノ目的ヲ達セザル時ハ米国政府ハ極メテ

困難ナル立場ニ陥リ形勢ハ益々紛糾スルノ虞ナキ能ハズ既ニ山東鐵道合辦問題ニ關シ支那国内ニ於ケル反対論騒然タ

ルニ顧ミ自分ハ特ニ慎重ニ行動スルノ必要ヲ感ズルモノニシテ先日來貴官ニ對シ淡白ニ意見ヲ披瀝スル精神ニ至リテハ誤解ナカラムコトヲ希望スト述ベタル本使ハ數日來支那側ヨリノ新聞電報ニ拵ルニ支那政府ガ鐵道合辦案ニ反対論ヲ唱フルハ合辦ニ一定ノ期間ナク即チ永遠ニ買戻ノ機会ナキ点ニ重キヲ置クモノノ如ク國務長官ノ述ベタル如キ合辦ノ趣旨ニ對スル異論ニアラザルヤニ察セラルト語リタルニ「ヒューズ」ハ自分モ支那ニ於テ主トシテ鐵道買戻権ノ期限問題ニ就キ議論アルヲ耳ニシタリト言ヘリ

当日ノ會見長時間ニ亘リタルニ付本使ハ尚本問題ニ熟考ヲ

ルカ如シ昨日斬ノ天津落ヲ伝ヘラレシモ事実ニアラズ条件附キニテ二三ヶ月留任スルナラントノ說昨今多キカ如シ

六六 九月二十五日 在中国小幡公使（電報）

山東問題ニ關シ我國ノ提案ヲ基礎トシ早急商議開始方ヲ顔外交總長ニ督促ノ件

第六四五号 （九月二十五日接受）

貴電第四六五号末段ニ關シテハ漸ク二十三日外交總長ニ面会スルヲ得タルニ付本使ヨリ山東問題ハ提案後既ニ二週間余ヲ経タルモ今以テ貴國政府ノ回答ニ接セザルノミナラズ其ノ意嚮スラ承知スルヲ得ザルハ甚ダ遺憾トスル次第ナリ最近帝國政府ヨリ訓令ノ次第モアリ茲ニ重ネテ至急帝國ノ提案ヲ基礎トシ商議開始ヲ督促スル次第ヲ申入レタル処同総長ハ本件ハ支那ニ取リ頗ル重大問題ニ付充分慎重ニ之ヲ取扱フノ要アリ独リ政府部内ノ意見ノミナラズ在野領袖ノ意見ヲモ徵スル必要アリ而シテ日本ヨリ本案ノ提出セラレタルハ本月七日ナルモ之ヲ發表シタルハ十四日ニシテ国民一般ニ内容ノ知レ渡リタルヨリ僅二十日ニ過ギズ尚最近總理ノ辭職問題起リ總理ハ前週末ヨリ請暇シ國務會議ニモ出

加フルコトシテ帰館セリ

在欧各大使ヘ転電セリ

六五 九月二十四日 在北京岩松陸軍少佐（電報）

山東問題ニ關シ前在中国米國公使ラインシュ

力額外交總長ニ送レル電報ノ内容等報告ノ件

坂電第九〇号

（九月二十六日外務省写接受）

一、前駐支那米國公使「ラインシュ」ノ二十日「ワシントン」発顔外交總長宛電報左ノ如シ

山東問題ニ對スル彼ノ意見ハ直接交渉ヲナスモ米國ノ感情ヲ害スルコト無カラソ山東鐵道ハ支那ニ回収スルヲ必要トス其他ノ條項ハ問題ニ非ズ若シ支那カ回収ノ資金無クハ新銀行團ニ交渉セヨ然ラザレバ南滿地方ノ如ク鐵道ノ主權ヲ失フニ至ラン故ニ津浦粵漢線ノ如ク數國ノ投資ヨリ成ルモ運輸等ノ主權ハ之ヲ支那ニ保有スルヲ要ス云々トテ日本支那合辦ニ反対シ列國投資案ナラバ英、米、仏ハ支那ヲ援助セント暗ニ煽動セリ

二、斬雲鵬ノ去就ハ未タ決定セズ各方面ヨリ頻ニ引留ニ努ムルモ斬ハ疾クニ奉天ニ差遣セル王總長ノ消息ヲ待チア

上原參謀總長宛（電報）

認スル所ノモノナルノミナラズ去ル五月末貴國政府ガ内密

余晉獻ヲシテ齎サシメタル貴國ノ希望条件ト対照シ些末ノ点ヲ除キ根本ニ於ケル基礎的見解ニ至リテハ両国政府ニ於テ略々相一致シ居ルト云フモ不可ナシト信ズ隨而本提案ハ何レノ点ヨリ觀察スルモ貴國政府ニ於テ之ヲ公平妥当ナルモノニ非ズトセラルハ何等ノ理由ナキ次第ト云ハザルヲ得ズ然ルニ如斯貴國ノ希望ニ一致スル公平妥当ナル提案ナルニ拘ラズ貴國政府ガ速ニ交渉ヲ開始スルノ態度ヲ表明セズ躊躇逡巡徒ラニ民間ヲシテ或ハ提案ヲ其儘突返スペントカ或ハ(不明)近キ対案ヲ作製交付スペントカ此儘擋置シテ太平洋會議ニ持出スベシトカ殆ド國際ノ礼讓ヲモ弁ヘザルガ如キ暴論ヲ逞ウセシメ政府ニ於テ何等之ヲ指導啓發スルノ拳ニ出デズ遷延ニ遷延ヲ重ネ嘗テ見ザルガ如キ態度ヲ執リツツアルハ本使ノ頗ル失望シ又深ク意外トスル所ナル旨ヲ最痛切ニ反復難詰シ其処決ヲ促シ其ヨリ双方ノ間ニ外国ノ輿論及我提案ノ公平不平等ノ論ニ付二三回押問答ノ末最後ニ外交總長ハ北京附近地方ニアル在野各派其他ノ領袖ヲ招集シ事件ノ成行内外ノ情勢等巨細説明ノ上其等ヲ纏メタル上成案ヲ作製シ閣議ニ附シ本使ト会合スル決心ナル旨ヲ述べ何分ニモ斬總理ノ此際ニ於ケル請暇ハ政府ノ方針決

定ニ多大ノ困難ヲ感ゼシメ居ル所ナルモ多分明二十四日ノ國務會議ニハ出席スペントノ説モアルニ付篤ト本日会談ノ次第ヲ告ゲ協議ノ上可成至急回答ヲナスニ至ル様努力スベシト附言セリ依テ本使ハ在野各派領袖ヲ招集スルガ如キコトハ結局遷延ニ遷延ヲ重ヌルニ終リ日本政府トシテハ支那ノ國家ヲ代表スル政府ヲ相手トスル外ナキヲ以テ右様内輪ノ事情ノ為此上何時迄モ遷延ヲ重ネ何等決定スル所ナキニシテハ自然其立場ヲ(脱)竝世界ニ説明スル等適當ノ手段ヲ執ルノ已ムヲ得ザルコトアルベシト信ズ旁々以テ支那政府ニ於テハ此際速ニ何分ノ決定ヲナスベキヲ切実ニ督促シ置ケリ

六七 九月二十八日 在中國小崎公使(ヨリ) 内田外務大臣宛(電報)

山東善後措置案ニ對スル中國側回答接受前二

日中交渉經過公表ヲ得策トスペキ旨稟申ノ件

第六五五号(極秘)

(九月二十九日接受)  
累次ノ電報ニテ御承知ノ通リ山東問題措置案ニ對スル支那側ノ態度ハ直接交渉拒絶ニ等シキ内容ノ回答ヲ送り来ル位ガ関ノ山ナル可キハ想像ニ難カラズ而シテ斯カル回答アリ

タル後始メテ問題從來ノ曲折ヲ公表シ天下ニ我ガ立場ヲ説明スルノ段取トナラバ少クトモ支那側ノ閥スル限り或ハ時期已ニ去リ予期ノ効果ナキニ至ルヲ恐ル從テ此際支那政府

ヲシテ少クトモ右ノ如キ回答ヲ為シ得ザルノ地位ニ置ク為回答接受前ニ於テ問題ノ経過ヲ公表スルコト或ハ策ノ得タルモノナラズヤト思考セラル勿論然ル場合ニハ現政府ハ各方面ヨリノ攻撃ノ為地位尚更薄弱トナリ交迭ノ已ムヲ得ザルニ立到ルナランモ現政府ノ如キ貧弱ナル當局者ノ変更ハ却テ時局開展上好都合ナル可ク且亦政變ノ為政界當分混沌状態ニ陷ランカ或ハ華府會議ニ於ケル支那側ノ暴論ヲ掣肘スルニ附ケ便利ナラザルヤトモ想像セラル尚近着 North China Daily News ニハ山東問題条件ニ關スル和約研究會成案ガ日本官僚ノ手ニ入り日本政府ニ送致セラレ今回ノ日本提案ハ即之ニ根拠スルモノナリ云々ト報道セラレ追々此ノ經緯モ世論ニ上ラントスル折カラ支那政府筋ヨリ先ニ手ヲ廻シ真相ヲ糊塗スルガ如キ弁明手段ヲ講ズルナキヲ保シ難キヲ以テ寧ロ先方ノ操縱手段ニ出デザル今日機先ヲ制シ我ヨリ事ノ真相ヲ明ニスル方機宜ヲ得タル措置ナランカト思量ス勿論此ノ場合余晉獻ヨリ坂西へ手交ノ条件全文ヲ

一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ關スル件 六八

別紙王廣圻、施肇基、唐在復ノ山東善後案ニ對スル意見書大意ハ當地利中公司專務理事好富道明氏ノ手ニ入リタル原文ヨリ訳出セルモノニシテ為御参考右及送付候 敬具  
追テ右ハ好富氏ヨリ外部ニ對シ同人ヨリ出デタルモノナ

發表シ世上ニ我提案ト比較セシムルノ機會ヲ与ヘ然ル可キカト存ス篤ト御誼議ヲ望ム

六八 九月二十八日 在天津江戸總領事代理ヨリ 内田外務大臣宛(總領事代理ヨリ)

山東善後措置案ニ關シ蘭米伊三国駐劄ノ中国  
公使方外交部ニ電報セル意見ノ大意報告ノ件

附屬書 右意見ノ大意  
機密第一一七号  
在天津  
大正十年九月二十八日  
(十月四日接受)

総領事代理 領事官補 江戸 千太郎(印)  
外務大臣伯爵 内田 康哉殿  
山東善後案ニ對シ王廣圻、施肇基、唐在復ノ外交部ニ宛  
テタル意見書大意報告ノ件  
極秘

別紙王廣圻、施肇基、唐在復ノ山東善後案ニ對スル意見書大意ハ當地利中公司專務理事好富道明氏ノ手ニ入リタル原文ヨリ訳出セルモノニシテ為御参考右及送付候 敬具  
追テ右ハ好富氏ヨリ外部ニ對シ同人ヨリ出デタルモノナ

ルコトヲ絶対秘密トナスベキ条件ニテ内示セシモノナレバ此旨御含ノ上極秘トシテ取扱相成度此段申添候

本信写送付先 在支公使

(附属書)

我方提出ノ山東善後措置案ニ関シ蘭米伊三国駐劄ノ中国公使ガ外交部ニ電報セル意見ノ大意

極秘

一、山東問題ニ関シ駐和蘭公使王広圻ヨリ九月十七日附外交部ニ宛テタル電文大意

倫敦ヨリ転電アリタル七日附貴電山東問題公開ノ件極メテ機宜ノ処置ト存ズ二十一箇条ハ全ク青島問題ニ因リテ発生セルモノナレバ先づ之ガ取消ノ声明ヲ求メタル後該解決案節略ニ対シテ回答スベキヲ可トス其ノ第二條外人既得権尊重ノ件ニ関シテハ「ベルサイユ」平和条約調印以前ニ於ケルモノニ限リ之ヲ認ムベク商埠ノ開放ハ協定ニ依ルベカラズ但シ関係各國ガ意見ヲ通知シ来レル時ハ尙考慮ノ余地アリ小官ノ意ヲ以テスレバ山東省全部ヲ開放スルモ可ナレド、ソレニハ先づ該省内ノ領事裁判権ヲ撤廃セザルベカラズ、第三条鉄路鉱山ノ件ハ之ヲ二種ニ分チ土地及行政権ハ完全

執リタルモ何等ノ効果ナカリキ「ベルサイユ」条約ニ対シテ中米両国ハ均シク之ヲ批准セズ理性ヲ以テスレバ戦闘ニ参加シタルガ為ニ領土ヲ失フト云フガ如キコトハ無カルベシ唯貴國ハ年來政局ノ混乱ノ為種々ノ既定条約ヲ以テ日本ノ山東ニ於ケル地位ノ承認ヲ余儀ナクサレタルモノナレバ此点ニ關シテ米国ハ頗ル答弁ニ苦シムモノナリ之ヲ太平洋會議ニ提出スルト否トハ中日両国ノ自動ニ依ルベキモ米国ハ公理ノ為ニ力ヲ致シ決シテ日本ノ為ニ弁護ヲナサズ云々ト述べタリ

嗣デ東洋課長ヲ訪ヒタルニ同氏ハ日本ノ中国ニ提出セル九箇条ノ文意ト米国ニ提示セルモノトハ少シク異レルモ大体ニ於テ一致セリト語リ盛ニ日本ガ措辞ニ巧ミナルヲ称シタル後該節略ハ先年伝ヘラレタルモノト同一ニシテ讓歩セルモノトハ言ヒ難シ中国ノ対策ニ関シテハ吾人ハ之ニ干渉スルヲ憚ルモ私人トシテ之ヲ云ヘバ直接交渉ハ利益多シ余ハ中日両国ニ於テ自ラ解決セゾコトヲ希望ス然ラザレバ中國ハ該節略ニ就キ条ヲ追フテ日本ト非公式ニ商議シ中国ノ希望ヲ達シタル後ニ於テ之ヲ止ムベシ該節略ハ頗ル廣汎ニ亘レルモノナルガ故ニ今ヨリ商議ヲ開始スレバ必ズ華盛頓

一 対 独 平 和 条 約 実 施 後 の 山 東 問 題 ニ 関 ス ル 件 六 八

ニ主権者タル中国ノ所有ニ属セシメ、鉄路鉱山營業上ノ経済権ハ両国平等トナスコトトスベシ、第七条官有財産及公共營造物ハ完全ニ譲渡スコトヲ要但シ「ベルサイユ」条

約調印前日本ニ属セシモノハ中国政府ヨリ相当ノ代価ヲ支払フモ可ナリ、查スルニ太平洋會議開催ノ時期ハ切レリ若シ日本ニシテ我要求ヲ容レズンバ之ヲ太平洋會議ニ提出スベシ、直接ニ之ト交渉スルハ奸策ニ乗ゼラルルノ恐アルヲ以テ不可ナリト愚考ス、云々

二、同駐米公使施肇基ノ九月十五日附外交部ニ宛テタル電文大意

本朝(十五日)政事堂ニ赴キ外務大臣ニ面会シテ山東善後案節略ノ趣ヲ談リタル處同氏ノ下ヘモ日本ヨリ通知アリ目下東洋課長ニ於テ研究中ナル趣ニテ小官ノ間ニ対シ先づ貴國ノ本問題ニ対スル決心如何ヲ知リタル後ナラズハ米国ノ意見ヲ述ブル能ハズ我米国ハ從来弱國ヲ扶助スルノ政策ニ基キ中日両国ニ対シテハ調和ヲ主張シ来レリ一八九九年「マツキンレー」大統領ハ國務卿「ヘー」ヲシテ列國ニ対シ中國ノ門戸開放ヲ声明セシメ以テ中国分割論ヲ阻止セリ其ノ後中日間ノ争議ニ対シテハ滿洲問題ノ如キ調解ノ勞ヲ

以上兩人ノ言ヲ以テ見ルニ何レモ適確ナル表示ヲナサズ太平洋會議ニ提出ノ結果料リ難キヲ知ルベシ小官ノ見ヲ以テスレバ本問題ハ何処ニ於テ解決セラルニセヨ要スルニ全国ノ意見ガ一致シタル後方針ヲ確定スルヲ以テ最良ノ方法トナス我国ノ意見決定セバ迅速ニ之ガ訓示ヲ仰ギ以テ米国ニ対スル宣伝ノ効果ヲ挙ゲタキモノナリ

三、同駐伊公使唐在復九月十四日附外交部宛電大意  
七日附貴電ノ趣敬承日本ガ山東善後案節略ヲ突如提出セシハ我國ノ太平洋會議ニ提出スルヲ防止センガ為ナルニ疑ナシ昨年及昨年ノ兩度ニ亘リ我國ハ彼ニ対シテ条件ノ提示

ヲ要求セシニ終始之ヲ承諾セザリシガ今日ニ至リテ彼自ラ提出シ来レルハ讓歩セルニ相違ナキモ其第三条鉄道鉱山ノ合辦ハ弊害多シ愚考ヲ以テスレバ別ニ対案ヲ準備スルヲ可トス即チ鉄路鉱山ハ相当ノ代価ヲ以テ之ヲ回収スルコトトナシ之ガ為ニハ膠濟路公債ヲ發行スレバ可ナラン其ノ他ノ八項ニ就テモ各項毎ニ嚴重審査ノ上之ヲ内ニ対シテハ國民ノ誹議ヲ免レ外ニ対シテハ太平洋會議ニ提出スルヲ恐レタル日本ノ為ニ讓歩ノ意ヲ示スベキ様ニ改削スペシ此方針ヲ実行セバ直接交渉ヲナストモ方法ナキニ非ズ但シ太平洋會議ニ提出スルノ余地ヲ留保シ置クコトハ勿論ナリ

六九 九月三十日

内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛(電報)

## 山東問題ノ日中交渉経過公表方稟申二対シ回

電ノ件

第四九〇号(極秘)

貴電第六五五号ニ閑シ

山東問題善後措置ニ關スル我方今回ノ提議ハ先般非公式ナガラ余晉龢ヲ以テ支那政府側ノ考案ニ係ル條項ヲ我方ニ内示シ来レルト斯總理ガ其後貴官トノ会見ニ於テ直接交渉ニ

応ズル意向ヲ示シタル次第ヲモ考慮シタル結果ニシテ敢テ我方ノミノ都合ニ拠リ提議シタル次第ニ非ザルニ拘ラズ御來示ノ如ク支那政府ヨリ又々直接交渉ヲ拒絶シ若クハ之ニ等シキ回答ヲ為シ来ルモノトセバ貴見ノ通り回答接受前ニ於テ公表ヲ為スコト或ハ一策ナルベキモ右ハ直接交渉促進ノ公明正大ナル動機ニ胚胎セズ單ニ華府會議ニ本問題ノ上程セラルヲ怖レ一種ノ術策ヲ弄セルモノナリトノ非難中傷ヲ招キ又ハ徒ニ我方ノ心術ニ對シ批難ヲ受クル結果ニ陷入ノ虞アリ旁々御來示ノ公表ハ愈々支那政府ヨリ拒絶ノ回答アリタル後ニ實行スルコトシタシ尤モ余晉龢ノ齋セル条項ハ支那政府ヨリノ回答ヲ接受スル前タルト後タルトヲ問ハズ帝国政府ノ公表文中ニ之ヲ插入スルコトハ帝国政府ノ信義ニ關シ支那側ニ於テ之ヲ日本攻撃ノ利器ト為スコトアルベキニ顧ミ之ヲ避クル方得策ナルヤニ認メラル処幸ヒ既ニ North China Daily News ニ御來示ノ如キ報道頭ハレタルヲ機トシ貴地ニ在ル本邦新聞通信員中十分信賴スルニ足ルベキ者ヲシテ支那側ヨリ得タル報道トシテ該条項全部又ハ其要領ヲ本邦新聞ニ電報セシメ以テ之ヲ世上ニ流布セシムルコトトシ而シテ回答接受後我方ニ於テ發表ス

ベキ公表文中ニ一面单ニ新聞掲載ノ電報ヲ確認スルト共ニ

他面交渉ノ経過ヲ歴叙スルコトスル方各方面ヨリ考察シテ最モ得策ト認メラルニ付テハ貴地ニ於ケル本邦新聞記者中果シテ適任者有之ニ於テハ十分ノ注意ヲ以テ前記ノ通り可然取計ハルルコトトシ度處右ニシテ後日内情暴露スル場合ニ於テハ或ハ面白カラザル事態ヲ生ズルコトアルヤモ難計ニ付一応御意見折返シ電報アリタシ

七〇 十月一日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)山東善後措置案大綱ニ対スル中国政府ノ回答  
振ニ闕シ張志潭及孫潤宇方吉田ニ内話ノ件

第六五九号

二十九日張志潭ノ吉田ニ内話セル所ニ拠レバ

〔太平洋會議ノ全權代表ハ顏王顧施ノ四人ニ内定セルガ中央政府ニ於テハ南方側ヨリ一名ノ代表ヲ派遣スルコトニハ異議ナク目下内々南方ト接触中ナル処広東政府ニ於テハ代表ヲ派遣シタキハ山々ナルモ北京政府ノ任命ヲ肯ゼザルニ付未ダ決定ニ至ラズ顏ノ渡米見合説ハ未ダ確ナラズ今日迄ノ所渡米スル方ノ「ボッショリチー」多キガ何れ數日内ニ

一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ關スル件 七〇

七一 十月六日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

**山東問題措置案大綱ニ対スル中國側回答覚書**

ヲ外交総長ヨリ手交アリタル件

別 電 十月六日小幡公使発内田外相宛第六六六号

右回答覚書

第六六五号

(十月六日接受)

十月五日本使外交総長ノ需ニ依リ会见シタル処總長ハ曩ニ提出セラレタル山東問題措置案大綱ニ付テハ事重大ニ付政府ハ篤ト慎重ニ考量ヲ加ヘ且在野有力者ノ意見ヲモ聴取シ参考ニ供シタル上支那ノ現状ニ鑑ミ種々苦心ノ結果回答案ヲ決定シ茲ニ閣下ニ回答スル次第ニ付其ノ意ヲ了察セラレ本覚書ノ一句一語ヲ詳細ニ閲讀セラレ政府苦心ノ存スル所ヲ了解アランコトヲ切望スト述ペタル上回答覚書ヲ手交シ尚總長ハ直ニ念ノ為トテ覚書ノ大要ヲ英語ニ訳読セリ本使ハ回答覚書ヲ熟讀セザルモ唯今聴取セル英訳ニ依リ考フレバ我提案ト大ナル懸隔アリテ殆ド拒絕ト認ムベキモノナリ抑本年五月本使帰朝前ニ貴總長ハ公正妥当ニシテ各國モ公平ト認ムル具体案ノ提出ヲ希望セラレタルニ付日本政

府ニ於テモ種々考量ノ上最モ公正妥当ト信ズル条件ヲ提出シ該条件ハ歐米各国ニ於テモ一般ニ公平ナリト認メ居ルノミナラズ我提案ハ大体ニ於テ余參事ノ持參セル貴國側内示案ト同様ナルニ拘ラズ殆ド拒绝トモ見ラルベキ此種回答アルハ本使ノ意外トスル所ニシテ本使ノ立場トシテ斯ル回答ヲ本国政府ニ取次グコト能ハザルニ付貴国政府ノ再考ヲ煩ハシタキ旨述ペタルニ總長ハ斯クテハ本件ノ解決ハ益々困難トナルベク且唯今英訳シタルハ大意ニシテ決シテ日本提案ヲ拒绝シタル意味ニアラズ又内容ニ付テモ詳細ニ熟讀セラルレバ結局大体ニ於テ日本提案ト同様ナルニ付是非御熟讀ヲ願ヒタク御承知ノ通本問題ニ付テハ国内ノ輿論ハ交渉拒绝ニ傾キ種々ナル反対論アルモ政府ハ右輿論ハ参考ニ供スルニ止メ政府ノ回答案ヲ決定シタル苦心ノ程了承願ヒタシト懇談シタルニ付本使ハ例ヘバ山東鐵道及附屬鉱山ノ如キ合辦タルベキコトハ余參事ノ持參案ニモアルニ本回答ニハ之ヲ認メザルニアラズヤト指摘シタルニ總長ハ右ノ案トハ如何ナルモノナルヤ又該案ハ何人ニ提示セラレタルモノナリヤ承知セズ本件ト全然別事ニ属スベシト述べタルニ付本使ハ余參事ノ渡日前貴總長ハ余參事ヲ呼ビ貴國案ヲ手交

シ右ニテ日本ノ了解ヲ得ル様内訓セラレタリトノコトナリ又本使帰任後斬總理ニ会見ノ節本件ニ談及シタルニ余參事ハ該案ハ外交部和約研究会ニテ作成セル案ナリト語リタル旨述ペタルニ總長ハ右ハ新聞上ニモ一寸掲載セラレタル八項ノ事ナランガ和約研究会ニテ支那ノ内部ニ於ケル準備ノ為該八項ヲ作リタルコトハ事實ニシテ現ニ今回右回答ニモ山東鐵道ノ如キ資本合辦ハ之ヲ認メ居ル次第ナリ又新借款團ノ如キ支那ハ未ダ之ヲ承認シ居ラヅルニ付國際投資團ト記シタリ其ノ他諸点ニ付支那トシテハ理論上又ハ各種規定上斯ク回答セザルヲ得ザルノ義ハ了承ヲ願ヒタク何レニシテモ本回答ヲ熟讀アリタキ旨繰返シタルニ付本国政府ニ取次ノ事ハ何等言明セズ免モ角一応熟閱スペシトテ該回答ヲ携ヘ引取レリ右回答(原文郵送ス)別電ノ通ナリ

(別 電)  
十月六日在中国小幡公使發内田外務大臣宛電報第六六六号  
日本提出ノ山東問題措置案大綱ニ対スル中國側回答覚書  
第六六六号(別電)

覚書

日支間重大案件ナル山東問題ハ支那ニ於テ固ヨリ速ニ解決

# 一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ関スル件 七一

八〇

設置ノ要ナク又農業ハ國民根本ノ生計ニ關係シ且各國ノ通例ニ依ルモ断ジテ外人ノ經營ヲ許シ難シ外人ノ既得權利ニ付テハ独逸人管理時代ニ於テ諸法律ノ手続ヲ按ジテ取得シタルモノハ元ヨリ尊重スペキモ若シ日本軍事占領期間内ニ於テ強迫圧制ヲ用ヒ取得シ及約章法律ニ違反シタルモノハ断ジテ承認シ難シ又同上山東都市ヲ開放シ商埠トナスハ支那ガ商務ヲ發展スルノ趣旨ト相合致スト雖右ハ支那ニ於テ情況ヲ斟酌シ自ラ選定ヲ行フベシ開埠章程ニ付テハ支那ハ自ラ國際商務ノ便利ヲ主トシ自開商埠ノ成例ニ依リ適當ニ計画作製スベク予メ協議ヲ行フノ要ナシ

(三)合辦山東鐵道即チ膠濟鐵道線ノ一節ハ全國人民ノ反対スル所ニシテ各國鐵道ハ正ニ統一制度アリ合辦ハ即チ鐵道ノ統一ヲ破壞シ國家ノ主權ヲ侵害シ且支那ハ合辦鐵道ノ先例流弊甚ダ多ク之ヲ矯正スル方法無キニ鑑ミ合辦ニ對シテハ原則上承認スル能ハズ全鐵道及管理權ハ完全ニ支那ニ帰スルコトトシ該鐵道ノ資產ハ公平ニ評価シタル後暫ク未回収ノ半數ハ尚支那ニ於テ期ヲ定メ買取ルベシ鐵道附屬ノ独逸人既ニ辦理セル鉱山ハ支那ノ鉱律規定ニ依リ辦理スベシ(四)山東鐵道延長線即チ濟順高徐西鐵道ノ建築事業ハ支那自

テ國際投資團体ニ對シ商辦ス煙濰鐵道ハ本來該兩鐵道ト全然異リ同シク論ズベカラス

(六)青島海關ハ從前租借地時代ニ於テ制度少シク異リシモ租借地既ニ回収セラルレバ海關ハ當然中國政府ノ完全ナル処理ニ歸シ他埠海關ト聊カタリトモ異ル制度ヲ容レズ

(七)官有財產ハ範圍極メテ広ク行政上ノ一部ニ限ラズ該覺書ノ所謂原則上ノ讓渡ナル語ノ意味殊ニ明瞭ヲ欠ク日本果シテ誠意ヲ以テ還附スルナラバ各種官有、半官有、市有及公有財產事業ヲ完全ニ還附シ支那之ヲ接收シ其ノ種類ニ依リ中央及地方機關市政公署海關等ニ分交管理スルヲ以テ自ラ別ニ協定ヲ行フノ必要無シ  
(九)山東境内撤兵問題ハ元膠澳還附ニ關聯スル所無シ屢々支那政府ヨリ實行ヲ催促シタル所ナルヲ以テ日ヲ定メテ全部撤退スベシ膠濟鐵道警備事項ニ就テハ即チ支那ヨリ相当ノ鐵道巡警ヲ派遣シ引繼管理スベシ  
以上ハ其ノ大要ヲ挙ゲタルモノニシテ満足シ能ハザルノ点多キヲ以テ支那政府ハ剝切ニ之ヲ声明セザルヲ得ズ且友邦意見ノ懸隔ニ鑑ミ懸案久シク解決セザルヲ恐ル尚若シ適当ノ機會アラバ本案ノ解決ヲ計ルノ自由ヲ保留ス

## 外交部

民国十年十月五日

(附屬書)  
中華民國十年十月五日附中國外交部回答  
覺書寫

## 外交部節略

七二 十月六日 在中國小幡公使ヨリ

附屬書 中華民國十年十月五日附中國外交部回答  
回答覺書寫送付ノ件

(十月十二日接受)

大正十年十月六日

在支那

特命全權公使 小幡 酉吉 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

山東問題善後措置案大綱ニ對スル外交部回答覺書

送付ノ件 (關係電報往電第六六六号)

本件ニ關シ左記書類及送付候也

書類要目 備考

甲号 民国十年十月五日外交總

長ヨリ手交セル覺書一通

且按照各國通例万難准許外人經營至外人之既得權利在德人管理時代按諸法律手續取得者固當尊重若於日本軍事佔領期內用強迫壓制取得及有違背約章法律者方難承認又同條開放山東都市為商埠雖与中国發展商務之宗旨相合然當由中國斟酌情形自行擬定至開埠章程中國自以國際商務便利為宗旨按照自開商埠成例妥籌訂立無庸預行協議

又如其三合辦山東鐵路即膠州路線一層為全國人民所反對因各國鐵路當有統一制度合辦即破壞鐵路之統一侵害國家之主權且中國鑒於合辦鐵路之先例流弊滋多無法糾正對於合辦原則上不能承認全路及管理權應完全歸諸中國其該路貨產公平估計後暫未收回之半數應仍由中國定期購回至鐵路附屬之德人已辦鉛山應按照中國鉛律規定辦理

又如其五山東鐵路延長線即濟順高徐兩路此項建築事業中國自當向國際投資團體商辦至煙濰鐵路本與該兩路截然兩事不能相提並論

又如其六青島海關從前在租借地中制度略異租借地既收回前海關當歸中國政府完全處理不容與他埠海關稍有異制

又如其七官有財產範圍極為寬大不僅限於行政的一部分該節略所謂原則上之讓渡語意殊欠明瞭日本果誠意交還應將各項

官有半官有市有及公有財產事業完全交由中國接收按其種類分交中央及地方機關市政公所海關等管理自無別行協定之必要

又如其九山東境內撤兵問題本與交還膠澳不相牽涉迭經中國政府催促實行應即尅日全部撤退至膠濟鐵路警備事宜即由中國派遣相當路警接管

以上舉其大端多有不能滿意之點中國政府不能不剝切聲明且觀於雙方意見之懸殊恐此案久懸不結應仍保留如有適當機會圖謀解決此案之自由

中華民國十年十月五日

外交部 啓

七三 十月八日 在中國小幡公使（ヨリ）

山東善後措置案二對スル中國回答二付中國政

府ノ真意ヲ小幡公使へ転達方熊秘書ヨリ西田

ヘ依頼ノ件

第六六九号

（十月八日接受）

全然不調ニ終ランカ将来解決ヲ計ランコト殆ト不可能ナルベクスクテハ日支大局ノ為甚々遺憾ト考ヘラルニ付以上内密ニ公使ニ転達願ヒタシト申述ベタルニ付西田ハ個人ノ私見ナルモ貴國政府ノ苦心ノ存スル所トハ云ヘ今回ノ回答ハ余り貴方勝手ノ議論多ク文意甚々曖昧不眞面目ノ点アルコトヲ深ク感ジタリ該回答ニ對スル公使ノ意見ハ總長トノ會談以外ニ未だ何等承知セズ御話ノ次第ハ兎モ角公使ニ御伝ヘスヘシト答ヘタルニ熊ハ更ニ山東問題ニ對シ外務省又ハ公使館ニテ声明ヲ發セラルトノ説ハ事實ナルヤ若シ斯カル場合ニハ發表前ニ一応拝見願ヒ間敷ヤト問ヒタルニ付西田ハ自分ノ知ル限リニテハ今迄ノ處何等承知セズ若シ何等カ声明アル場合ニ於テモ發表前ニ一覽ニ供シ得ベキヤ否ヤハ勿論自分ニ於テ回答シ得ル限ニアラズト答ヘ置キタル趣ナリ

右熊ノ談話ハ同人個人ノ話ナリト称スルモ公使ニ転達ヲ願ヒタシト云ヘルニ鑑ミ勿論外交總長ノ内意ヲ受ケ居ルモノニ希望シ居ル次第ニシテ政府ノ苦心了承願ヒタク私見ナルモ山東問題ハ今回ノ好機会ニ於テ双方妥協ノ態度ニ出デズ

七四 十月八日 在中国小幡公使（ヨリ）内田外務大臣宛（電報）

中國側方山東善後措置二対スル回答ヲ提示後  
ノ形勢報告及我方ノ措置振請訓ノ件

第六七〇号（至急）

（十月八日接受）

往電第六六五号末段ノ通山東問題措置案ニ対スル支那側ノ回答ハ本使ニ於テ単ニ熟読ノ為持帰リタルモノニテ帝国政府ニ取次クヤ否ヤハ何等言明セザリシ次第ナル処支那政府ハ回答公表後自国新聞ニ対シテハ支那ノ趣旨ハ直接交渉拒絶華府會議提出ニアリト云ヒ居レルニ反シ日本側新聞記者ニ対シテハ往電第六六九号熊秘書ノ言ノ如ク支那ハ今回ノ回答ニ依リ漸次のニ交渉開始ヲ為サン希望ナリト云ヒ両刀ノ論法ヲ用ヒ居ルト同時ニ一二外国通信員ヲシテ本使ノ態度ヲ探知セシメント努ムル等尠カラズ不安ノ念ヲ懷キ居ル

模様ナル處本使ニ於テハ態度未決定ナリトノミ申聞カセ居ル結果昨夜（七日）来支那側ハ大ニ興奮心配シ始メタリトノ内報アリ路透及中美通信員ノ語ル所ニ拠レハ右ハ支那政府ハ国民ノ反感ヲ怖レ直接交渉即時開始ヲ決シ能ハザリシモ然ラバトテ華府會議ニ提出ノ見込モナキ為若シ日本ニシ

テ全然拒絶ゼンカ当分致方ナキ窮状ニ陥ルニ至ルベキヲ虞ルルニ依ルト

目下ノ形勢右ノ如キモ何時迄モ此儘放任スル訣ニ参ラズ何ントカ回答ハ之ヲ取次ギタリトカ若クハ本使ヨリ支那回答ノ各項ニ付質問ヲ試ミルノ方法ニ出ヅルトカ致サザルベカ

ラザル立場ニ有之ニ付本使ノ執ルベキ措置ニ付大至急回訓ヲ讀フ尚貴電第四九〇号末段ニ闕シテハ当地ニ於テ適當ナルモノ見当ラザルニ付其儘ト為シ置キタル処既ニ大阪毎日ニハ余參事ノ提案ト同様ナル八ヶ条掲載有之ニ付必要ナル場合ニハ右ヲ御引用アリタク申上グル迄モナク提案携帶者ノ氏名發表ノ儀ハ今トナリテハ見合サルル様致シタシ

七五 十月十一日 在北京坂西中将（ヨリ）上原參謀總長宛（電報）

山東問題解決ノ為ノ中国トノ交渉ハ先ツ非公式予備交渉ニ依ルヲ得策トスル旨意見開陳ノ件

坂電第九七号

（十月十三日外務省写接受）

山東問題ハ既ニ理論ヲ離レ専ラ感情ニ奔リ平凡ニシテ思慮浅キ外交手段ニテ解決シ得ストハ支那側一般ノ認ムル所ニ

シテ去ル五月小官帰朝中余晉蘇カ極メテ秘密ニ先ツ支那ノ案ヲ齋セルハ當局苦心ノ結果ニ外ナラス然ルニ帝国カ非公式予備交渉ヲ避ケ突然正式ノ提案ヲ為セシ為メ予テ輿論ノ攻撃ヲ避ケツツ巧ニ交渉ヲ進メントセシ苦心ノ水泡ニ帰シタルヲ怨ミ日本ノ態度ハ支那ノ現状ヲ理解同情セサルモノトシ著シク我ニ対スル信頼ト好感ヲ減シ彼等ハ日本ノ外交ハ口ニ日支共存ヲ唱フルモ米國國務卿ニヨリ左右セラレ米國ヲ中心トシテ支那ヲ遇スルノ感アリトノ歎声ヲ洩ラスニ至レリ是レ支那當局ヲ失望セシメタル第一歩トス帝国カ既ニ公式ノ経路ヲ辿リタル為メ支那當局ハ之ヲ輿論ニ訴フルノ外ナク其ノ対内外ノ苦シキ立場ヨリ直接交渉ヲ拒絶スルデモナク又セヌテモナキ弁明反駁ト希望トヲ述ヘタル甚曖昧ナル回答ヲ發シタル次第ナリ本回答ハ支那政府ノ誠意ヲ認メ難シトテ我レハ是レニ応酬セサルヘク交渉ハ茲ニ一先ツ断絶シ未決ノママ華府會議ニ臨ムコトトナルヘキモ既ニ公開セラレタル今日日支両國共ニ其体面上此主張ヲマケサルヘク先キニ相提携シテ同會議ニ臨ミ両國間ノ紛争ハ第三國ノ手ヲ煩サス解決セントセシ希望ハ全ク水泡ニ帰シ寧ロ好シテ白人ノ目前ニ相争フニ至ラントスルハ頗ル

憾トスル所ニシテ目下ノ傾向ハ將ニ此道程ニアルモノト察セラル是レ我等モ共ニ失望スルノ第二ナリ而シテ米國ノ態度ハ「ヒュース」幣原大使ノ交渉及最近施鑾基ト「ヒュース」及東方局長ノ対話ニヨルモ先ツ日支間ニ折衝セシメ紛争ニ際シ満鐵問題等ニ關シ漁夫ノ利ヲ得ントスルモノナルヤ明ナリ

帝国ハ之ニ対シ断乎タル決意アラハ格別ナルモ然ラサレハ帝国ハ華府ニ於テ支那トノ交渉ヲ余儀ナクセラレ意外ノ解決ヲ見ルニ至ランモ測ラレス若シ此杞憂アリトセハ支那当局ヲシテ今日以上我レニ離反セシムルコトトナル為有利ナラス且ツ今直チニ今回支那回答ノ誠意ナキヲ呼ハリ彼等ノ採リタル非公式手段ヲ曝クカ如キハタダ総統及二三ノ個人ヲ苦シメ政府ヲ動搖セシムルニ止マル可ク彼等ニモ相當弁明ノ準備アル様ナリ恐ラク外交のニ支那ノ國家ヲ拘束シ世界ヲシテ帝国ノ立場ヲ承認セシムル程有力ナルモノニアラサルヘシ唯他日華府會議ニ際シ要スレハ帝国ノ公明ナル態度ヲ宣明シ其反省ヲ促スタメ徳義上ヨリスル一種ノ攻道具タラシメハ多少ノ価値アランモ其余地全ク消滅セサル今日其非公式手段ヲ曝クハ帝国トシテ尚過早ニシテ今暫ク陰謀

ノ必要アルヲ覚ニ少クトモ余音龢ハ顔總長ノ言ヲ受ケ「今

回ノ回答文モ其実質ニ於テ去ル五月小官ニ交付セル書翰ト  
大差ナク唯帰國後之ヲ公開シタルタメ當局ヲシテ国内ノ輿論ニ対スル關係上國家主權ノ侵害ヲ受ケサル如キ文句ヲ用

フルノ止ムヲ得サルニ至リタルモノナリ」ト説明シ尚機會ヲ見テ非公式ノ相談ヲナシ相互ノ了解ヲ得テ解決ノ緒ニ就カソコトヲ希望シ居レリ

小官最近上京ノ際意見具申ノ如ク現在ノ如キ無勢力ナル北京政府ヲ相手トシテ單ニ公式的外交手段ノミヲ以テ事ヲ処理セントスルハ偶々支那ヲシテ我意図外ニ脱セシムルニ過ギザル如キ感ヲ起サシメタリ聊カ卑見ヲ陳ス右原總理、陸外両相ヘ伝ヘラレタシ

七六 十月十五日 内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛（電報）

### 山東善後措置案ニ關スル中国政府覚書二対スル

日本政府ノ覆答ヲ外交總長二手交方訓令ノ件

別電 同日内田外務大臣発在中国小幡公使宛電報第五  
一号  
右覆答

府覚書ノ文面ニテハ差向交渉進捗ノ見込ナカルヘシ

二、乍去本問題ニ關スル米國其他列強ノ態度ハ必ズシモ日本ニ取リ有利ナリトハ認メ難キモノアルヲ以テ本問題ニ対スル日本ノ立場ヲ出来得ル限り有利ナラシメ置クコト肝要ナルト同時ニ支那政府トノ間ニモ将来交渉ノ余地ヲ存シ置クコト得策ナルベキヲ以テ今回支那ノ回答ガ仮令其ノ行文ニ於テ非礼ノ廉アリ論旨亦感服シ難キニモセヨ可成交渉打切ノ如キ外觀ヲ避クル方望マシク旁々別電ノ通り措辞シタル次第ナリ尚ホ別電ハ貴官ガ外交總長ニ手交セラレタル翌日ヲ以テ發表シ度ニ付会見ノ日取確定次第予報アリタシ

（別電）

内田外務大臣十月十五日發在中国小幡公使宛電報第五一号  
山東善後措置案ニ關スル中國政府覚書ニ対スル日本政府ノ覆答

第五一一号 別電

### 覚書案

帝国政府ハ山東善後交渉問題ニ關スル本月五日附支那政府覚書ヲ受領シ之ニ対シ慎重ナル考慮ヲ加ヘタリ  
山東問題ヲ迅速ニ解決セントハ帝国政府ノ年来希望シ其努力ヲ咨マサリシ所ニシテ既ニ客年一月対独平和条約ノ効

貴電第六六五号ニ關シ支那政府覚書ニ対スル帝国政府ノ覆答別電第五一一号ノ通今般廟議決定シタルニ付貴官ハ之ヲ

覺書ニ認メ直チニ外交總長ニ手交セラレタシ  
尚ホ左記各項ハ貴官ノ御参考迄申進スル次第ナルモ其内貴官ノ裁量ニ依リ適宜取捨セラレタル上説明ノ資料トセラルハ差支ナク又帝国政府今回ノ覆答ハ追テ公表ノ筈ナル旨ヲモ附言シ置カレ度シ

一、貴電ニ依レバ顏外交總長ハ支那側回答ハ日本提案ヲ拒絶シタル意味ニアラズト述べタル趣ナルモ覺書冒頭「其ノ今日ニ至リ日本ト談判ヲ開始シ能ハザル所以」云々ノ点及日本提案ハ日本ガ直チニ本案ヲ解決スルノ誠意ヲ表示スルニ足ラズトノ一節並ニ末段留保ノ一節ヲ併セ読ムニ於テハ支那政府ハ少クトモ此ノ際我提言ニ応ジ商議ヲ進ムルノ意ナキヲ明カニセルモノト解スルノ外ナシ尤モ貴電第六六九号熊秘書ノ談ニ依レバ支那政府ハ茲姑ク我方ト書面ノ往復ヲ累ネ漸次之ヲ直接交渉ニ導カムトスル意嚮ナリトノコトナルモ如此ハ支那側平素ノ遣口ニ顧ミ果シテ其ノ真意ナルヤ疑ハシキノミナラズ仮令カカル意図アリトスルモ支那政

力發生スルヤ帝国政府ハ直チニ支那政府ニ対シ本件商議ノ速開ヲ促ス所アリタリ然ルニ支那政府ハ數ヶ月ノ後ニ至リ漸ク回答ヲ寄セ対独平和条約ノ不調印及民論ノ反対ヲ理由トシ直接帝国政府トノ間ニ商議ヲ進ムルニ便ナラサル旨弁スルニ過キサリシヲ以テ帝国政府ハ更ニ事理ヲ尽シテ支那政府ノ反省ヲ需ムルト共ニ支那政府カ将来商議開始ニ便ナリト思考スル日ニ於テ何時ニテモ本問題ノ商議ニ応スヘキ事ヲ言明セリ爾來一年有余帝国政府ハ切ニ支那政府及国民ノ冷靜公明ナル自覺ヲ翫望シ隱忍自重以テ好機ノ到来ヲ待テリ  
其ノ間支那政府當局ノ態度ニ変更ヲ來シ屢次ノ機會ニ於テ帝国政府ニ対シ本件ニ關シ談緒ヲ開カソコトヲ需メ殊ニ本年五月小幡公使帰朝前顏外交總長ハ同公使ニ対シ公正妥当ニシテ各国モ公平ト認ムヘキ具体案ノ提出方ヲ切ニ希望スル旨ヲ述ヘ次テ支那政府當路ヨリ本問題ニ關スル支那側解決案ナルモノヲ帝国政府ニ内示シ来タリ其後ニ於テモ帝国政府ト商議ヲ進捗スルノ意向ヲ非公式ニ示シ来レルヲ以テ帝国政府ハ偏ニ其ノ迅速円満ナル解決ヲ冀望シ右支那側解決案ヲ參酌シテ公正寛容ナル妥商条件ヲ決定シ去ル九月七

日ヲ以テ之ヲ支那政府ニ提示シ其ノ切実ナル考慮ヲ需メタリ然ルニ今回ノ覚書ニ於テ支那政府ハ帝国政府ノ期待ニ反シ右帝国政府ノ妥商条件ヲ以テ本問題ヲ解決セント欲スルノ誠意ヲ表示スルニ足ラスト為シ此際商議ヲ進ムルノ意無キコトヲ明カニシタルハ帝国政府ノ認メテ以テ意外トセナルヲ得サル所ナルノミナラス右覚書前段ニ於テ本問題ニ関スル日本ノ宣言ハ多クハ空洞ナリトノ言辞ヲ用ヒタルカ如キハ國際礼讓ヲモ顧ミサルモノニシテ帝国政府ノ頗ル遺憾トシ支那国及其ノ国民ノ為メ深ク惜マサルヲ得サル所ナリ將又帝国政府ノ解決案各項ニ對スル支那政府ノ所論ニ至テハ意義頗ル判明ヲ欠クモノアリト雖モ之ヲ推説スルニ其中帝国政府ノ特ニ支那ノ反省ヲ促ササルヲ得サルモノ甚タ尠カラス例ヘハ膠州灣租借権ハ支那ノ對独宣戰ノ結果消滅シタルモノニテ從テ当然無条件還附ヲ受クヘキモノナリト云フノ一事ニ至リテハ是レ國際法上ノ理論慣例及日支兩國間ノ條約關係ニ徵シ失當ノ言説ナルノミナラス实ニ「ヴエルサイユ」條約ノ効果ヲ破壊セントスルモノナル処本年五月二十日在支独逸代表者ヨリ外交總長ニ宛テタル声明文ニハ独逸カ「ヴエルサイユ」條約ニ依リ独支條約ニ基ク山東ニ

力シテ鉄道營業ノ好成績ヲ挙クルニ存ス元来山東鐵道ハ獨逸時代ニアリテハ全然独逸单独ニテ經營シタルモノナルカ日本ハ幾多ノ人命ト巨額ノ財力トヲ犠牲トナシ独逸ヨリ之ヲ獲取シタルモノナルニ拘ハラス最モ公平ナル基礎ニ於テ之ヲ日支合弁ト為サントスルモノナリ而シテ右日支合弁經營ハ支那ノ對独宣戰ヨリ遙カ以後ニ於テ即チ千九百十八年九月ヲ以テ日支兩國間ニ協定セラレタル所ニシテ今更之ヲ主權侵害ナリト云フカ如キハ帝国政府ノ了解ニ苦シマサルヲ得サル所ナリ且又山東鐵道及鉄山ハ賠償委員會ニ於テ価格ヲ決定シ独逸ノ賠償額ト相殺スル為メ独逸ノ貸方ニ記載セラレタル次第ナルニ支那側カ當然無条件ニテ其半額ヲ收メントスルカ如キハ甚タ謂レナキ主張ト云フヘシ又独逸官有財產ニ關スル帝国政府ノ主張ハ所謂行政的官有財產ハ原則トシテ支那ニ譲渡スルト共ニ其他ノモノト雖モ悉ク日本ニ於テ之ヲ保有セムトスルニハ非斯日支兩國間ニ於テ独リ分方法ヲ協定セントスルモノナルニ對シ支那側ニ於テハ一モ剩サス其手ニ収メントスルカ如キハ甚タ事態ヲ了解セサルモノト謂ハサルヘカラス其他帝国政府ノ提案ヲ以テ中外

ルヲ得サル所ナルノミナラス右覺書前段ニ於テ本問題ニ關スル日本ノ宣言ハ多クハ空洞ナリトノ言辞ヲ用ヒタルカ如キハ國際礼讓ヲモ顧ミサルモノニシテ帝国政府ノ頗ル遺憾トシ支那国及其ノ国民ノ為メ深ク惜マサルヲ得サル所ナリ將又帝国政府ノ解決案各項ニ對スル支那政府ノ所論ニ至テハ意義頗ル判明ヲ欠クモノアリト雖モ之ヲ推説スルニ其中帝国政府ノ特ニ支那ノ反省ヲ促ササルヲ得サルモノ甚タ尠カラス例ヘハ膠州灣租借権ハ支那ノ對独宣戰ノ結果消滅シタルモノニテ從テ当然無条件還附ヲ受クヘキモノナリト云フノ一事ニ至リテハ是レ國際法上ノ理論慣例及日支兩國間ノ條約關係ニ徵シ失當ノ言説ナルノミナラス实ニ「ヴエルサイユ」條約ノ効果ヲ破壊セントスルモノナル処本年五月二十日在支独逸代表者ヨリ外交總長ニ宛テタル声明文ニハ独逸カ「ヴエルサイユ」條約ニ依リ独支條約ニ基ク山東ニ

力シテ鉄道營業ノ好成績ヲ挙クルニ存ス元来山東鐵道ハ獨逸時代ニアリテハ全然独逸单独ニテ經營シタルモノナルカ日本ハ幾多ノ人命ト巨額ノ財力トヲ犠牲トナシ独逸ヨリ之ヲ獲取シタルモノナルニ拘ハラス最モ公平ナル基礎ニ於テ之ヲ日支合弁ト為サントスルモノナリ而シテ右日支合弁經營ハ支那ノ對独宣戰ヨリ遙カ以後ニ於テ即チ千九百十八年九月ヲ以テ日支兩國間ニ協定セラレタル所ニシテ今更之ヲ主權侵害ナリト云フカ如キハ帝国政府ノ了解ニ苦シマサルヲ得サル所ナリ且又山東鐵道及鉄山ハ賠償委員會ニ於テ価格ヲ決定シ独逸ノ賠償額ト相殺スル為メ独逸ノ貸方ニ記載セラレタル次第ナルニ支那側カ當然無条件ニテ其半額ヲ收メントスルカ如キハ甚タ謂レナキ主張ト云フヘシ又独逸官有財產ニ關スル帝国政府ノ主張ハ所謂行政的官有財產ハ原則トシテ支那ニ譲渡スルト共ニ其他ノモノト雖モ悉ク日本ニ於テ之ヲ保有セムトスルニハ非斯日支兩國間ニ於テ独リ分方法ヲ協定セントスルモノナルニ對シ支那側ニ於テハ一モ剩サス其手ニ収メントスルカ如キハ甚タ事態ヲ了解セサルモノト謂ハサルヘカラス其他帝国政府ノ提案ヲ以テ中外

関スル権利利益一切ハ既ニ之ヲ拋棄シ支那ニ還附スルノ能力ヲ喪失シタル旨ヲ宣明シアリ支那政府ハ更ニ之ヲ領承シ居レル次第ニテ「ヴエルサイユ」條約ノ結果ハ支那政府モ既ニ之ヲ承認シ居レルモノナリ  
抑モ支那ノ所謂對独宣戰ナルモノハ膠州灣及其他ノ事項ニ付我帝国ト條約ヲ締結シ日独間ノ権利移転ヲ承認シタルトキヨリ二年有余ヲ経過シタル後聯合國ノ勸告ニ応シテ幾多ノ利益ヲ享ケ始メテ千九百十七年八月ニ至リ之ヲ決行シタルモノニシテ當時支那ハ僅ニ国内ノ独塊両国人ヲ処分シ仏國ニ労働者ヲ送りタルニ遇キサルモノトス支那カ此ノ宣戰ノ一事ヲ以テ租借権自然消滅ノ理由ト為シ既成ノ條約及既往ノ実蹟ヲ藐視スルハ山東問題ノ善後交渉ノ途ニ於テ既ニ根本義ヲ誤ルノ甚タシキモノト認メサルヲ得ス又山東鐵道ニ關シ支那側ノ主張ハ山東鐵道全線ノ管理ヲ完全ニ回収シ一時鐵道価格ノ半額ヲ未回収ノ儘ト為シ置カントスル趣旨ト認メラルル処帝国政府ハ形式ノ如何ニ拘ハラス日本単独ニテ同鐵道ヲ經營セントスルカ如キ意向無キト同時ニ今日其ノ營業ヲ挙ケテ支那側ニ委スルコトハ之ヲ一般支那鐵道ノ現状ニ顧ミ遂ニ贊同スルコトヲ得ス要ハ名実共ニ日支協

条約ノ規定ノ原則ニ悉ク符合セスト主張スルカ如キハ其ノ何ノ意タルカヲ解スルニ苦ム  
乍去支那政府ニシテ靜思熟慮克ク帝国政府提案ノ本旨ヲ了解シ又日支兩國國交ノ為メ更ニ反省スル所アリ再ヒ交渉開始ノ意向ヲ示スニ於テハ帝国政府ニ於テモ又之ニ応シ商議ヲ開始スルニ躊躇セサルヘキコトヲ茲ニ声明ス

註 右内田大臣発小幡公使宛電報第五一〇号及第五一一号ヲ以テ転電 文ハ在米國幣原大使宛第五一九号及第五二〇号ヲ以テ転電  
セラレタリ

七七 十月十六日 内田外務大臣ヨリ

在中国小幡公使宛（電報）

余晉龢携帶ノ中國側山東問題解決案ニ付我方ノ外部ニ對スル説明方針ニ關スル件

第五十四号

往電第五一一号ニ關シ

帝国政府覚書英訳文ハ別ニ電報ス尙公表後覚書中ニ引用シアル余晉龢携帶ノ支那側解決案ニ付テハ進シテ説明ヲナザル所有ナルモ若シ新聞記者等ヨリ質問ニ接シタル際ハ右解決条件ハ九月二十二日ノNorth China Daily News九

1 対独和平条約実施後ノ山東問題ニ關スル件 七八 七九

九〇

月二十四日ノ大阪朝日及同日ノ国民新聞記事等ニ大体似寄  
レルモノナルコトヲ輕ク述く置クニ止ムル考ナリ提案携帶  
者ノ氏名發表モ勿論見合スくシ

七八 十月十九日 内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛（電報）

山東問題ニ關スル日中間往復文書公表ノ件

第五一八号

往電第五一〇号（関）

山東問題ニ關スル支那政府トノ往復文書明二十一日午後四時

公表スベキニ付貴地ニ於テモ同時ニ發表相成度

尚右支那各地ヘ転電方ニ付テハ貴館ヨリ貴地東方支社ニ命

ジ各支社ニ電報セシメラレ度同支社所在地以外ヘハ九月十

六日附報一機密合第一九九号ニ依リ甲乙全部ヘ転電方當方

ニテ取計フヘシ尚公表ノ前文及英文ハ本日中ニ電報スベキ

ニ付英文ハ上海広東漢口ヘ転電シ天津ヘ郵送アリタシ

七八 十月十九日 内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛（電報）

山東問題ニ關スル日中間往復文書公表ノ前文  
及英文訓示ノ件

第五二一號

往電第五一八号（関）

公表ノ前文左ノ通

英訳ハ貴方ニ於テ可然御作製アリタシ我方覚書英訳文別電

第五二二號ノ通

去ル九月七日駐支帝国公使支那外交總長ニ會見シ山東善  
後措置ニ關スル我妥商案ノ綱領ヲ提示シテ支那政府ノ切

実真摯ナル考量ニ懇く重テ本件商議ノ速開ヲ促シタル次

第ハ九月十五日委曲公表セル通ナル處支那政府ハ右ニ對

シ十月五日帝国政府ニ對シ別紙<sup>(註1)</sup>英訳文ノ如キ回答ヲ寄せ來

リタルニ付キ帝國政府ハ駐支帝国公使ヲシテ十月十九日

支那外交總長ニ左記<sup>(註2)</sup>覺書ヲ手交センメタリ

註一 日本ノ山東善後措置案大綱ニ對スル十月五日附中國側回  
答覺書和訳文ヲ省略スベキ付テハ前出七一文書ノ別電參  
看

第五二三號

2 右中國側回答ニ対スル日本政府ノ十月十九日附覆答ヲ省  
略スベキ付テハ左掲別電第五二二號英訳文ハ通

（附 電）

十月十九日内田外務大臣発小幡公使宛電報第五二二號

十月十九日小幡公使ヨリ中國外交總長ニ手交セラヌタル我方覆  
答覺書ノ英訳文

第五二四號

The Japanese Government have submitted to  
their most careful consideration the memorandum  
of the Chinese Government dated Oct. 5th relative  
to the Shantung question.

The Japanese Government, animated as they  
have long been by a keen desire for the speedy  
settlement of this question, have hitherto spared no  
efforts to achieve its realization. In fact, directly  
the treaty of peace with Germany came into force  
in January last year, the Japanese Government in-  
vited the Chinese Government to enter into negoti-  
ations on this subject. No response, however, was  
returned from China for several months. When it  
eventually came, it simply expressed her unread-  
iness to proceed with the direct negotiations with

Japan, on the ground of her non-adherence to the  
treaty of peace with Germany as well as of the  
opposition on the part of the general public to such  
steps. Whereupon the Japanese Government, while  
inviting the Chinese Government to reconsider the  
matter for the reasons then advanced, made known  
their willingness to open negotiations with China  
at any moment whenever considered opportune by  
her. More than twelve months have elapsed since  
then. Throughout that time, the Japanese Govern-  
ment have been patiently waiting for the advent of a  
good opportunity for taking up this question, al-  
ways hoping that the time may arrive when calm and  
fair counsels may prevail among the Government  
and people of China.

In the meantime, the attitude of the authorities  
concerned in China has undergone a considerable  
change. On more than one occasion, they made it  
known to the Japanese Government that they  
were desirous of opening pourparlers with Japan  
on this subject. In particular, on the eve of  
Mr. Obata's departure for Japan in May last, the

別 電 同日内田外務大臣発小幡公使宛電報第五二二號  
十月十九日小幡公使ヨリ中國外交總長ニ手交セ  
ラレタル我方覆答覺書ノ英訳文

附 記 十月二十日内田外務大臣発小幡公使宛電報第五  
二四號  
右英訳文訂正ノ件

Chinese Foreign Minister expressed to him his ardent desire to see a concrete project presented by Japan, couched in just and reasonable terms, such as would simultaneously be deemed fair on all hands. Subsequently the authorities concerned in China confidentially presented to the Japanese Government a certain project in regard to this question, and later they expressed, though unofficially, their readiness to open negotiations with Japan. The Japanese Government, prompted by a desire to reach a satisfactory and speedy settlement of this question, and taking into full account of the Chinese project above referred to, made an overture to the Chinese Government on September 7th last embodying most generous and fair terms, and invited to this the deliberate consideration of that Government.

Contrary, however, to the expectation of the Japanese Government, the Chinese Government, in their memorandum under consideration, expressed their unwillingness to proceed for the time being with the negotiations in question, on the ground that the terms of settlement as proposed by the

of the Versailles treaty. On May 20th last the German representative in China declared in his statement addressed to the Chinese Foreign Minister that by virtue of the Versailles treaty, Germany had renounced all the rights and interests she formerly enjoyed in Shantung under the Sino-German agreements, and that she was no longer capable of restoring them direct to China. This declaration having been duly taken note of by the Chinese Government, they are deemed to be fully cognizant of the effects produced by the Versailles treaty. It will be remembered that the Chinese declaration of war against Germany was made in August 1917 when more than two years had already elapsed since the transfer of the former German rights to Japan had been fully recognized by China in virtue of the Sino-Japanese treaty concerning Kiauchau and other matters, and China made her declaration of war only at the instance of the Allied Powers receiving in return for her action various advantages at their hands. Whereas the Chinese efforts in the war amounted to the deportation of Germans and Austrians from China

Japanese Government fall short of convincing them of the sincerity of Japan in her desire to settle this question. Further they used at the beginning of their memorandum an expression characterising most of the Japanese declarations hitherto made as hollow and devoid of meaning. The Japanese Government keenly regret for the sake of China that such an expression derogatory to principles of international courtesy should have been used by her. Furthermore the contentions put forward by China vis-à-vis the Japanese project are inexplicit and the Japanese Government are unable to readily concur with some of her views embodied therein. For instance the argument advanced by her that the rights formerly enjoyed by Germany in regard to the lease of Kiauchau, having totally expired in consequence of China's declaration of war against Germany, should be restored to China without conditions, is not only one hardly to be warranted by the principles and usages of international law or by the treaties in existence between China and Japan, but may be said to aim at the frustration of the effects

and the despatch of workmen to France. The Chinese contention therefore that the rights of lease expired entirely as a natural consequence of the Chinese declaration of war against Germany may be said to be tantamount to the wholesale abnegation of the treaties in existence as well as of all the established facts. The Japanese Government can not but conclude that China has no respect for the fundamental idea which should govern the negotiations on the Shantung question. As regards the Chinese assertion concerning the Shantung railway, it appears that she intends to place its management under her own complete control and to leave for the time being one half of the whole value of the railway unpaid. Japan, while entertaining no intention whatever of operating the railway exclusively by herself in any shape or form, is unable, in view of the actual railway conditions obtaining in China, to concur in the suggestion that the railway management should be left entirely in the hands of the Chinese Government. In a word, Japan's desire is to operate the railway in the most successful manner by means of

a harmonious cooperation of both countries. It will be recalled that the Shantung railway was operated by Germany alone so long as it remained in her hands and that Japan has taken it over from her at the sacrifice of lives and treasure. In spite of that, Japan intends to work it as a joint enterprise with China under a basis of the utmost impartiality. Further it was in September 1918, a date long after the Chinese declaration of war against Germany, that it was arranged between China and Japan to operate the Shantung railway as their joint enterprise. The Japanese Government are therefore unable to understand the Chinese contention in this respect impugning the Japanese claim as being an act which violates Chinese sovereignty. It is to be observed that the Reparation Commission, after having duly appraised the value of the Shantung railway together with appertaining mines, placed it to the credit account of Germany with a view to setting it off against the indemnity to be paid by that Power. It is therefore inadmissible that China should claim to retain one half of such railway properties in her hands

the interests of cordial relations between China and Japan, shall express its willingness to open negotiations, they will always be found ready to embark upon such negotiations conformably to their policy already laid down in this respect.

(註 記)

十四年十一月廿六日外務大臣堀在中國公使宛電報第廿二回

第五十二回  
往電

英文左ノ通訳出ノ上公表アラタ、

「第廿二回」  
Furthermore the contentions in her views embodied therein are Furthermore the contentions put forward by China vis-à-vis the Japanese project are inexplicit and in particular there are a number of points to which the Japanese Government invite the reconsideration of the Chinese Government. トモ出カ  
「本題平和條約実施後、三東問題の闇ベニ生」  
its in their turn出カ

without conditions. As regards the Japanese proposal relative to the public property of Germany, Japan, while ready in principle to restore the so-called administrative public property to China, has no intention whatever of retaining all the other public property in her hands, her wish being to make, in the interest not only of the people of China and Japan but also of the foreign population in general, a satisfactory arrangement with China looking to an impartial disposition of such property. The Chinese claim to hold it entirely in Chinese hands is one which can hardly be justified in the nature of the case. Moreover the Japanese Government must confess that they are unable to comprehend the Chinese assertion that the Japanese project is entirely at variance with the principles underlying all the treaties between China and Foreign Powers.

The Japanese Government, however, are happy to declare hereby that whenever the Chinese Government, in full appreciation of the main purpose of the Japanese proposal and upon giving more deliberate consideration to the question now at issue in

will conformably to their policy already laid down in this respect. ノ通訳

八〇 十四年十一月廿六日 内田外務大臣ヨリ  
在米國幣原大使宛(電報)

三東問題の闇ベル廿中間往復文書公表方ノ記

ベル廿

英五〇回

往電第五十九回ノ記ノ十月廿六日別電第五三一回乃至五三

(註一) 通公表ヤシニ付貴地ノ於テヤ公表方可然取計ハシ度

ノ

別電ニ共ニ在欧各大使ノ転電ノ在欧各大使及紹興、太々  
ハ、桑港、市俄古各領事ノ十月廿六日公表ノ通記ハ公  
表文電報方取計ハシ度

(註一) 十月廿六日内田大臣堀原大使宛往電第五十九号ノ記ノ  
ナヘ前掲七六文書別電末尾ノ註参照

2 別電第五三一號乃至第五三三號ヲ省略ス右ノ公表ノ英文  
全文ヲ電報シタルヤノナリ

八一 十月廿六日 内田外務大臣ヨリ  
在米國幣原大使宛(電報)

三東問題の闇ベル廿中間往復文書公表方ノ記

ル日本政府ノ覆答覺書英訳文ヲ國務卿二手文  
ン説明スル様訓令ノ件

## 第五三八号

往電第五三〇号ニ関シ

貴官ハ米国國務卿ニ面会ノ機会ニ於テ

往電第五三二号帝國政府覺書訳文ヲ手交シ往電第五一九号<sup>(註1)</sup>

ノ趣旨ヲ含ミ適宜説明ヲ加ヘ置カレタシ

尚支那政府ノ回答ハ往電第四九四号顏外交總長ノ説明ニヨ

レバ大体ニ於テ日本ノ提案ト同様ナリトアルモ元來右支那

側回答ハ特ニ行文ニ留意シ解釈ノ余地ヲ広カラシムル様作

成セラレタルモノト認メラレ解釈次第ニテハ右頤總長ノ説

明モ一概ニ否定シ難キモノアルト同時ニ又甚ダシク相違シ

居レルガ如ク解釈セラルル点モアリ其ノ真意義ヲ捕捉スル

ニ苦シマザルヲ得ザル次第ナリ又支那側回答ニ所謂空洞ノ

宣言<sup>(註2)</sup>ハノ一節ハ英文ニハ單ニ Vague declarations

トアルモ支那文ニ所謂空洞トハ單ニ vague ト異ナリ

hollow トモ英訳スヘキモノニテ不謹慎ナル文字ナリ國務

卿ニ説明ノ際ハ必要ニ応シ附言シ置カレタシ尚又日本ノ措

置案大綱ハ明確ヲ欠ケル点アリトシ恰モ之ニヨリ日本ハ其

往電第五三八号ニ關シ我方覺書中ニ引用セル支那側解決案トハ本年五月余參事斬總理ノ内意ヲ受ケ來朝セル際攜帶シ来リ我方ニ内示セルモノニシテ其ノ内容左記各項ノ通ニ付<sup>(註3)</sup>國務長官ヨリ希望セル場合ハ必要ニ応シ同官限内密ノ合意トシテ之ヲ内示セラレ差支ナシ但シ外部ヘノ發表ハ避ケラレ度シ参考ノ為在欧各大使ヘ転電アリタシ

註 「左記各項」ヲ省略ス右ハ前掲六月三日内田大臣発在中国

吉田臨時代理大使宛電報第二七九号ノ附記ト同文ナリ

八三 十月二十二日 在中國小幡公使<sup>(ヨリ)</sup>内田外務大臣<sup>(ヨリ)</sup>（電報）

山東善後措置案ニ關シ我方ノ覆答ヲ外交總長

一手交渉報告並總長當座ノ所感ヲ反駁ノ件

## 第六八九号

貴電第五一〇号ニ關シテハ既報ノ通り十九日本使外交總長ニ會見貴國回答覺書ハ充分之ヲ熟読シタルモ我提案ト甚シク懸隔不満ノ点渺ナカラザルモ不取敢之ヲ本国政府ニ伝達シ置キタル処今回更ニ電訓ニ接シタル旨ヲ述べ我覺書ノ大要ヲ支那語ニ訳述シタル上之ヲ手交シタル處總長ハ覺書ノ大

ノ名ヲ棄シル共ニ細目ノ協議ニヨリ其ノ実ヲ収メムトスルモノナルガ如キ印象ヲ米國、支那其他各方面ニ与ヘ居レルヤニ認メラルル處右ハ或ハ支那側宣伝ノ結果ニ基クモノナルベキモ只抽象的ニ之ヲ弁明スルノミニテハ其ノ効果甚ダ少カルベキヨリ惟ヒ速ニ已定方針通り公正寛容ヲ本旨トスル細目案ヲ決定スルコト緊要ト認メ且下折角取急ギ審議中ニ付右ニ含ミ置カレタシ

在歐各大使ニ転電シ且在英大使ニ對シテハ英國外務大臣ニ英文覺書ヲ手交シ説明ヲ加ヘ置クヘキ旨申添ヘラレタシ

註 1 十月十五日内田大臣發小幡公使宛電報第五一〇号ノ別電 2 十月八日内田外務大臣發幣原大使宛電報第四九四号ヲ省略セリ右ハ前掲小幡公使十月六日發内田外務大臣宛第六五号ヲ転電セルモノナリ

末尾ノ註参照

八二 十月二十日 内田外務大臣<sup>(ヨリ)</sup>在米國幣原大使宛（電報）

十月十九日小幡公使<sup>(ヨリ)</sup>中國外交總長ニ手交

ノ我方覺書中ニ引用セル中國側解決案ニ付説

示ノ件

## 第五三九号

大要ハ之ヲ了承シタリ何レ更ニ充分熟読ノ上國務會議ニ提出考慮スベキガ只今聽取セル所ニ依リ自分差当リノ所感トシテ二三ノ点ニ付申述度即チ  
「<sup>(1)</sup>本年五月貴使帰朝前本總長ハ公正妥当ニシテ各国モ公平ト認ムベキ具体案ノ提出方ヲ切望セリ云々トアルハ事實ニ相違ナキモ日本ノ提案ハ果シテ公正妥当ニシテ各国モ公平ト認メ居ルヤ否哉ハ問題ナルベク現ニ自分ノ入手セル情報ニ依ルモ各國ノ評論必ズシモ一致シ居ラズ支那側ノ回答ヲ以テ公正妥当トナスモノモ尠ザルガ如シ  
〔2〕支那側回答ニ日本ノ提案ヲ以テ誠意ヲ表示スルニ足ラズト記載シタルハ日本ノ条件ヲ全部誠意ヲ表示スルニ足ラズトノ意味ニテ其一部ノ讓歩ヲ得レバ誠意ヲ表示セラルルコトトナルノ意ナリ又支那側回答ニ用キアル空洞々ノ言辞ハ支那語ニ常用スル空洞々即チ具体的ニ非ズトノ意味ニ他ナラズ別ニ他意アルニ非ザルニ右二点ガ國際礼讓ニ欠クル所アルガ如クニ日本側ニテ解釈セラレタルハ全ク誤解ナルニ付此点ハ篤ト諒察ヲ願ヒ度シ  
〔3〕在支獨逸代表ノ声明文ハ獨逸ハ支獨條約ニ依リ膠州灣租

借地等ハ何時ニテモ自由ニ支那ニ還付シ得ルモノナルモ欧洲戦争ノ結果ニ依リ支那ニ還付スルノ能力無キヲ遺憾トスル旨ヲ述べタル迄ニテ何等条約上又ハ法理上ノ意味アルニ非ズ然ルニ独逸ガ此ノ遺憾ノ意ヲ表示シタルヲ以テ直ニ支那ガ「ヴエルサイユ」条約ノ結果ヲ承認シ居ルモノトセラルルハ全然誤解ナリト述べタリ

仍テ本使ハ〔一〕点ニ付貴総長御詰シノ意味ハ詮ジ詰ムレバ各國ニ於テハ支那ノ回答ハ日本ノ条件ヨリモ公正妥当ト認メ居ルト云ハルニアル如ク思ハル処山東問題ハ日本ガ独逸ト戰闘ノ末幾多ノ犠牲ヲ払ヒ之ヲ占領シタル事実及条約其他ニ依リ種々約束ノ為サレアル關係ヲ無視シテ考フレバ或ハ貴總長ノ云フガ如キ説ヲ為シ得ラルベキモ苟クモ右ノ如キ事實ノ存在ヲ知ルモノハ日本提出条件ノ公正妥当ナルヲ認ムベキコト勿論ニシテ現ニ各国ニ於テ評論セル所ニ鑑ミテモ明ナリ〔二〕付テハ種々弁疏セラルモ日本トシテハ貴国回答文ニ記載アル文字ヲ其字義通リニ解釈スルノ外ナク而シテ斯ノ如キ文句ガ國際礼讓ヲ欠カズトノ説明ハ如何ニ弁疏セラルモ日本政府及國民ヲ満足セシムルニ足ラズ尤モ本使ハ只今斯カル字句如何ヲ此上論議追窮スルハ其本意ニアラズ〔三〕点ニ付テハ貴總長ハ在支独逸代表者ハ支那ニ

還附スルノ能力ヲ喪失シタルコトニ關シ遺憾ヲ表示スルニ重キヲ置キタルモノノ如ク主張セラルモ何故ニ能力ヲ喪失シタルモノナリヤ即チ「ヴエルサイユ」条約ニ依リ其能力ヲ喪失シタル旨ヲ言明シアリ而シテ支那政府ハ更ニ之ヲ了承シ居ル以上「ヴエルサイユ」条約ノ結果ハ支那政府既ニ之ヲ承認シ居ルモノト認ムルコト当然ニシテ遺憾ノ意ヲ表シタルハ外交文書上ノ常用語タル自己ノ能力ノ喪失シタルコトヲ遺憾トスル意味ニテ遺憾ト云フハ至極軽キ意味ニ過ギズト反駁シ置ケリ

八四 十月二十六日 在中国小幡公使ヨリ

山東問題我方覆答覺書発表後ノ中國新聞論調

報告ノ件

第六九六号

(十月二十六日接受)

山東問題ニ關シ我第二次覺書発表後ノ新聞論調等ハ大体東方電情報ノ如ク何等論理的論駁批評ヲ加フルモノナク一意巴里條約不調印ト日支條約ガ脅迫ノ余ニ出ヅルト支那ノ參戰トヲ理由トシ膠州灣無條件還附ノ論拠トシテ直接交渉拒絶論ヲ繰返スニ過ギズ山東鐵道合弁ノ説ニ關シテハ今日支

那鉄道經營ノ不良ハ合弁ノ理由トナラズト枝葉ノ論駁ヲ試ミ要スルニ原則トシテ一般ニ外国人ノ既得権ヲ漠然ト承認スルコトハ八億ノ投資ヲ為シアル日本人ノ既得権ヲ承認スルモノニテ還附ノ名アリテ其美ナキモノナリト云フニ帰スルモノノ如シ然レドモ各方面ノ情報ヲ綜合スルニ支那政府ガ屢次交渉開始ノ意ヲ表示シ条件ヲ内示シタリトノ点並ニ支那政府ガ在支独逸代表ノ空言ヲ其ノ儘看過シタルノ点ハ現政府ノ頗ル苦痛トスル所ニシテ右ニ対シ昨今政府側ヨリハ其ノ新聞通信ヲシテ一齊ニ顔總長ノ本使ニ対スル談話ハ全然個人的資格ニ於テセルモノナルコト記録ノ徵スペキモノアリ(申報ノ掲載ニ依レバ顔總長ハ十月十三日太平洋聯合會代表者ニ対シテモ右様答弁シタル由)且内示条件ハ是レ支那ガ國際聯盟ニ提議ノ為製作シタルモノニテ陸軍部余參事ガ坂西顧問ト示談ノ際内示シタルニ坂西ガ之ヲ持チ去リタルモノナリ若シ之ヲ日本政府ニ報告シ日本政府ガ之ヲ根拠トシタリトセバ奇怪至極ナリトテ或ハ坂西中將ヲ文書窃盜呼ハリセシムル如キ宣伝ヲ為シツツアリ

一面政府反対派及学生連ハ右ノ事実ヲ以テ政府攻撃ノ材料トシ旧交通系ノ機関ト目サル太洋洋ハ連日問責ノ論評ヲ

セバ現存ノモノ如何トノ質問ニ対シ政府ハ支那ニ於ケル勢力範囲ノ主義ハ既ニ國際的協力主義ニ変ジ國際的協力主義ノ将来ハ華府會議討議事項ノ一タル疑無シト答弁セリ

八六 十一月四日 在中國小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

### 山東問題ニ關シ外交部ヨリ第二次回答覺書送

#### 附越ノ件

第七一一号(至急) (十一月四日、五日接受)

山東問題ニ關シ外交部ヨリ十一月三日附ヲ以テ左ノ覺書ヲ送附シ來レリ(原文郵送ス)十月十九日日本政府ノ再度提示セル山東案ノ覺書ニ關シテハ支那政府詳カニ審議シタル處去月五日支那ノ表示シタル意見ニ対シ根本ニ於テ不同ノ点多ク且覺書中文字ノ解釈ニ付キテモ亦誤解アルヲ免レザルヲ以テ支那政府ハ経過ノ事實及始終一致ノ主張ヲ重ネテ声明セザルヲ得ザル次第ナリ

山東問題ハ支那ノ利害ニ關係スルコト極メテ大ナルヲ以テ支那政府ハ速カニ解決ヲ計ルノ誠心ハ实ニ日本ニ比シ更ニ切ナルモノアリ唯日本政府ノ根拠トスル所我人民及政府ノ期望スル所ト甚ダ懸隔アリシヲ以テ静ニ時期ヲ俟チ徐ニ日

本ノ転圜ヲ冀ハザルヲ得ザルシ所ナリ今回覺書内ノ始メニ

本年五月小幡公使帰國ノ時顏外交總長ハ該公使ニ對シ日本政府ハ公正妥当ニシテ又各國モ公平ト認ムル具体案ヲ提出

セムコトヲ希望スル旨ヲ声明セリトノ一節アル処査スルニ小幡公使帰國ノ時嘗テ顏博士ノ山東問題ニ對スル個人ノ意見ヲ叩カレタルニ付顏博士ハ答覆ヲ為シタルモ右回答ハ純個人ノ談話ニシテ外交總長正式ノ声明ニ非ズ又支那政府當

路ハ嘗テ支那政府ノ解決意見ヲ日本政府ニ内示シ及非正式ニ日本政府ト商議ヲ進行セントノ意嚮ヲ表示セリトノ各節ハ或ハ坂西顧問ト余參事トノ私人ノ談話ガ輿論伝述シ誤解ヲ生ジタルモノナラムガ若シ此ノ種私人ノ談話ヲ引用シ提案ヲ參酌スルノ口実トナスハ斟酌ヲ欠クニ似タリ去月五日支那提出ノ覺書ハ原案立論ノ根拠及条件ノ内容ニ付陳述シタルモノニシテ日支兩國意見ノ相違ノ点ニ關シ日本果シテ支那提出ノ覺書ハ原案立論ノ根拠及条件ノ内容ニ付陳述シ能ク了解セバ必ズヤ更ニ切実公正且各方面公平ト認ムル弁法ヲ提出スペカリシニ其讓歩ヲ表示セズ而シテ支那ハ商議ヲ進行スル意ナキヲ明示セリト云フニ至リテハ支那政府ノ深ク惜ム所ナリ

查スルニ「ヴェルサイユ」條約ニ支那代表ノ調印シ能ハザ

ル所以ノモノハ山東問題ノ數條ニ過ギザルノミ支那ガ「ヴェルサイユ」條約ニ調印セザル以上該條約ハ山東問題ニ関シ發生セル効果ニ關シ当然支那ニ承認ヲ強制スル能ハズ故ニ膠州灣ノ租借權ハ日本ハ和平條約ニ依リテ移転セリト認メ支那ハ宣戰ニ依リテ消滅セリト認ム此種觀察ノ相違ニ關シ若シ双方各其是トスル所ヲ取ラバ此案ハ長ク解決ノ期日無シ日本ガ既ニ膠澳ヲ完全ニ支那ニ還付ヲ冀フ以上必ズシモ再ビ此種争点ヲ固持セズ又独逸代表ガ支那ニ声明シタル一節ニ至ツテハ查スルニ独逸代表ノ來リテ通商條約ヲ議シタル時支那ハ尚膠澳還付ノ要求ヲ述べタルニ対シ唯独逸ハ戰爭ノ牽制ニ依リテ條約ノ束縛アル為止ムヲ得ズ其還付能力ヲ喪失セルヲ以テ支那政府ニ対シ歉意ヲ声明シタルニ依リ支那政府モ亦独逸解釈ノ事由ヲ了承セリト述べタルニ過ギザルニ日本ハ支那方和平條約ヲ承認セリト解スルニ至リテハ是実ニ誤解ナリトス

又查スルニ膠濟鉄道ハ支那領土内ニ敷設セラレアリ元会社請負ノ性質ニ係リ且支那ノ資本モ存スルヲ以テ独逸ノ公產ニ非ズ又完全ナル独逸商ノ私產ニモ非ズ暫ク独逸人ニ於テ辦理セリト雖モ支那ハ早ク機ニ乘ジテ回収セント欲シ且鐵

# 一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ関スル件 八七

一〇二

支払フノ要アリ若シ膠濟鉄道ノ財産ヲ以テ賠償金ト相殺スルヲ得トセバ当然先づ第一支那ニ償還スペキモノナルコト事理頗ル明瞭ナリ

又独逸官有財産処分問題ニ就キ日本政府ハ既ニ各項財産ヲ

保有スルノ意志ヲ有セズトセバ自ラ支那ニ引継グコト正当

ノ処置タルベシ各国人民利益ノ為公平ノ処分方法ヲ定ムル

ノ点ハ支那政府モ亦甚ダ希フ所ナリ但日本ノ称スル公平処

分方法ナルモノハ未ダ具体的ニ開示セラレザルヲ以テ支那

政府ハ断ジテ漠然贊否ヲ表示シ難キノミ

之ヲ要スルニ支那政府ノ意見ハ大体既ニ去月五日ノ覚書中ニ見エタルモ茲ニ重ネテ剖辦ヲ行フヲ憚ラザル所以ノモノハ日本両回ノ回答ノ覚書ハ尚支那ノ意ヲ諒解スル能ハズ且鉄道各項ノ主張ニ対シ初回次回ノ覚書ヲ見ルニ更ニ容納シ難キ点アリ之本案ヲ迅速ニ解決セムトノ趣旨ト相逕庭スルニ至ルベキニ依リ日本政府ハ極東永久平和並日支真実親善ノ為ニ將ニ再ビ充分ノ考慮ヲ加ヘラムコトヲ希望ス尚山東境内日本軍ハ早ク日本政府ニ於テ撤退ヲ承諾セラレタル所ナルニ付前回覚書中ニ日ヲ定メテ實行方催促シ置キタルモ日本ハ今ニ至ル迄尚未ダ之ニ着手セズ照辦（此二字

字義曖昧ナルモ前言ニ照ラシ弁理ノ意ナラム）シテ速ニ撤退セラレタン鉄道警備事項ニ就テハ自ラ支那警察其責任ヲ負フベシ

八七 十一月四日

在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

山東問題解決ニ付米國ノ支援望ミ薄トノコト  
ニテ顏外交總長弱氣ト為リ居ル旨ノ情報報告

ノ件

第七二三号

十一月一日 Salzmann 孫寶琦（孫ノ妹ハ顏夫人ニシテ両人共幼少ノ頃ヨリ「ザルツマン」ノ宅ニ出入シ別懇ノ間柄ナリト）ト会談中孫ハ山東問題ニ關シ大要左ノ如ク語リタリト

顏外交總長ハ三週間程前迄ハ支那ガ山東問題ヲ華府會議ニ提出セバ米國政府ハ之ニ対シ後援ヲ与フベキコトヲ確信シ居リ鼻息荒カリシガ約半月程前米國ハ支那ガ本問題ニ關シ徒ニ民論ヲ激昂セシメ無益ノ騒ギ立テヲ為シテ問題ノ紛糾ヲ來スヲ好マズ万一支那ガ之ヲ華府會議ニ提出スルコトアルモ米國ハ支那ノ主張ヲ支援スルコト不明ナレバ寧ロ日本

ト妥協的解決ヲ遂グル方得策ナルベシトノ見解ヲ有スルコトヲ知リタルヤニテ爾来顏モ大ニヘコタレ爾來大ニ弱腰トナリタリト

尚右会談中「ザルツマン」ノ得タル印象ニ依レバ支那側ハ日本ト數次交渉往復ヲ重ネ居ル内何等カノ妥協点ヲ發見シ得ルニ至ルベキコトヲ想像シ居レルガ如シト不取敢

## 書類要目

民国十年十一月三日附外交部覚書

（附属書）

山東問題ニ關スル民国十年十一月三日附外交部覚書写

外交部節略摹字第一〇号

節略

十月十九日日本政府再提示關於山東案之節略經中国政府詳加審核以為對於上月五日中国所表示之意見根本上固多不同而於節略中文字之解釈亦不免有誤會之處中国政府不得不將經過之事実及始終一致之主張再行聲明

山東問題關係中國利害至鉅中国政府急図解決之誠心実較日本為尤切徒以日本政府之所依據与我人民及政府所期望相距過遠故不得不靜待時機徐冀日本之転圜此次節略內首稱本年五月小幡公使回国時顏外交總長對於該公使声明盼望日本政府提出公正妥當而又為各國可認作公平之具体案一節查小幡公使回国時曾叩顏博士對於山東問題個人之意見則顏博士之答復純是個人談話並非外交總長正式之聲明又称中国政府當路曾将中国政府之解决意見內示日本政府及非正式表示与日本政府進行商議之意向各節或因坂西顧問與余參事私人之談

特命全權公使 小幡 酉吉（印）  
在支那

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

山東問題ニ關スル支那政府第二回回答覚書送

付ノ件（関係電報、往電第七二号）

本件ニ關シ左記書類及送付候也

一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ關スル件 八八

一〇三

話題転述而生誤会若將此種私人談話引為參照提案之口実似欠斟酌至上月五日中國提示之節略係就原案立論之根柢及條件之內容開陳中日兩國意見相異之點日本果能諒解必提出更切實公正並為各方所公認為公平之辦法乃並未表示讓步而謂中國為明示無進行商議之意此尤中國政府所深惜者也

查凡爾賽條約中國代表所以不能簽允者不過因山東問題之數條耳中國既未簽凡爾賽條約則該約關於山東問題發生之效果當然不能強中國以承認故膠州灣之租借權日本認為因和約而轉移中國認為由宣戰而消滅此種觀察之歧異若彼此各執其是此案永無解決之期日本政府既願將膠澳完全交還中國即不必再堅持此種爭點至指摘德国代表向中國聲明一節查德国代表來議商約時中國仍申交還膠澳之要求惟德国因戰爭局勢及為條約所束縛不得已失去其交還之能力而向中國政府聲明歉意中國政府亦祇稱已悉德国解約之事由乃日本解為中國承認和約殊屬誤會

又查膠濟鐵路建築在中國領土之内本係公司承辦性質並有中國之資本既非德国之公產亦非完全德商之私產雖暫由德人辦理中國早擬乘機收回且護路警察權完全屬諸中國日本佔據該路毫無軍事上之必要當時中國曾屢次抗議日軍實無佔據該路

趣相逕庭日本政府為遠東永久和平計為中日真寒親善計當再加以充分之考慮焉  
再山東境內日軍早經日本政府允先撤退上次節略中並經催促尅日实行然日本迄今仍未着手照辦自應從速撤退所有鐵路警備事宜自有中國警察負其責任也

外交部

中華民國十年十一月三日

八九 十一月二十四日 開議決定

## 山東問題措置案大綱ニ基ク細目案決定ノ件

附記一 十一月一、三及七日開催ノ關係諸官協議會ノ  
経過並右協議會ニ於テ作成ノ細目案  
二 細目案ニ付スル山梨陸軍大臣ノ意見  
三 細目案ニ付陸軍省側申出ノ修正及外務省側意  
見

華盛頓會議帝国全權委員ニ對スル訓令ニ依レハ曩ニ廟議決定ノ山東問題措置案大綱ニ基キ更ニ公正寛容ヲ本旨トスル細目案ヲ決定シ追テ申進スヘキコトトナリ居り且最近帝国全權委員ヨリ山東問題ニ關スル我公正ノ方針ヲ徹底セシムル為メニハ日本ニ於テ今日迄取り来レル措置ヲ反覆敍說ス

之理由且該路沿線除租借地一段外絕無德国軍隊駐屯日本佔路時並未受何抵抗不能謂因該路而致有犠牲生命錢財之事也及中國加入戰團以後則在中國領土內之鐵路理應由中國自行处分乃日軍久駐不撤致沿線中國商民受無窮之損害此所以中國代表不憚在巴黎和會中再三声明者也上月五日中國節略之主張收回管理權而將該路資產折半均分至日本取得之一半仍由中國分年贖回此種辦法在中國政府視之已極公平不料日本竟指為甚無謂之主張深為遺憾日本政府之意以為該路資產已由賠償委員會決定抵償德国之賠款不知中國既未簽凡爾賽條約則由該約而生之賠償委員會何能處分中國領土內之財產而以抵德国之賠款且中國參戰後德国亦有慮賠中國之款若欲以膠濟鐵路財產抵償賠款亦當儘先償還中國此理固至為明瞭也又處分德国官產問題日本政府既無保有各項財產之心自以交由中國接收為正当之處置至為各國人民利益計而定公平處分方法中國政府亦所甚願但日本未將所稱之公平處分方法具體開示中國政府斷難貿然表示贊否耳

要之中國政府之意見大致已見於上月五日之節略中茲所以不憚重行剖辦者以日本二次節略仍不能諒解中國之意且對於鐵路各項之主張視首次節略更難容納或致與迅速解決本案之旨

ルノミニテハ左程効果ナク更ニ公正妥当ナル細目案ヲ決定シ以テ臨機支那側トノ應酬乃至諸外國側ニ對スル我態度ノ闡明上遺憾ナキヲ期スルコト極メテ緊喫事ナル旨電稟アリ依テ左ノ通り細目案決定ノ上在米帝國全權ニ訓令シ若シ華府會議ニ於テ山東問題ニ付論議ヲ見ルトキハ必要ニ応シ帝國全權ヨリ左ノ細目案ヲ根柢トシ帝國ノ立場ヲ説明スルコトト致度シ

## 官有財産ノ処分

(1) 支那側ニ引渡スヘキモノニ付テハ原則トシテ旧官有財產中支那ニ引渡スヘキモノニ付テハ原則トシテ旧獨逸帝國カ支那政府ヨリ取得シ之ニ施設ヲ加ヘサルモノハ之ヲ無償トシ同帝國カ買收シ又ハ新ニ施設シタルモノ並日本帝國ニ於テ新ニ施設シタルモノハ之ヲ有償トス但シ右評価及引渡手続ニ付テハ日支間ニ協議スルコト尙旧獨逸国有財產ニシテ有償引渡ヲ為スヘキモノト雖モ支那側ノ山東問題解決ニ對スル誠意如何ニヨリテハ有償主義ニ付別途ノ考慮ヲ加フルニ咨ナラス

一、灯台、航路標識、棧橋、護岸

二、消防、検疫ノ設備

## 三、租借地内ニ在ル官衙、公学堂、官舎等

## 四、兵營及砲台等

五、道路、下水、橋梁、公園並森林事業、給水及衛生設備等但シ之等ノ公益施設ニ付テハ支那ニ於テ諸国居留民選出委員ト共力シテ經營スルコト

## (2) 帝国政府ノ保有スヘキモノ

## 一、領事館ニ充ツヘキ土地建物

## 二、裁判所及監獄

## 三、測候所

## (3) 青島日本人会へ引渡スヘキモノ

## 一、日本人学校、神社、忠魂碑

## 二、日本人会ニ必要ナル建物、市場、斎場、日本人墓地火葬場

## 三、商品陳列所

## (4) 内外人ヲ株主トスル新支那会社ヲ設立シテ相当条件ヲ以テ之ニ交付スルモノ

## 一、電灯電話事業

## 二、屠獸場

## 三、官有洗濯所

## 土地ノ処分

一 旧逸官有地ニ付テハ諸国民ニ於テ現ニ之ヲ借受ヶ店舗、工場又ハ住宅ヲ建築シタルモノハ之ヲ該借受人ノ希望ニ依リ貸下又ハ払下クルコト

其ノ他ノ旧逸官有地中旧逸國カ支那ヨリ無償ニテ取得セルモノハ無償ニテ又旧逸國カ買収シ若クハ施設ヲ加ヘタルモノハ有償ニテ支那ニ引渡スコト但シ支那側ノ山東問題解決ニ対スル誠意如何ニヨリテハ有償主義ニ付別途ノ考慮ヲ加フルニ咨ナラス

二 日本側ニ於テ買収シタル土地ニ付テハ諸国民ニ於テ現ニ借受ヶ店舗、工場又ハ住宅ヲ建築シタルモノハ之ヲ該借受人ノ希望ニ依リ貸下又ハ払下ケ又山東鐵道ニ必要ナル用地ハ同鐵道ニ別記ノ条件ニ依リ交付スルコト

三 前二項ノ貸下又払下ノ方法及条件等ニ付テハ日支間ニ協定スルコト  
山東鐵道及鉱山ノ処分

(1) 山東鐵道及鉱山ハ名美共ニ日支均等合辦組織トスヘシ但シ官營民營ノ孰レニ依ルヘキヤハ別ニ支那政府ト協定

## スヘシ

## (2) 出資方法

## (1) 日支両国ハ各々賠償委員会決定ノ賠償額ノ半額ヲ出資セルモノト見做スコト

但シ賠償委員会決定ノ賠償額（鉱山ヲ含ム）ノ半額ハ支那側ノ負担ニ転嫁セラルヘキコト

## (2) 其ノ他ノ出資左ノ如シ

## 一、日本側ノ出資

## (a) 占領後ニ於ケル帝国政府ノ投資額

（支那側ニ於テ日本側単独ノ出資ト為スコトニ強硬ニ反対ノ場合ハ半額ハ支那側ノ出資ト見做スコト）

## 青島港及埠頭ノ処分

## (b) 山東鐵道沿線ニ於ケル兵營

（c）山東鐵道ニ必要ナル土地及建物（埋立地ヲ含ム）

## (d) 病院

## 二、支那側ノ出資

日支均等額ニ達スル迄支那側ノ不足額出資ノ方法ハ別ニ日支両国間ニ協議スルコト

将来資金ヲ要スルトキハ日支折半出資スルコト

一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ關スル件 八九

# 一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ関スル件 八九

一〇八

ニテ之ヲ支那側ニ引渡スコト

(イ) 埠頭ハ支那側ノ出資トシテ山東鉄道ニ提供スルコト

(ロ) 山東鉄道内ニ埠頭事務局ヲ設ケ現在鉄道部ノ管轄タル

埠頭事業及倉庫事業ヲ經營スルコト

## 乙 案

大港小港ニ於ケル埠頭其ノ他ノ設備ハ有償又ハ無償ニテ左ノ条件ニ依リ之ヲ支那政府ニ引渡スコト

(1) 埠頭局ヲ設立シ埠頭事務及倉庫事務ヲ經營スルコト

(2) 右埠頭局經營ニ山東鉄道ノ代表者ヲ参加セシムルコト

又ハ同局ノ經營ニ日本人及外国人共同シテ閔与スルコト

(3) 大港小港及之ニ閔スル設備ノ維持及改善ハ原則トシテ

埠頭料及倉敷料ヲ以テ支弁シ尚不足アルトキハ山東鉄道ヨリ補助スルコト

(4) 埠頭ニ於ケル山東鉄道引込線ニ付テハ埠頭局ニ於テ閔与セサルコト但シ両者經營ノ聯絡ヲ圖ル為メ特別ノ協定ヲ為スコト

(5) 山東鉄道ニ必要ナル倉庫ハ同鉄道ニ交付スルコト

## 青島税関ニ關スル処置

青島税関ハ他ノ税関同様トスルコト但シ日英支三国語ヲ通

## 青島税関ニ關スル処置

者左ノ如シ

外務省 広田書記官

沢田 //

栗野 //

矢野 //

陸軍省 林 大佐

參謀本部 児玉中佐

清水中佐

佐藤中佐

青島民政部 早川事務官

参謀本部

秋山民政長官

(外務省)

(附記一) 十一日三日及七日開催ノ関係諸官協議会ノ經過並右協議会

ニ於テ作成ノ山東問題解決ノ細目案

他日山東問題交渉開始ノ際ニ於ケル細目案ヲ協議シ兼而華盛頓會議ニ於テ山東問題上議セラル際ノ準備ノ為メ本省陸軍省參謀本部青島民政部等ニ於ケル関係者会合シテ協議会ヲ催スコト為リ

大正十年十一月一日外務省ニ於テ第一回会合ヲ催シ芳沢亞細亞局長ヨリ本会開催ノ所以ヲ説明シタル後左記ノ諸官ニ

於テ陸軍省案(別紙甲号)ヲモ参照シテ調成セル外務省案(別紙乙号)ヲ原案トシテ討議ヲ開始セリ協議ニ参加セル

関語トスルカ若クハ現ニ該税関ニ使用シ居ル日本人ヲ一定引渡ニ方リ内外人通信ノ便宜ノ為メ適當ノ弁法ヲ日支間ニ協定スルコト但シ青島ニ於ケル郵便局ハ現状通リトスルコト

(1) 濰縣濟南等ニ於ケル郵便局ハ支那ニ引渡スコト但シ右引渡ニ方リ内外人通信ノ便宜ノ為メ適當ノ弁法ヲ日支間期間変更セサル程度ノ要求ヲ為スコト

## 通信ニ關スル措置

(1) 濰縣濟南等ニ於ケル郵便局ハ支那ニ引渡スコト但シ右引渡ニ方リ内外人通信ノ便宜ノ為メ適當ノ弁法ヲ日支間ニ協定スルコト但シ青島ニ於ケル郵便局ハ現状通リトスルコト

濟南ニ於ケル無線電信ハ適當条件ノ下ニ支那ニ引渡スコト但シ青島ニ於ケル無線電信ハ日本ニ保有スルコト

(2) 青島上海及青島芝罘間ノ海底電線ニ閔スル権利ハ左ノ条件ノ下ニ之ヲ放棄ス

(1) 将來成ルヘク速カニ支那政府ニ於テ青島上海線ヲ敷設スルコト

(2) 青島佐世保線ハ現状ヲ維持スルコト但シ右ニ付テハ北大東会社ト別ニ協定ヲ遂クヘシ

(3) 電信ニ閔シテハ大正六年郵便電信事務處理ニ閔スル弁法及大正七年日支通信連絡ニ閔スル細項取極中制度改正ニ伴ヒ改廢ヲ行フコト

## 膠州湾塩業ニ關スル措置

右第二讀会ニ於ケル討議ノ結果作成セルモノ即チ本会ノ決議案(別紙丁号)ニシテ右ハ関係者ヨリ夫々上司ニ提出スルコトト為セリ

(別紙) 註 別紙甲乙丙各号省略

別紙丁号 極秘

大正十年十一月七日関係諸官協議会ニ於テ作成ノ山東問題解決ノ細目案

### 第一 租借地ノ還附及其ノ開放

- (1) 膜州灣租借地並中立地帶ニ関スル権利ハ之ヲ支那ニ還附ス
- (2) 支那政府ハ租借地全部ヲ商港トシテ開放シ諸国民ノ居住及一切合法的職業ノ自由ヲ認ムルコト
- (3) 支那政府ハ諸国民ノ適法ニ得タル既得権ヲ尊重スルコト

### 第二 都市ノ開放

- (1) 外国人ノ居住貿易ノ為左ノ土地ヲ開放スヘシ  
スル一切ノ規則及開放地ノ収支予算並決算ハ該會議體ノ同意ヲ以テ施行スルコト
- (2) 博山、張店、高密、坊子、青州、淄川、金嶺鎮、濰口、日照県、沂州、臨溝、東昌、德州、泰安、章邱、黃台(茲ニ掲ケタル土地ニ付テハ更ニ研究ヲ要ス)

### 第三 實行スルコト

- (1) 瀋縣、周村、濟寧ハ支那政府宣言ノ通り速ニ開放ヲ實行スルコト
- (2) (支那側ヨリ市政厅設立ノ提議アリタルトキハ左ノ案  
ヲ以テ(5)ニ代フルコト)
- (3) (開放地居留民ノ為メ支那人ト外国人トノ別ナク一定

旧獨逸帝國ヨリ繼承シタルモノハ之ヲ無償トシ帝國ニ於テ新ニ施設シタルモノハ之ヲ有償トス

但シ右評価ニ付テハ日支間ニ委員ヲ設ケ公平ニ査定スルコト

一、燈台、航路標識及附屬建物

二、消防、檢疫、及衛生ニ関スル設備

但シ帝國領事館警察ノ為メ必要ナルモノヲ除ク

三、給水設備

四、租借地内ニ在ル官衙、公學堂、官舍及其ノ所屬建物並其ノ他ノ官有建物(別ニ記載アルモノヲ除ク)

五、大港小港及之ニ關スル設備  
但シ別ニ掲タル条件ニ依ル

六、道路、下水、溝渠、橋梁、公園、棧橋及護岸(大港及小港ニ属スルモノヲ除ク)並森林事業

七、兵營及其ノ敷地、練兵場並射擊場  
特ニ無償ニテ引渡ス

但シ万年兵當其ノ他學校用トシテ必要ナル土地及建物ハ将来設置セラルヘキ青島大學ニ無償使用ヲ許シ

一 対独平和條約実施後ノ山東問題ニ關スル件 八九

(二記註外欄) (3) 又旭練兵場ハ将来モ國際遊戯場ニ充ツルモノトス  
八、旧堡壘、砲台  
特ニ無償ニテ引渡ス但シ公園ト為スヲ条件トス

(1) 日本側ノ出資トスルモノ  
一、鐵道沿線ニ於ケル兵營(陸軍官舎ヲ含ム)  
(濟南ニ於ケル兵營ヲ除ク)

(2) 山東鐵道ニ引渡スヘキモノ  
ナルモノ  
(濟南及青島ニ於ケル各病院ヲ除ク)

(一記註外欄) (3) 三、帝國政府ノ買收シタル土地家屋中山東鐵道ニ必要  
同大學ニ引渡スモノトス  
一、農事試驗所  
二、化學研究所  
三、裁判所及監獄

一、領事館ニ充ツヘキ土地建物  
二、裁判所及監獄

# 一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ関スル件 八九

一一二

但シ将来青島大學設立ノ場合ニハ其ノ希望ニ依リ無  
条件ヲ以テ之ニ引渡スコト

(4) 青島日本人会へ引渡スヘキモノ

一、日本人教育ヲ目的トスル学校、神社、忠魂碑

二、日本人会ニ必要ナル建物、市場、斎場、日本人墓

地火葬場

## 三、商品陳列所

日本人商業會議所設立ノ場合ニハ其ノ希望ニ依リ之

ヲ同會議所ニ引渡スコト

新ニ会社ヲ設立シテ相当条件ヲ以テ之ニ交付スルモ

ノ（一、二、及三、ハ夫々別箇ノ会社トス）

一、電燈電話事業

（第九ノ甲案採用ノ場合ハ電話事業ハ之ヲ引離シテ

日本郵便局ニテ兼當セシムルコト）

二、屠獸場

右会社ハ支那法ニ依リ設立シ其ノ株ハ内外人ヨリ公

募シ役員ハ株主總会ニテ擇出スルコト

（但シ自治團體設立ノ場合ニハ相当条件ヲ以テ右自

治体ニ交付スルコト）

## 三、官有洗濯所 (6) 土地ノ処分 (甲) 案

一 旧獨逸官有地ニ就テハ現ニ之ヲ借受ケ店舗、工場

又ハ住宅ヲ建築シタルモノハ之ヲ其ノ希望ニ依リ払

下ケ其他ノモノハ無償ニテ支那ニ引渡スコト

二 別項記載ノ官衙、宿舎以外旧獨逸官有建物ハ無償

ニテ支那ニ引渡スコト

三 帝国ニ於テ買収シタル土地ハ払下ノ希望アルモノ

ニ払下ケ其他ノモノハ有償ニテ支那ニ引渡スコト

但四方滄口ノ買収地ニ就テハ借受人ニ於テ店舗、工

場又ハ住宅ヲ建築シタルモノハ之ニ払下ケ其他ハ大

港埋立地ト共ニ山東鐵道ニ附屬セシム

四 帝国ニ於テ買収シタル家屋ハ払下ノ希望アルモノ

ニ払下ケ其他ノモノハ有償ニテ支那ニ引渡スコト

## (乙) 案

一 旧獨逸官有地ニ付テハ諸国民ニ於テ現ニ之ヲ借受

ケ店舗、工場又ハ住宅ヲ建築シタルモノハ之ヲ該借

受人ノ希望ニ依リ貸下又ハ払下クルコト

其ノ他ノ旧獨逸官有地ハ無償ニテ支那ニ引渡スコト

二 日本側ニ於テ買収シタル土地ニ付テハ諸国民ニ於  
テ現ニ借受ケ店舗、工場又ハ住宅ヲ建築シタルモノ

ハ之ヲ該借受人ノ希望ニ依リ貸下又ハ払下ケ又山東鐵  
道ニ必要ナル用地ハ同鐵道ニ別記ノ条件ニ依リ交付

スルコト

其ノ他ノ買収地ハ有償ニテ支那側ニ之ヲ引渡スコト

三 前二項ノ貸下又ハ払下ノ条件ニ付テハ別ニ日支兩

ルコト

(丙) 案

(1) 旧獨逸官有地（別ニ記載スルモノヲ除ク）

無償ニテ引渡ス

但シ諸國居留民ニ於テ現ニ借受ケ居ル土地ハ之ヲ該  
借受人ノ希望ニ依リ支那側ニ於テ貸下又ハ払下クル

コト

(2) 帝国側ニ於テ買収シタル土地（山東鐵道用トシテ  
必要ナルモノヲ除ク）

有償ニテ引渡ス

但シ現ニ諸國居留民ニ於テ借受ケ居レル土地ハ該借

受人ノ希望ニ依リ支那側ニ於テ貸下又ハ払下クル

コト

## 第四 (7) 通信機関ノ処分ハ後ニ掲ク

山東鐵道及鉱山ノ処分

(1) 山東鐵道敷設権ハ支那ニ還附スルコト

国間ニ協定スルコト

(2) 鐵道（鉱山ヲ含ム）事業ニ對シテハ日支兩國ヨリ均  
等出資ヲ主義トスルコト

(4) 日支兩國ハ各々賠償委員会決定ノ賠償額ノ半額ヲ

出資セルモノト見做スコト

但シ賠償委員会決定ノ賠償額（鉱山ヲ含ム）ノ半額  
ハ支那側ノ負担ニ転嫁セラルヘキコト

其ノ他ノ出資左ノ如シ

(2) 日本側ノ出資

(a) 占領後ニ於ケル帝国政府ノ投資額

（支那側ニ於テ日本側单独ノ出資ト為スコトニ

強硬ニ反対ノ場合ハ半額ハ支那側ノ出資ト見做

一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ關スル件 八九

一一三

(スコト)

- (三記註外欄)
- (d) 病院（濟南及青島ノ各病院ヲ除ク）  
 (b) 山東鐵道沿線ニ於ケル兵營（陸軍官舎ヲ含ム）  
 (c) 山東鐵道ニ於ケル兵營ヲ除ク  
 (e) 山東鐵道ニ必要ナル土地及建物（埋立地ヲ含ム）

## 二、支那側ノ出資

- (a) 山東鐵道復線用敷地  
 (b) 山東鐵道拡張用敷地  
 (c) 新タル鉱山

## (3) 将來資金ヲ要スルトキハ日支折半出資スルコト

(会議ノ情勢ニ依リ必要又ハ有利ト認ムルトキハ本件

ニ關シ若シ外債ヲ募集スルトキハ新借款團ニ求ムルコトヲ声明シ得ルコト)

## (4) 五十年ヲ経過シタルトキハ支那政府ニ於テ日支間ニ協定セル価格ヲ以テ日本側持分ヲ買収シ得ルコト

## (5) 支那ニ於ケル一般鐵道ノ例ニ做ヒ山東鐵道局ヲ置キ

局長ハ支那人トシ右鐵道局ノ會計當業鉱山ノ各部ノ主任ニ又技術庶務埠頭（埠頭ハ第六ノ甲案採用ノ場合ニ限ル）等ノ諸部副主任ニ日本人ヲ傭聘スルコト又右傭

## 海港ノ例ニヨルコト

## (二) (甲案)

大港小港ニ於ケル設備ハ左ノ条件ニ依リ無償ニテ之ヲ支那側ニ引渡スコト

## (1) 埠頭ハ支那側ノ出資トシテ山東鐵道ニ提供スルコト

## (2) 山東鐵道内ニ埠頭事務局ヲ設ケ現在鐵道部ノ管轄タル埠頭事業及倉庫事業ヲ經營スルコト

## (二) (乙案)

大港小港及之ニ關スル埠頭其ノ他ノ設備ハ有償又ハ無償ニテ左ノ条件ニ依リ之ヲ支那政府ニ交付スルコト

## (1) 埠頭局ヲ設立シ大港及小港ヲ管理シ埠頭事務及倉庫事務ヲ經營スルコト

## (2) 右埠頭局經營ニ山東鐵道ノ代表者ヲ参加セシムルコト又ハ同局ノ經營ニ日本人及外國人共同シテ閑与スルコト

## (3) 大港小港及之ニ關スル設備ノ維持及改善ハ原則トシテ埠頭料及倉敷料ヲ以テ支弁シ尚不足アルトキハノ猶予ヲ与フルコト

## 山東鐵道ヨリ補助スルコト

## 一対獨平和條約実施後ノ山東問題ニ關スル件 八九

聘条件ハ日支間ニ協定スルコト尚一般從業員ハ成ルヘ

ク支那人ヲ用フルコト 別ニ日支合辦ノ獨立会社ヲ設立スルコト

## (6) 山東鐵道ノ附帶事業左ノ如シ

## 一、鉱山業

## (1) 將來時期ヲ見テ鉱山事業ハ鐵道事業ヨリ引離シ

別ニ日支合辦ノ獨立会社ヲ設立スルコト

## (2) 金嶺鎮ノ鉄鉱、坊子及靈川ノ石炭ハ相當ノ条件ヲ以テ日本側ニ於テ購買シ得ルコト

## 二、病院

## 三、化学研究所

## 四、農事試驗所

## 五、埠頭業

## 但シ第六ノ甲案採用セラルルトキニ限ル

## (7) 山東鐵道ト濟南延長線、高徐線並煙濰鐵道トノ聯絡ヲ完全ニスルコト

## 第五 山東鐵道延長線、高徐線並煙濰鐵道等ニ對スル優先權ハ對支新借款團ノ共同事業ニ提供スヘシ

## 第六 青島港及埠頭ノ処分

## (1) 青島港ニ於ケル港務、檢疫及航路標識等ハ支那一般

## (2) 埠頭ニ於ケル山東鐵道引込線ニ付テハ埠頭局ニ於テ閑与セサルコト但シ両者經營ノ聯絡ヲ因ル為メ特別ノ協定ヲ為スコト

## (5) 山東鐵道ニ必要ナル倉庫ハ同鐵道ニ交付スルコト

## 第七 膜州租借條約ニ基ク人、資本、及材料供給ニ關スル一般優先權ハ之ヲ放棄ス

## 第八 青島稅關ニ關スル処置

## (1) (甲案)

青島稅關ハ他ノ稅關同様トスルコト但シ現ニ該稅關ニ使用シ居ル日本人ハ一定期間変更セサルコトヲ通関語トナスコト

## (2) 自由地域ノ制度ハ支那稅關一般ノ問題トシテ政究スルコト若シ撤廢ノ場合ハ現ニ日本人ニ於テ同地域内ニ於テ事業ニ從事シ居ルモノアラハ其ノ保護上一定期間ノ猶予ヲ与フルコト

## 第九 通信ニ關スル措置

## (甲案)

一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ関スル件 八九

一一六

(1) 青島ニ於ケル現在日本郵便局及濟南並濰県ニ於ケル

日本郵便局ハ交換局トシテ之ヲ存置セシムルコト（場合ニ依リテハ濟南及濰県郵便局ハ交換局トセストモ可ナルコト）

(2) 電信ニ閥シテハ大正六年郵便電信事務処理ニ閑スル弁法及大正七年日支通信連絡ニ閑スル細項取極中制度

改正ニ伴ヒ変更スヘキ部分ヲ除キ其他ヲ支那側ニ承認セシムルコト

(3) 濟南ニ於ケル無線電信所ハ公衆ノ為メニ開放シ日本語電報ヲモ取扱ヒ日本技師ヲ聘用シ且日本無線局ト交

信スルコトヲ条件トシテ無償ニテ支那側ニ引渡スコト獨逸ヨリ讓渡ヲ受ケタル青島—上海及青島—芝罘間

(4) 海底電線ハ帝国政府之ヲ保有シ其陸揚及支那国通信系統並國際通信系統トノ連絡其他獨逸國ノ有セシ権利ヲ繼承スルコトニ就キ大北電信会社其他關係電信会社及支那国政府ト交渉ヲ遂クルコト

(但シ止ムヲ得サレハ青島芝罘間ハ之ヲ放棄シ青島上海間ハ之ヲ帝国ニ於テ布設ノ上利用ノ為適當ノ条件ヲ付シ且(5)ノ交換条件トシテ支那側ニ引渡スコト

トスヘシ

(5) 戰時中帝国ニ於テ敷設シタル青島—佐世保間ノ海底電信ニ閑シテモ前記同様ノ交渉ヲ遂クルコト

(6) 青島ニ於ケル無線電信ハ青島日本郵便局ニ於テ兼營スルコトヲ承認セシム

(乙案)

(1) 濟南並濰県ニ於ケル郵便局ハ有償又ハ無償ニテ之ヲ支那ニ引渡ス但シ各局ニ日本人ヲ傭聘シ其ノ運用ヲ援助セシムルコト青島ニ於ケル日本郵便局ハ之ヲ支那トノ交換局トシテ其ノ儘存置ス

(2) 電信ニ閑シテハ大正六年郵便電信事務処理ニ閑スル弁法及大正七年日支通信連絡ニ閑スル細項取極中制度改正ニ伴ヒ改廢ヲ行フコト

(3) 濟南ニ於ケル無線電信所ハ之ヲ支那ニ交付ス但シ公衆ノ為メニ之ヲ開放シ日本語電報ヲモ取扱ヒ日本技師ヲ聘用シ且日本無線局ト交信スルコト

(4) 青島上海及青島芝罘間ノ海底電線ニ閑スル権利ハ支那政府ニ還附ス  
但シ佐世保青島海底電信線ノ交換条件トスルコト

- (5) 右佐世保青島間ノ海底電信線ハ長崎上海線ニ準シ青島ニ於ケル日本郵便局ニ右海底電信ノ一端ヲ引込ムコト  
(6) 青島ニ於ケル無線電信ハ右郵便局ニ兼營セシムルコト

第十 膜州湾塩業ニ閑スル措置

- (1) 膜州湾沿岸ニ於テ既ニ日本人及外国人ノ經營スル製塩業ハ引続キ之ニ從事スルヲ得ルコト  
(2) 膜州湾産塩ノ外國輸出ヲ認ムルコト  
(3) 日本人及外國人ノ製塩及其ノ輸出ニ對スル負担ニ付テハ別ニ協定スルコト  
(4) 膜州湾産塩ヲ支那内地ニ販送スル場合ニハ支那ニ於ケル一般産塩ト同様ノ取扱ヲ為スコト

(欄外註記)

- 一 「括弧内ハ十一月十二日秋山長官來談ノ結果挿入セリ」  
二 「但シヨリ引渡スコト迄ノ間十一月十二日秋山長官來談ニ依リ削除」

三 「十一月十二日秋山長官來談ニ依リ(b)ニ付テハ（濟南ニ於ケル兵營ヲ除ク）ヲ挿入シ（濟南ニ於ケル兵營ハ東文学校ニ交付スルコト）トン(d)ニ付テハ（濟南及青島ノ各病院ヲ

除ク）ヲ挿入シ（濟南及青島ノ各病院ハ別ニ日本ニ於テ經營ノ方法ヲ講ズルコト）」トセラレタリ  
(附記二)  
十一月十五日陸軍省児玉中佐ヨリ小官へ左ノ通電話アリタ  
リ  
先般來外務陸軍兩省委員ニ於テ協議ノ結果起草セル山東問題措置案細目陸軍大臣ノ查閱ヲ經タルガ陸軍大臣ハ大体ニ於テ異存ナキモ左ノ二点ニ付意見ヲ述ヘラレタリ

一、本案ニ依レバ山東鐵道ハ純然タル合辦ノ形式ヲ有セズ寧口借款鐵道ノ變形ナルヤニ認メラル処、同鐵道ニ付テハ帝国政府ハ巴里平和會議以来名實共ニ之ヲ日支合辦トスベキコトヲ声明シ來リタル行懸アリ今ニ至テ此ノ立場ヲ棄ツル必要アリトモ認メザルヲ以テ矢張普通ノ合辦組織ヲ以テ進ムコトトシ度  
二、本案ニ依レハ獨逸ヨリ繼承セル土地ハ一部ヲ除キ凡テ全部無償ニテ支那ニ交付スルコトトナリ居リ土地ハ当然支那ニ還附スペキモノナリトノ主義ニ立脚シ居ルヤニ

認ムル処、此ノ内ニハ独逸ガ買収セル土地モアルベク又日本トシテモ之ヲ獲ルニハ国民ノ血ヲ流シタル次第ニシテ当然還附スベキモノトハ思料セズ但シ事実支那ニ交付スルコトハ異存ナキモ趣旨ハ当然還附スヘキモノニアラザルモ特ニ日支国交ノ親善ヲ顧念シ好意的行為トシテ之ヲ交付スルモノナリトノ意味ニ改ムルコトシ度シ小官ハ右ニ対シ右陸軍大臣ノ意見ニ付テ上司ニ報告シ尙篤ト研究シ置クベキ旨回答シ置ケリ

## (附記三)

山東問題解決ノ細目案ニ付陸軍省側ヨリ申出デタル修正及外務省側意見

## (一)陸軍省側秋山民政長官申出ノ修正

栗野  
記  
重光

十一月十六日秋山長官來訪

陸軍大臣ノ意見ナリトテ山東交渉細目ニ付修正ヲ要求セリ第一 独逸ノ国有財産中独逸ガ支那政府ヨリ無償ニテ取得シ何等施設ヲナサザル財産ニ付テハ無償還附ヲ承諾スルモ独逸ガ有償ニテ支那人ヨリ買収シ又ハ施設ヲ施シタル

支那側持分トシテ新鉱山ヲ持出サシムルコトヲ得ルノ便アリ

三、排日支那人中現ニ合辦ヲ希望スルモノ多シ  
右長官ノ説明ニ對シ

本官等ハ各方面ヨリ弁駁又ハ説明ヲ加ヘ特ニ右理由ノ二及三ニハ首肯シ難キ旨ヲ述ヘ本件ハ要スルニ日本ノ対支一般政策並对外政策ノ全般ヨリ見テ今日合辦トシテ提案スルヤ又ハ借款鉄道ノ類型トスヘキヤヲ決スヘキモノニシテ最高政策ニ繫ルモノナルニ付政府当局ノ決スヘキコトナリ兎モ角長官申出ハ上局ニ取次グベキ旨ヲ約セリ  
註 別紙ヲ省略ス

(二)右陸軍省側修正案ニ閲スル外務省側(重光外務書記官及栗野大使館二等書記官)意見(十一月十七日)  
十一月十六日秋山民政長官申出修正案ニ付テ  
第一 旧独逸官有財産(土地ヲ含ム)中旧独逸官憲カ買収シ又ハ新ニ施設シタルモノハ支那ニ引渡スニ方リ有償トスルヲ原則トスルコト

(イ)右ハ秋山民政長官ノ説明ニ依レハ日本カ血ト財トヲ投シテ得タル事実ヲ以テ其論拠トナスガ如キモ如斯事

一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ閲スル件 八九

財産ニ付テハ原則トシテ有償還附スベシトノ立前ニテ引キ渡スベシ如何トナレハ独逸ガ支那ヨリ無償ニテ取得シタルモノニ非ズシテ独逸自身カ有償ニテ取得シタル財産又ハ施設ニ付テハ日本ガ巨額ノ財産ト人命ト犠牲ニシテ占領シタルモノナレハ無償ニテ還附スベキモノニ非ス之ニ対シ本官等ハ国有財産ヲ有償ニテ返還スルハ從来其例ナキノミナラズ我還附ノ精神ニ反シ又宣伝上支那ノ乗ズル所トナリ我對外一般政策上ニモ面白カラズ各方面ヨリ反駁セシモ秋山長官ハ兎ニ角陸軍側ノ意見トシテ上局ニ提出アリ度旨ヲ述ベラレタリ(註)

陸軍側修正案ハ別紙記入ノ通りナリ  
第二 山東鉄道ニ付テハ秋山長官ハ自己ノ意見ヲ陸軍大臣ニ於テ承認セラレタルモノナリトテ山東合辦ヲ飽迄主張セリ

其理由

一、山東合辦ハ從来長ク我主張スル所ニシテ今更其態度ヲ変更スルハ不可ナルヘク  
二、鉱山事業ハ合辦ナルニ付之ヲ完全ニ經營スル上ヨリ云フモ山東鉄道ヲ合辦トスル方有利ニテ又合辦トセハ

由ハ時代遅レノ功利的論法ニシテ世人ノ首肯ヲ得難ク

問題トナラズ

(ア)「ヴエルサイユ」条約ニ於テ之等旧独逸官有財産ハ無償無条件ニテ日本ニ譲渡セラルヘキコトヲ規定シ今之ヲ支那ニ有償ニテ交付セムトスルハ事理ニ悖ルモノナリ

(イ)斯ル条件ヲ附スルトキハ結局日本ハ之等財産ヲ支那ニ還附スル誠意ナキモノナルカ如キ印象ヲ世界ニ与ヘ支那側ノ宣伝ニ乘セラル虞アリ

(ア)陸軍側ニ於テモ必ズシモ金錢ヲ得ル目的ニアラズシテ場合ニヨリテハ支那側ヨリ山東ニ於ケル損害賠償申出アルニ対シ相殺スルコトニモ利用シ得ル次第ニテ該局対支交渉ノ懸引トモナルモノナリトノ意見ニ過ギズ此辺ノ懸引ハ外務省ニ一任シテ可ナリ

(イ)以上ノ次第ニテ本修正案ノ如キハ有害無益ニ付始メヨリ無償主義ニテ進ムコト大局上有利ナリトス

第二 山東鉄道ハ日支合辦トスルコト

陸軍側主張ノ理由トスル処ハ

(イ)鉱山ハ適当ノ時機ニ於テ引離シ別ノ合辦事業トスル

コト緊要ニシテ之力為メニハ始メヨリ鉄道ヲ合辦トナ

シ置クコト我主張ヲ貫徹スル上ヨリ見テ得策ナリ裏ニ

本省案ノ如ク支那ノ鉄道トスル案ニテハ以上ノ目的ヲ

達スルコト困難ナルコト

(ロ) 将來鉱山ニ付テハ章邱(獨逸ノ有シタルモノニアラ

ズ) 炭田ノ如キ新ナル鉱山ヲ支那側ヨリ提供セシムル

コト肝要ナリ之カ為メニハ山東鉄道ニ対スル支那側ノ

出資ヲ日本側ト均等ナラシムル為メ特ニ金銭上ノ出資

ヲ為サズトモ新鉱山ヲ提供セシムルコトセバ彼我共

ニ好都合ナリ鉄道ヲ合辦トセハ右ノ如キ便宜ヲ受クル

コト

(ハ) 山東鐵道巡警ノ警察權ハ停車場構内ニ及フヤ否ヤ又

列車内ニモ及フヤ否ヤ等種々複雜セル關係アリ合辦鐵

道ナラハ日本側ニ於テモ種々發言ノ根拠アル次第ナル

モ若シ支那ノ鉄道トナラハ彼是注文ケ間敷事ヲ申出ツ

ル事由ナキコトナルコト

(二) 山東鐵道合辦ハ巴里講和會議以來帝国已定方針ニシ

テ今之ヲ変更スルコト大局上考慮ヲ要スルコト

ト云フニ在リ

針ナリ之ヲ変更スルハ大局上考慮ヲ要スト云フハ一応尤モナルガ

(一) 米国國務卿ハ山東鐵道合辦案ニ対シテ甚々難色アリ殊ニ米国上院カ山東問題ニ対シ故障アルハ主

トシテ山東鐵道合辦案ニ在リトノ趣ニシテ其ノ他「ロンドン、タイムズ」ノ論調ヲ始メ世界一般ニ

亘ル輿論ノ大勢ハ山東鐵道合辦ニ不利ナリ

(二) 今回華府會議ニ於テ支那ノ鉄道共同管理案ノ上程ヲ見ルナキヲ保セヌ殊ニ東支鐵道ノ共同管理案ハ必ス上議ヲ見ルコトト推セラルル処共同管理案ト云フモ合辦ト云フモ結局外國ノ參加數カ一ナリ

ヤ數箇ナリヤノ區別ニシテ支那鐵道ノ管理ニ外國カ介入スルノ点ニ於テハ即チ一ナリ日本カ山東鐵道ノ日支合辦ヲ強硬ニ主張スルト同時ニ支那鐵道就中東支鐵道ノ共同管理ノ不当ナルコトヲ固執スルハ聊カ論旨ニ於テ矛盾ヲ来ス虞アリ

(三) 山東鐵道ハ日支兩國間ニ明白ナル條約アリ且ツ「ヴエルサイユ」條約ニ於テ各國ノ了解ヲ得タル所ニ付東支鐵道等トハ事態ヲ異ニストノ議論ナキ

一 対独平和条約実施後ノ山東問題ニ関スル件 八九

(イ) 右ニ付テハ鉱山ノ合辦ヲ得ムガ為メ鉄道ヲ合辦トナ

スペシト云フハ本末転倒ノ議論ナリ鉱山ノ合辦ハスル

形式ヲ執ラストモ我目的ヲ達スルコト左迄困難ナラス

現ニ支那側ニ於テハ鉱山合弁ハ主義上異存ナキ處ナリ

(鉱山条例ノ主義モ然リ) 鉱山合辦力左程難事ニアラ

ザルニ拘ラズ之力為メ最モ問題タル山東鐵道合辦案ヲ

持出スハ甚ダ解シ難キ所ナリ

(ロ) 山東鐵道ヲ本省案通リノ案トスルモ日支両國ノ出資ハ均等ニ付新鉱山提供ノ件ニ關シテハ陸軍側意見ニヨルト同一ノ結果ヲ得ヘク之力為メ合辦鐵道ヲ要求スルノ必要ナシ且此際新鉱山ノ提供ヲ求ムルカ如キコトハ何レノ案ニ從フモ実ハ困難ナル事ナリ

(ハ) 鐵路巡警問題ハ山東鐵道管理權ヲ支那ニ与フルモ鐵道財產ノ半分ハ日本ノ有ナルヲ以テ之力保護ノ任ニ当ル鐵路巡警ヲ全然支那側ノ任意ノ措置ニ一任スルコトナク相当ノ注文ヲ付スルコトハ理由ナキコトニアラス必スシモ巡警問題ノ為メ日支合辦ヲ主張スルノ必要ナシ

山東鐵道合辦ハ巴里講和會議以來帝國政府已定ノ方

ニアラサルヘキモ山東鐵道合辦ヲ規定セル日支條約ハ所謂西原借款ノ一部ニシテ論理上ノ効力問題ハ別トシテ同條約ヲ根拠トシテ合辦ヲ主張スルハ

世界ノ人心ニ appeal スル所以ニアラス

(四) 山東鐵道日支合辦ノ形式ニ依ラズトモ本省案ノ如ク實際ニ於テ同一ノ結果ヲ挙グルコトヲ得ルニ

於テハ上記ノ如ク大局上種々ノ難關アル合辦案ヲ固執スルノ理由アルコトナシ合辦案ヲ固執スルハ

結局實利問題ヲ離レ我已定方針ヲ固執セムトスル

形式論乃至体面論ニ外ナラズ果シテ然リトセバ若シ華府會議ノ大勢ニヨリ合辦案ヲ支持スルコト困難トナルカ如キコトアラハ日本自ラ進テ合辦ノ形

式ヲ変更スルニ比シ何レカ体面ヲ破ル所以ナリヤハ特ニ契説ヲ要セザルベシ

(五) 山東經營ノ主眼ハ山東省内ニアラズ山東鐵道ヲ基礎トシテ其ノ延長線及之ト聯絡スル諸鐵道ヲ利用シテ揚子江沿岸等深ク支那内地ノ富源ヲ開發スルニ在リ山東鐵道ノ如キハ此ノ意味ニテ利用スルヲ得レバ足ル次第ニシテ山東鐵道自体ノミノ形式

論ニ拘泥シ山東地方ノミノ開発ニ着眼セムトスル  
ハ大局ノ成算ヲ完ウスル所以ニアラズ

~~~~~

## 事項二 米国提議ノ对中国新借款團ニ関スル件

九〇 一月五日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

外交總長ニ対スル新四國借款團成立通告文並  
借款團規約及紐育會議決議ノ取扱方ニ關スル

件

附 記一 大正九年十二月二十九日在英國永井臨時代理

大使発内田外務大臣宛電報第一〇九三号

II 大正九年十二月二十日内田外務大臣発在英國

永井臨時代理大使宛電報第五七四号

III 大正九年十二月十八日永井臨時代理大使発内

田外務大臣宛電報第一〇八一号

IV 大正九年十一月二十五日内田外務大臣発永井

臨時代理大使宛電報第五三三号

V 大正九年十一月十九日永井臨時代理大使発内

田外務大臣宛電報第一〇〇四号

VI 大正九年十一月十九日内田外務大臣発在米國

幣原大使宛電報第五四一號

第三号

(註<sup>1</sup>) 往電第一三三五二号ニ閔シ米国公使ヨリ一月三日附書面ヲ以

テ本件米國側修正申出事項中丁ニ就キ米国政府ハ借款團規

11 米国提議ノ对中国新借款團ニ閔スル件 九〇

約並ニ紐育會議ノ決議全文ハ舊ニ銀行團側ヨリ財政交通兩  
總長ニ通告セシムルニ止マラズ本件成立通告文ニ添附シテ  
四國公使ヨリ外交總長ニ送致スグシトノ議ニ同意ナリ從ツ  
テ末段ノ字句ヲ

"The texts of the Consortium agreement above  
referred to and of the resolutions passed at the  
recent conference at New York have now reached  
Peking and are enclosed herewith for the informa-  
tion of Your Excellency. These texts are also being  
transmitted by the Group Banks to the Ministries  
of Finance and Communications."

ト改ムル事ヲ提議シ同時リ米国政府ハ支那政府ニ対シ決議  
全文ノ代リニ其ノ概要ヲ通告スベシトスル日本政府ノ提議  
ニ閔シ此ノ際單ニ決議ノ要領ヲ摘記スルノミニテハ不充分  
ニテ規約及決議全文ノ交附ヲ至シトスルノ意見ナリト申越  
セリ

然ルニ一月三日当館宴会ノ際英國公使館參事官ハ貴電第七